

但眞壁郡下館町現縣道分岐口ヨリ同郡養蠶村大字成田古里村大字桑山谷貝村大字下谷貝眞壁町大字飯塚熊鷹眞壁新治郡芦穂村大字上層柿岡町大字柿岡林村大字上林下林石岡町大字村上ヲ經テ今所大字石岡現國道ニ達スル路線

笠間町ヨリ平瀉港街道

但西茨城郡笠間町現縣道分岐口ヨリ同郡大池田村大字福田大橋東茨城郡西郷村大字下古内勝見澤石塚村大字石塚坪村大字下坪ニテ郡珂川ヲ渡リ郡珂郡戸多村大字下江戸靜村大字靜瓜連村大字瓜連ニテ久慈川ヲ渡リ久慈郡戸村大字松榮中野小嶋幸久村大字藤田佐竹村大字天神林稻木同郡太田町ニ達スル路線

福嶋縣柳倉町ヨリ東京街道

但久慈郡宮川村大字下野宮福嶋縣管轄境ヨリ全大字並ニ同村川山同郡大字町矢田ヲ經テ同町大字大字ニ達スル路線

山方村ヨリ郡珂港街道

但郡珂郡額田村大字額田南郷現縣道分岐口ヨリ同郡神崎村大字濱堀ヲ菅谷村大字菅谷ヲ經テ同郡佐野村大字田彦現國道ニ達スル路線
久慈町ヨリ東京街道

但久慈郡久慈町ニテ同町ヨリ郡珂港街道ヨリ分岐同郡坂本村大字南高野ヲ經テ同村大字大和田現國道ニ達スル路線
大中ヨリ平瀉港街道

但久慈郡小里村大字大中現縣道分岐口ヨリ賀美村大字折橋多賀郡高岡村大字大能中戸川同郡松原町大字秋山ヲ經テ同町大字安良川ニ達スル路線
栃木縣太田原町ヨリ平瀉港街道

但久慈郡佐原村大字左貫栃木縣管轄境ヨリ同大字並同村大字初原ヲ經テ同郡大字町大字上岡現縣道ニ達スル路線
栃木縣茂木町ヨリ平瀉港街道

但那珂郡長倉村大字野田初木縣管轄界ヨリ今大字並全村大字長倉現縣道ニ合シ口迄長倉ヨリ全郡野口村大字野口迄ハ從來ノ縣道ヲ重用シ大字野口ヨリ分岐全郡鹽田村大字三美玉川村大字若林ヲ經テ同郡大宮町ニ達スル路線
山方村ヨリ東京街道

但那珂郡山方村大字山万現縣道分岐口ヨリ同村大字野上同郡鹽田村大字照田玉川村大字東野大場村大字三美小野ヲ經テ那珂川ヲ渡リ東茨城郡澤山村大字阿波山現縣道合シ口迄阿波山ヨリ同郡石塚村大字石塚迄ハ從來ノ縣道ヲ重用シ大字石塚ヨリ分岐西郷村大字下青山小松村大字増井上入野山根村大字木葉下谷津中妻村大字牛伏黒磯下中妻村大字中原杉崎内原小林鯉淵村大字鯉淵高田長岡村大字大戸ヲ經テ全村大字小鶴現國道ニ達スル路線
石塚村ヨリ銚子港街道

但東茨城郡川根村大字奥ノ谷ニテ現國道ヨリ分岐鹿嶋郡沼前村大字小堤駒場神宿海老澤城ノ内徳宿村大字船木巴村大字下富田鳥ノ栖新田徳宿村大字

秋山飯名銚田町大字塔ヶ崎ヲ經テ銚田町ニ達スル路線

銚田町ヨリ銚子港街道

但鹿嶋郡銚田町大字銚田現縣道ヨリ分岐同郡新官村大宮煙田安塚上嶋村大字二重作槌山白鳥村大字阿山札江川上幡木大同村大字志崎武井津賀和柵本中野村大字奈良毛豊郷村大字沼尾須賀ヲ經テ鹿嶋町大字宮中へ達スル路線
札ヨリ東京街道

但鹿嶋郡白鳥村大字札ヨリ北浦ヲ渡リ行方郡津澄村大字山田武田村大字内宿兩宿次木小貫ヲ經テ行方郡大字玉造ニ達スル路線
穴戸町ヨリ銚子港街道

但西茨城郡穴戸町現縣道分岐口ヨリ同町大字橋爪矢ノ下全郡北川根村大字仕吉湯崎長兔路仁古田南川根村大字木部東茨城郡堅倉村大字前後新田橋場美新田小幡ヲ經テ全村西郷地現國道ニ達スル路線
岩井村ヨリ那珂港街道

但猿嶋郡神大實村大字神田山現縣道ヨリ分岐全村大字猫實大口豊田村大字
豊岡ヲ經テ全郡水海道町ニ達スル路線

江戸崎町ヨリ銚子港街道

但信太郡江戸崎ニテ全町ヨリ東京街道ヨリ分岐同町並河内郡高田村大字高
田ヲ經テ同郡阿波村大字神宮寺ニ達スル路線

阿波村ヨリ東京街道

但河内郡大須賀村大字幸田現縣道分岐口ヨリ同村大字中嶋福田清水町田市
崎同郡高田村大字桑山太田村大字堀川下太田柴崎大字柴崎狸穴角崎中山ヲ
經テ全郡根本村大字下根本ニ至リ江戸崎町ヨリ東京街道ニ達スル路線
千葉縣安食町ヨリ那珂港街道

但河内郡生板村大字龍崎丁步下利川河岸ヨリ同村大字生板北相馬郡東文間
村大字嘉納新田人會ヲ經テ河内郡大宮村大字大徳現縣道ニ達スル路線

高濱町ヨリ銚子港街道

但新治郡高濱町大字高濱現縣道分岐口ヨリ同郡田余村大字高崎上玉里村ヲ
經テ東茨城郡小川町大字小川ニ達スル路線

石岡町ヨリ銚子港街道

但新治郡石岡町大字石岡現國道ヨリ分岐同郡高濱町大字東大橋東田中田余
村大字栗又四個上玉里東茨城郡小川町大字小川下馬場小嶋橋村大字幡谷山
野外ノ内與澤行方郡現原村大字芹澤ヲ經テ同郡秋津村大字借宿ニ至リ土浦
町ヨリ那珂港街道ニ達スル路線

筑波町ヨリ東京街道

但筑波郡筑波町大字筑波里道標ヨリ全郡田井村大字白井神郡北條町大字北
條泉新治郡田水山村大字山水大徳村大字前野長高野筑波郡旭村大字今鹿嶋
高野百家沼崎嶋名村大字鬼ヶ窪嶋名真瀬村大字真瀬小張村大字小嶋新田善
介新田谷田部町大字片田板橋村大字板橋三嶋村大字福原上嶋中嶋谷井田村
大字谷井田三嶋村大字山王新田ニテ小貝川ヲ渡リ北相馬郡山王村大字山王

和岡同郡寺原村大字寺田井野村大字井野ヲ經テ同郡取手町大字取手現國道ニ達スル路線

柿岡町ヨリ平瀉湊街道

但新治郡柿岡町ニテ下館町ヨリ銚子湊街道ヨリ分岐同郡瓦會村大字瓦谷野田佐久林村大字浦賀片岡嘉良壽理園部村大字柴間宮ヶ崎山崎眞家ヲ經テ同村大字東成井現縣道ニ達スル路線

朽木縣茂木町ヨリ下館停車場街道

但眞壁郡河間村大字奥田小栗村大字小栗入會朽木縣管轄堺ヨリ右兩大字并河間村大字羽方大關竹嶋村大字川澄市野邊稻野邊ヲ經テ下館町停車場ニ達スル路線

山方村ヨリ郡珂湊街道

但郡珂山方村大字山方ニテ大子町ヨリ東京街道ヨリ分岐同大字ヨリ久慈郡金砂村大字下宮河内迄ハ朽木縣鳥山町ヨリ平瀉湊街道ノ現縣道ヲ重用シ

大字下宮河内ヨリ分岐金砂村大字赤土上利員金郷村大字下利員高柿大方ニテ大宮町ヨリ平瀉湊街道現縣道ニ接シ大字大方ヨリ久米村大字久米迄ハ同街道ヲ重用シ大字久米ヨリ分岐同村大字大里幸久村大字藤田ヲ經テ同村大字上川合本縣ヨリ福嶋縣街道ノ現縣道ニ達スル路線

額町村ヨリ内原停車場街道

但郡珂額田村大字額田南郷ニテ本縣ヨリ福嶋縣街道ヨリ分岐同大字芳野村大字鴻ノ巢飯田戸多村大字戸ニテ郡珂川ヲ渡リ東茨城郡飯富村大字岩根ヨリ同村大字藤井迄ハ朽木縣鳥山町ヨリ郡珂港街道ノ現縣道ヲ重用シ大字藤井山根村大字成澤全隈中妻村大字田嶋大足ニテ本縣ヨリ埼玉縣街道現縣道ニ接シ同大字ヨリ下中妻村大字杉崎迄ハ同街道ヲ重用シ大字杉崎ニテ分岐同村大字内原停車場ニ達スル路線

朽木縣茂木町ヨリ岩瀬停車場街道

但西茨城郡西郡珂村大字大泉朽木縣管轄堺ヨリ同村大字飯淵久原北郡珂村

大字富谷ヲ經テ西郡珂村大字岩瀬停車場ニ達スル路線

小瀬村ヨリ東京街道

但郡珂郡小瀬村大字上小瀬里程標ヨリ全村大字下小瀬郡珂野口村大字門井

野口ヨリ朽木縣烏山町ヨリ郡珂港街道現縣道ニ達スル路線

小瀬村ヨリ郡珂港街道

但郡珂郡小瀬村大字上小瀬里程標ヨリ同郡鹽田村大字糠子玉川村大字東野

八田ヲ經テ大宮町ニテ大子町ヨリ東京街道現縣道ニ達スル路線

○土木費所屬區域 明治二十年十月十三日縣令甲第六十四號

土木費所屬區域左之通相定ム

土木費所屬區域

第一條 國縣道及之ニ架スル橋梁ハ市町村ノ所屬トス

第二條 里道及之ニ架スル橋梁費ハ町村費ノ所屬トシ歩合ヲ以テ地方税ヨリ補助

スルモノトス

但歩合ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 左ノ二港修築及三浦十五川ノ河身改修及治水堤防費ハ地方税ノ所屬トス
明治廿八年十二月廿三日縣令第六十三號及三十年十二月十六日縣令第六十三號改正

郡珂港 平瀨港

霞浦

浪逆浦

北浦

鰐川

利根川

赤堀川

逆川

中刀根川

北刀根川

權現堂川

渡良瀬川

思川

鬼怒川

郡珂川

小貝川

久慈川

下利根川

新利根川

第四條 左ノ二沼十三川ノ治水堤防費ハ町村費ノ所屬トシ其工事ニ依リ地方税ヨリ補助スルモノトス但補助ノ割合ハ別ニ之ヲ定ム

牛久沼

酒沼

八間川

勤行川

上小貝川

櫻川

里川

酒沼川

戀瀬川

山田川

押川

小川

大谷川

田川

第五條 市町村費又ハ組合費ニ屬スル樋管堰埭及ヒ舟筏ヲ通スル爲メ水踏並ニ舟

沼新設改修ノ修築費ハ地方税ヨリ制限ヲ以テ補助スルモノトス

明治三十年十二月十六日縣令第五十三號改正

○郡市町村土木補助費支出規程 明治卅年十二月十六日告示第四百號

郡市町村土木補助費支出割合左ノ通相定ム

郡市町村土木補助費支出規程

第一條 郡市町村ノ土木事業ニ對シ縣稅ヨリ補助スルトキハ本規程ニ依ル

第二條 左ノ二沼十三川ノ治水堤防費ハ關係町村ノ地價金千圓ニ付金六十八錢迄

ヲ町村ノ支辨トシ之ニ超過スル金額ヲ補助スルモノトス

牛久沼 酒沼 勤行川 上小貝川 櫻川

里川 酒沼川 戀瀬川 山田川 押川

大北川 小川 大谷川 田川 八間川

第三條 舟筏ヲ通スル爲メ水路並ニ舟溜ヲ新設改築ノ事業ニ對シテハ其工費總額

ノ十分ノ五以內ヲ補助スルモノトス

第四條 里道(野徑樵路耕作道ヲ除ク)ニ屬スル橋梁費ハ左ノ制限ニ依リ補助スル

モノトス

板橋石橋

面積四坪未満ハ市町村ノ負擔

同四坪以上八坪未満ハ市町村ノ負擔ニ超過スル工費ノ十分ノ六

同八坪以上十六坪未満ハ同十分ノ七

同十六坪以上全十分ノ八

土橋

面積六坪未満ハ市町村ノ負擔

同六坪以上十二坪未満ハ市町村ノ負擔ニ超過スル工費ノ十分ノ六

同十二坪以上二十四坪未満ハ同十分ノ七

同二十四坪以上ハ同十分ノ八

第五條 里道新設及在來ノ里道ニシテ必要縣道ニ亞クモノハ其市町村ノ大小工費

ノ多寡ヲ酌量シ其総額ノ十分ノ五以内ヲ補助スルモノトス

第六條 市町村ニ屬スル樋管堰埭ノ修築費ハ其地價金千圓ニ付金十二圓五十錢迄

ハ其市町村ノ負擔トシ之ニ超過スル工費ノ十分ノ七以内ヲ補助スルモノトス

第七條 縣稅ヨリ補助ヲ受クル工事ニシテ許可ノ日ヨリ二ヶ月以内ニ起工セサル

モノ又ハ許可ノ期限内ニ竣工セサルモノ及其出來形不完全ニシテ設計ニ適合セ

サルモノハ補助金ヲ支給セサルコトアルヘシ

第八條 本規程ハ市町村内ノ大字並ニ町村組合水利組合ニモ之ヲ適用ス

○都市町村土木補助費支出規程取扱手續

明治三十一年二月十四日
告示第五十三號

都市町村土木補助費支出規程ニ關スル取扱手續左ノ通相定ム

都市町村土木補助費支出規程取扱手續

第一條 都市町村土木補助費支出規程ニ依リ補助ヲ受ケントスルモノハ毎年五月

三十一日限り左ノ書類ヲ添付シ出願スヘシ

但シ災害備ノ爲メ臨時起工ヲ要スルモノハ其都度出願スヘシ

一 都市町村又ハ組合會ノ決議書寫

一 工事實測圖面 但樋管橋梁等ハ構造圖面

一 工事仕様設計書

第二條 補助工事ニシテ潰地ヲ要スルキハ官有地ニ係ルモノハ一筆限り都市町村

大字字番號臺帳面反別並ニ潰地調書三斜間數ヲ記入シタル實測圖面又民有地ニ

係ルモノハ一筆限り都市町村大字字番號臺帳面反別地價金及潰地反別買收金額

並ニ地主ノ承諾書ヲ添付スヘシ

第三條 補助額ニ對シ査定額ヲ指示セラレタルトキハ更ニ都市町村又ハ組合會ノ

決議ヲ經テ其決議書寫ヲ差出スヘシ

第四條 補助工事ニシテ中途變更ヲ要スルトキハ出願許可ヲ受クヘシ此場合ニ於

テハ更ニ第一條乃至第三條ノ手續ニ依ルヘシ

第五條 補助工事ニ要スル諸色等ハ使用前ニ届出テ検査ヲ受クヘシ若シ検査ヲ經

テシテ使用シタルモノアルトキハ之レカ手直シヲ命スルハ勿論場合ニ依リ全部

ノ改造ヲ命スルヲアルヘシ

第六條 補助工事ニシテ竣工シタルトキハ七日以内ニ出來形精算帳ヲ添へ届出ツ
ヘシ

第七條 補助工事ニ關シテハ臨時吏員ヲ派遣シ收支ニ關スル諸帳簿並ニ証據書類
ヲ検査スルヲアルヘシ

○河港道路橋梁樋管堰埭修築手續 明治廿一年二月九日縣令甲第十八号
河港道路橋梁樋管堰埭修築手續左之通相定メ明治廿一年四月一日ヨリ施行ス

但明治十六年六月乙第六十六号全明治十八年四月甲第卅一号布達ハ廢止ス
河港道路橋梁樋管堰埭修築手續

第一條 明治廿年縣令甲第六十四號第一條第三條第四條ノ河港道路橋梁ハ縣廳之
ヲ管理シ第二條第六條第七條ノ河港道路橋梁樋管堰埭ハ戶長役場又ハ管理者ノ
管理トス

第二條 縣廳管理ニ係ル道路ニシテ其溝渠宅地村ノ一方ニ設ル土留並用惡水路

樋類ニシテ開閉ヲ要スルモノハ戶長役場ノ管理トス

第三條 縣廳管理ニ屬スル道路橋梁及港灣堤防川除等ノ小破ハ地元町村ノ戶數一
戶ニ付人夫五分諸色代金壹錢ニ止ル修繕ハ其町村ニ於テ負擔ス可シ

第四條 地方税ノ補助ヲ受ントスルモノハ圖面及設計書ヲ添へ前年四月三十日限
リ郡役所ヲ經由開申スヘシ 明治二十八年十月十六日縣令第四十七号改正

第五條 前條地方税ノ補助ヲ受ントスル土功ニシテ二(戶長役場)ノ所管ニ涉ルモ
ノハ所轄郡役所ニ於テ設計帳ヲ製シ其三郡ニ涉ルモノハ郡長連署テ以毎年四
月三十日限開申ス可シ

但本文ノ場合ニ於テハ所管(戶長)ハ開申期限前連署ヲ以テ郡役所ニ申出ヘシ
第六條 第四條ニヨリ起ス工事ハ縣廳ヨリ査定スル所ノ設計帳ニヨリ起功シ竣業
後十日以内ニ届出検査ヲ受ク可シ

但事宜ニヨリ縣廳ニ於テ管理スル事アル可シ

第七條 縣廳主管ノ港灣修築河川治水堤防修築ハ(戶長役場)ニ於テ所付帳ヲ製シ

毎年四月三十日限郡役所ヲ經由開申スヘシ但急破ハ其時々本條ニ準スヘシ

第八條 縣廳主管ノ河港道路橋梁等ヲ町村費若クハ寄付金ヲ以テ修築セントスル

キ及新ニ橋梁ヲ架設セントスルキハ工費設計帳ニ圖面ヲ添ヘ其町村費ニ係ルモ

ノハ(戸長)ヨリ上申寄付ニ條ルモノハ寄付金ヨリ出願許可ヲ受ク可シ

但(戸長役場)主管ノ道路橋梁等ヲ寄付金ヲ以テ修築セントスルキハ其役場

ニ出願ス可シ

第九條 (戸長役場)主管ノ堤防川除並ニ橋梁ノ急破修築ニシテ地方税ノ補助ヲ受

ントスルモノハ着手ト共ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

第十條 河港道路橋梁修築等ノ爲メ地所全圖若シハ其材料ヲ寄付セントスルキハ

地所ハ毎町村一筆限リ字番號反別(反米反麥)地價地租材料ハ品目廉限リ相當代

價ヲ附記シ其工事主管ノ所へ出願スヘシ

第十一條 (戸長役場)管理道路堤防ノ修築及橋梁ノ換修ト雖モ利害ノ他町村ニ及

フモノハ其事由ヲ詳記シ明細ナル圖面ヲ添ヘ所管郡役所ニ伺出指揮ヲ受ク可シ

第十二條 私費ヲ以テ新ニ橋梁ヲ架設シ工費消却ノ爲メ橋錢ヲ要スルキハ其工費

明細書ニ年限債額等詳記シ關係町村ノ承諾書ヲ添ヘ居住地(戸長)ノ外地元(戸

長)ノ奥書ヲ以テ出願許可ヲ受クヘシ

第十三條 堤塘ニ係ル用悪水路ノ樋管道路ニ係ル自己使用ノ溝渠蓋等ノ修繕ハ其

管理ノ官廳ヨリ特ニ之ヲ命スル事アル可シ

第十四條 自己使用ノ水吐及水車其他營業ノ爲メ道路ヲ開鑿セル渠溝ニハ必ス私

費ヲ以テ橋梁又ハ溝蓋ヲ設ケ時々修繕ヲ加フヘシ

第十五條 第十二條第十三條ノ修理ヲ怠ルキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ弁セシム

ルコアルヘシ

○土木工事竣功上申之件 明治十六年五月廿六日本乙第 三十四號

河港道路橋梁其他土功竣業ノ節ハ該工費殘金下渡前ニ於テ出來形精算帳及附屬

書類圖面等相添ヘ別紙書式ニ準シ其主任者ヨリ上申可致此旨相達候事

(別紙)

何々事業竣成之義上申

明治何年度之起工ニ係ル何川通外何ノ川治水（國縣里何等何街道何郡何町何ノ村道路改修々々繕橋梁架換修繕或ハ何港何々）事業竣成ニ付則別冊出來形精算帳及一村限金高帳（變換等ノ事業ニシテ潰地ニ關スルモノハ其反別及地價金減租等一筆限リ取調實測圖ヲ添附スヘシ）相添ヘ此段上申候也

年 號 月 日

長 官 宛

官 姓 名 印

○道路掃除規則 明治廿一年二月九日縣令甲第十九號

道路掃除規則左ノ通相定明治廿一年四月一日ヨリ施行ス

但街路取締規則施行ノ場所ハ該規則ニ由ル可シ

道路掃除規則

第一條 道路ノ掃除及下水ノ排除ハ其町村及沿道町村ニ於テ之ヲ負担シ毎年四回以上執行ス可シ但暴風雨ノ後ハ恆例ニ拘ハラヌ其時々掃除シ並木損木道路橋梁等ノ破壊ヲ見認タルキハ直ニ其（戸長役場）ニ申告スヘシ

第二條 掃除ハ各町村受持區域ヲ定メ國縣道ハ其標柱（四五寸角高六尺以上）受持境界ニ建設シ町村名及掃除丁數ヲ登記ス可シ

第三條 路面ヲ掘鑿シテ用水又ハ下水ヲ疏通シ及田地等ノ土砂ヲ路上ニ堆積ス可ラス

第四條 道路中凡道砂利減抑掘ミ等ノ小破アルトキハ最寄人民ニ於テ土砂ヲ湊合シテ適宜修理ス可シ

第五條 道路ニ接スル山林及ヒ宅地内ノ樹木竹篠等路上ノ障害ヲナスモノハ毎年春秋兩度其所有主ニ於テ木障打ス可シ

第六條 前條所有主ニシテ之ヲ履行セサルトキハ官ニ於テ木障打シ其費用ハ所有主ヲシテ之ヲ償ハシム

第七條 並木倒木等通行ノ妨碍有キハ最寄人民ニ於テ戸長役場ニ申告シ其指揮ヲ受ケ掃除ス可シ

第八條 並木敷ニ生スル雜草ハ掃除受持町村限毎年二回艾除シ兼テ野火ノ延燒ヲ

防ク可シ

○營繕事務取扱例規 明治十九年十一月廿七日縣令丙第三十五號
明治十八年甲第五十四號達營繕事務取扱例規左ノ通改正ス

營繕事務取扱例規

第一條 營繕費一廉金十圓以上ニ涉ル工事ハ目論見帳ヲ添ヘ伺出ヘシ

但起工上ノ都合ニ據リ目論見金尙テ限リ仮渡スルコトアルヘシ

第二條 營繕費一廉金十圓以内ニシテ(郡長特委任條件第四十八項ニ係ルモノヲ

云)郡役所限リ決行スル工事落成ノ上工費仕拂ヘキ時ニ臨ミ精算帳ヲ添ヘ請求

スヘシ

第三條 建築修繕仕様目論見(精算)帳別紙書式ニ據リ調製スヘシ

第四條 建家坪數ニ増減ヲ生シ又ハ變更ニ係ル修繕ハ工費ノ多寡ニ拘ハラズ伺出

ヘシ

第五條 許可セシ工事着手后廉増模樣替等ノ増費ハ請求スルヲ許サズ

第六條 工事ノ都合ニ據リ縣廳ヨリ係員出張監督スルコトアルヘシ

(用紙通常半紙)

何年何月

何々新設(修繕)工費目論見(精算)帳

何郡役所

何々建築(建繼)(修繕)工費目論見(精算帳)

一桁行何間
一梁間何間

和樣造(西洋模造)

何々家根小棟造(切妻)何々

但築常平家或ハ幾分二階建又ハ西洋模造屋根本棟又ハ小棟或切妻高配何々

右仕様地盤水盛地所高低地堅メ礎何石ヲ用ヒ土臺木品何長何間何寸角柱木品何

長何間何寸角格子木品何長何間何寸角桁梁木品何長何間中何尺厚何寸ヲ用ニ何

々

一金

但建坪何程一坪ニ付金何程

何々建築(建繼修繕)費

内譯

金何程

但此工敷何人一坪何人掛り

大工賃

金何程

内

鐵物方

何本

代金何程

何々ニ打

正何寸釘

何個

代金何程

何々ニ用

何々鐵物

金何程

内

家根方

何坪何合葺足何寸(何押縁何尺間打)

代金何程

杉柿 葺

何坪

代金何程

全上

栗板 葺

何坪

代金何程

全上

杉土居 葺

何坪

代金何程

全上

杉皮 葺

金何程

内

瓦方

何坪何合

代金何程

同上

棧瓦 葺

何坪

代金何程

同上

本瓦 葺

何間何尺何寸

代金何程

但壹坪ニ付金何程

何間

代金何程

三篇 棟

金何程

内

壁方

何坪

代金何程

木舞ヨリ荒壁中途
何々上塗何塗

何壁

但壹坪ニ付金何程

何坪 棧瓦本葺 總 漆 喰
 代金何程 但壹坪ニ付金何程
 長何間 五篇(三篇)棟漆喰全上 軒 先 漆 喰
 代金何程 但壹間ニ付金何程
 長延何間 何枚通り 踏 下 添 喰
 代金何程 建 具 方
 内
 何枚 長何程巾何程 硝 子 障 子
 代金何程 但壹枚ニ付金何程
 (長巾其他同一ナラサルモノハ一廉毎ニ別記スヘシ以下毎同シ)
 何枚 全上 何 々 戸
 代金何程 但壹枚ニ付金何程
 何枚 全上 何 々 障 子
 代金何程 但壹枚ニ付金何程
 金何程 數 物 方
 内
 何枚 新床工何通り 何 表 蠟

代金何程 但壹疊ニ付金何程
 何枚 表 換
 代金何程 但壹枚ニ付金何程
 何坪 何 數 物
 代金何程 但壹坪ニ付金何程
 内
 (石ノ名稱ハ使用品名ノ上ヘ冠スヘシ即土臺下敷石ノ例左ノ如シ)
 長何程 巾何尺何寸成イ何寸 土 御 影 臺 下
 代金何程 岩 船 敷 石
 何個 横差渡何尺成イ何寸 丸 礎 石
 代金何程 但壹間ニ付金何程
 何坪何合何勺 何 々 敷 石
 代金何程 但壹坪ニ付金何程
 金何程 人 夫 方
 内

人夫何千何百何拾何人

内

但壹人ニ付金何程

何人

大工手傳人夫

何人

地形人夫

何人

何々

金何程

木材代々

内

何本

何長何尺

何寸角

是ハ何々ニ用

代金何程

何長何尺

但壹本ニ付金何程

何本

何長何尺

何寸角

是ハ何々ニ用

代金何程

何枚

何板長何尺 巾何尺 厚何寸何分

但壹本ニ付金何程

是ハ何々ニ用

代金何程

何長何尺 巾何寸 厚何寸何分

但壹枚ニ付金何程

是ハ何々ニ用

代金何程

但壹挺ニ付金何程

何本

何或ハ何(丸太長何間 末口何寸)

是ハ何々ニ用

代金何程

但壹本ニ付金何程

金何程

諸雜費

内

金何程

足場損料

是ハ長丸太何本(步枚何枚)借上一本ニ付金何程

金何程

何々運送賃

是ハ木材何駄何所ヨリ何所マテ一駄ニ付金何程

金何程

何々

是ハ何々

(以下總テ右ニ做ヒ列記スヘシ)

一何舍

(平家ニ階家混合セシキノ例)

内

桁行何間

西洋模造二階家

梁間何間
桁行何間
梁間何間

家 根 何 々
和洋造平家
全 上

右仕様書前ニ倣ヒ詳細記載スヘシ
一金何程

何々建築(修繕)費

但平家建坪何程一坪ニ付金何程ニ階家上下建坪何程一坪ニ付金何程合建
坪何程平均一坪ニ付金何程

(以下内譯總テ前ニ同但大工掛リハ平家トニ階家トヲ區分スヘシ)

一明キ何間何尺高何間何尺 何ヶ所 何形何門新設(修繕)

附テ 明キ何程 高サ何程 小 門

右仕様書前ニ倣ヒ詳細記載スヘシ
一金何程

何門何々費

(内譯總テ前ニ同シ)

板塀土臺付又ハ塀建新設修繕

一長延何間 高何尺何寸

右仕様書前ニ倣ヒ詳細記載スヘシ
一金何程

塀板新設(修繕)費

内譯總テ前ニ同シ

一長延何間
高何尺何寸

角柵丸太柵新設修繕
但土臺据(堀立)裏板打(吹抜)

右仕様書前ニ倣ヒ詳細記載スヘシ
一金何程

何柵建設(修繕)費

内譯總テ前ニ同シ

一深何丈何尺口差渡何尺何寸 何ヶ所

井戸新設(修繕)費 但桶岩石側

右仕様書前ニ倣ヒ詳細記載スヘシ

井戸何々費

一金何程

内譯

人 夫 賃

人夫何人

但一人ニ付金何程

但井戸新壁側積立(修繕)等之分

何個

桶 側

此金何程

但一個ニ付金何程

面積何坪

岩 (石) 側

此金何程

但一坪ニ付金何程

一長何間何尺 横何間何尺

水流ヲ新設(修繕)

右仕様書前ニ倣ヒ詳細記載スヘシ

一金何程

水流ノ何々費

(内譯總テ前ニ同シ)

一軒長何程 流打越何程 高何程

何ヶ所井戸屋根新設

右仕様書前ニ倣ヒ記載スヘシ

一金何程

井戸屋形何々費

(内譯總テ前ニ同シ)

右之通相違無之候也

年 號 月 日

郡 長 姓 名 印

○郡廳舎修繕着手ノ件 明治十七年八月二日郡甲第七十號

各廳專決ニ係ル郡廳舎修繕中僅々日數内ニ於テ同種類ノ工事ヲシテ數ヶ所ニ分列着手シ金圓請求ノ向有之不都合ノ次第ニ候條自今右様ノ義無之様厚ク注意可致此旨相達候事

○豫定外ノ建築修繕經伺ノ件 明治二十三年十二月廿五日訓令第二九號 (郡)

郡廳舎建築修繕費豫算内豫定外ノ建築修繕ヲ要スル場合ハ仮令豫算内ヲ以テ支

辨シ得ルト雖トモ二十三年度以降ハ經伺ノ上施行スヘシ

○町村費土木工事出願ノ件 明治十六年六月廿五日乙第六十六號

町村費ニ係ル堤防道路橋梁樋堰等ノ工事ハ自今左ノ區別ニ從ヒ出願スヘシ此旨布達候事

一町村費ニ係ル堤防道路橋梁樋堰等ノ修繕ハ郡役所へ出願スヘシ

一新設又ハ舊態變更ニ係ルモノハ縣廳へ出願スヘシ

○土木工費拂渡方手續 明治廿五年六月廿六日縣令第一〇號

本縣土木工事ニシテ直轄起工ノ工費ハ自今別紙手續ニ依リ郡市役所ニ於テ渡方取計フヘシ

土木工事渡方手續

第一項 直轄ヲ以テ起工シタル土木工費ハ左ノ項目ニ據リ取扱フヘシ

第二項 工事擔當員ハ日々使役スル人夫ノ姓名及豫メ其等級ヲ記シ置人夫賃請求ニ際シ調査ノ用ニ供スヘシ

第三項 工事擔當員ハ人夫賃其他拂渡スヘキ金額ヲ豫定シ書式第一ニ依リ請求書ヲ製シ(内務部第二課)ヘ差出スヘシ同課ハ更ニ其當否ヲ檢按シ支出ノ發議ヲスヘシ

第四項 前項金圓ハ所在郡長ニ前渡金トシテ(内務部第四課)ヨリ回送スヘシ

(明治二十九年九月二十八日訓令乙第三五三號改正)

第五項 一工事ニシテ一回ニ拂渡ヲナス場合ハ本廳ニ於テ直チニ仕拂ヲナスコトアルヘシ

但縣廳直拂ニ係ルモノハ工事擔當員ニ於テ本人ノ請求書相添(内務部第二課)ヘ請求スヘシ

第六項 工事擔當員ハ書式第二ニ依リ仕拂通知書ニ金員及請取人姓名事田等ヲ記シ請求ノ時ニ正當請取人ニ渡スヘシ

第七項 郡長ハ仕拂通知書ヲ受取リタルキハ第八項ノ通報ト對查シ其付合ヲ認メタル上仕拂ノ手續ヲナスヘシ

仕拂通知書ノ通報ト付合セサルキ又ハ通報ノ到達セサルキハ仕拂ヲ得ス

(明治廿九年九月廿八日訓令乙第三五三號改正)

第八項 工事擔當員ハ仕拂通知書ヲ發スルニ先チ一人別渡金圓及工場地名等ヲ郡長ヘ通報スヘシ

第九項 工事擔當員ハ一工事ノ完了スル毎ニ切付振出總額及工事竣功ノ旨ヲ郡長ニ報告スヘシ

第十項 郡長ハ第九項ノ報告ヲ受ケタルキハ受拂ヲ精算シ書式第四ニ依リ殘金ノ還納ヲナスヘシ

第十一項 郡長ハ殘金還納ト同時ニ書式第三ニ依リ仕拂通知書ヲ添一工事張り工事擔當員ヘ精算ノ報告ヲナスヘシ

第十二項 工事擔當員ハ一工事ノ完了スル毎ニ第三項請求金高ト郡長受拂精算報告書ニ對照シ其報告ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ(内務部第二課)ヘ差出スヘシ

第一書式

何々工費請求書

設計高

一金何程

何 郡 長 某 渡 分

内(二大字以上ニ係ルモノハ内譯ニ明記スヘシ)

金

人 夫 賃

金

諸 色 代 其 他

外

金何程

〔初度請求ハ此所ニ廻テ
可受取ト記スヘシ〕

内

受 取 濟

金

廻テ可受取分

(二回請求ヨリ此内譯ヲ記ス)

右何街道(一大字ノ節ハ郡村名ヲ記ス)何々費御渡有之度候也

但何郡役所へ回金相成度候

年 月 日

官 姓 名

長 官 宛

第二式

面 表

明治 年 月 日	日仕拂	渡人
第 號	第 號	拂渡人
一金〇〇	但	一金〇〇
右金圓拂渡方御取計有之度候也		
明治 年 月 日	官 職	氏 名 印
郡長 殿		

(此通知書ヲ受クルモノハ裏ノ函趣ヲ心得ラルヘシ)

裏面

一此通知書ヲ郡長ニ差出シ現金拂渡方ヲ要求スヘシ
 但要求期限ハ記載ノ日ヨリ向十日ヲ限リトス
 一此通知書所持人ニ於テ萬一之ヲ紛失シタルトキハ速ニ番
 號及金圓ヲ記載シタル書面ヲ以テ表面ニ記載シタル出張官
 吏へ申出ヘシ

第三式

何々工費受拂報告書

一金何程

内

金何程

請取高

仕拂高

差引付何程

但切付何葉

右殘金何月何日本縣へ還納濟ニ付切金相添及報告候也

年月日

郡市長姓名

何出張所官姓名殿

第四式

何々工費受拂殘金還納

一金何程

内

金何程

金何程

一金何程

請取高

(送金報知ノ月日)

何月何日

仕拂高

此証書何通何誰外人分何月何日進達濟

差引殘金何程

右何々工事竣功ニ付拂殘金還納候也

年月日

郡市長姓名

長官宛

○町村費ヲ以テ起工セシ工事金高帳書式

明治十九年十月十六日(郡) 縣令丙第廿四号

河港道路橋梁總管堰塘沼井等ノ工事ニシテ其町村限リ町村費ヲ以テ起工セシ金
 高帳差出方ノ義明治十四年十二月郡甲第百五十号ヲ以テ相達置候處右書式別表
 ノ通改正候條一周年度取纏メ其年六月三十日限リ差出スヘシ

里道修築之部

郡名	個數	坪數	町村費	寄附金	協議費	合計
新開修繕	個數	坪數	町村費	寄附金	協議費	合計
里道橋梁之部	橋梁ノ架換修繕	町村費	寄附金	協議費	合計	

溜池堰埭溝渠開及樋修築用水ノ部(上同) 志金アラハ區畫ヲ設ケ記入スヘシ

郡名	個數	溝渠	町村費	寄附金	協議費	合計
同上放水之部	(全上)	(全上)	溝渠及樋	町村費	寄附金	協議費

○町村費ヲ以テ起工セシ工事金高帳調製ノ件

明治二十年三月二十日縣令丙第二十七號

河港道路橋梁樋管堰埭溜井等ノ工事ニシテ其町村限リ町村費ヲ以テ起工セシ金高表指出方ノ義明治十九年十月丙第二十四號相達置候處人口三千以下群居セル町村ニ係ルモノハ表中郡名ノ次へ町村名ノ一區ヲ設ケ別表ニ調製差出ヘシ

○町村費ヲ以テ起工セシ工事金高帳調製ノ件

明治二十六年五月三十日訓令乙第七四號(郡、市)

明治十九年(十月)縣令丙第二十四號河港道路橋梁樋管堰埭溜井等ノ工事ニシテ町村費ヲ以テ起工セシ工事金高表書式ノ内篤志金ノ欄ヲ削リ寄付金協議費ノ二欄ヲ設ケ候條協議費ノ欄ニハ地方稅市町村費ニ屬スヘキ工事ニシテ舊慣ノ協議金右クハ篤志者ノ自費又ハ馬車鐵道會社等ノ出金ニシテ市町村へ收入セサル金額ヲ以テ施行シタルモノヲ記入差出スヘシ

○諸測量標及其他ノ榜標識毀棄移轉汚損者處罰ノ件

(明治二十七年八月十日縣令第三十三號)

河海又ハ陸地ニ建設セシ諸測量標及其他ノ榜標標識ヲ毀棄若シハ移轉シ又ハ汚損スヘカラス犯スモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ十錢以上二圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

○河川護岸ノ柵杭ニ繫船等嚴禁ノ件 明治十一年六月四日丁第七十四號 利根川流域各川ノ堤防時々洪水ノ爲メ及破壞民費謀出モ不撓候ニ付ケレツク水行チ直ニシ川底ヲ深フシ堤塘ノ破壞ヲ防ク具ナリ 及ヒ護岸ノ柵杭等官費築造ノ際ニ候處動モスレハ右護岸ノ柵杭ニ船ヲ繫キ或ハケレツク上ニ於テ荷物取扱又ハ魚獵ヲ成ス者間々有之夫カ爲メ損害不少候ニ付自今右様ノ所業於有之ハ嚴重ノ處分可及候條船持川岸荷魚獵等營業人ニ無洩可達此旨相達候事

○河川ケレツク堤腹等歩行禁止ノ件 明治廿年八月四日乙第百卅號 客歲(五月)縣廳丁第七十四號ヲ以テ利根川流域鹿桑工施設所ニ於テ漁民或ハ船舟ヲ繫ク等ノ儀嚴禁ノ旨相達候ニ付テハ漁魚繫船ニ限ラス該所歩行ノ如キハ勿論禁止ノ等ニ候處ケレツク上及護岸ノ堤腹ヲ歩行スルモノ往々有之趣不都合ノ

至リニ候條右等心得違ノ所業無之様一層注意可致此旨布達候事

但千葉縣下ノ儀モ魚桑工施設所ニ於テ漁魚及繫船等禁止候旨通知ニ付本支同様可相心得事

○河川沼湖ヲ堰止メ堤塘築造セントスルモノ出願ノ件

明治二十八年四月廿九日縣令第十九號

河川沼湖ヲ堰止メ又ハ堤塘ヲ築造セントスル者ハ其旨圖面及設計書ヲ添へ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○河川水利障害者相當處分ノ件 明治廿年十二月十二日訓令第八十三號 川々水利保護上ノ義ニ付テハ兼テ相達シ置候振モ有之候處迄來禁網壞敗堤防ヘ樹木若クハ蔬采ノ類ヲ栽培シ又ハ竹笠ヲ以テ水流ヲ遮欄シ又ハ杭木ヲ打立又ハ袖垣ヲ結ヒ袋網ヲ用ヒ漁獵ヲ營ミ候モノ等住々有之哉ニ相聞候處右ハ水利上不容易障害ヲ有シ候義ニ付爾後右等ノモノ有之ニ於テハ相當ノ處分可致候條心得

違ノモノ無之様此際部内一般へ告諭スヘシ

○水路妨害堤腹侵墾嚴禁ノ件 明治七年九月十四日第二百四十七號
諸川水路要衝之地へ籐ヲ張又ハ樹枝ヲ埋ムル類大ニ水行ヲ妨ケ且堤腹ヲ侵墾シ
官道ヲ縮耕スル類自今一切嚴禁タルヘク旨辛未二月太政官御布告之趣モ有之候
處御趣意不致徹底夫レカ爲メ破堤等損害不勘道路ハ狹隘ニ涉リ不相濟事ニ候條
以後不得許可右様之所業ニ及候者有之候ハ、嚴重之處分ニ可及候條旨區内無
波可相違事

○水利組合事務報告之件 明治廿六年六月十六日訓令第五十六號
水利組合事務左ノ各項ニ關スルモノハ其都度報告スヘシ
(郡市町村)

一 組合會開閉

一 數町村ニ涉ル組ハ在テハ其管理者タル町村長ノ退職
(明治廿六年六月五日訓令甲第八號ヲ以テ廢止)

一 水利組合條例第四十九條ニ依リ現況觀察出納檢閲ヲ爲シタルハ其概況

一 同條例第五十四條ノ處分ヲ爲シタルハ

一 同條例第五十七條ニ依リ引繼ヲ了リタルハ

水利組合條例第四十四條第二項報告ノ期日ノ件 (明治廿七年三月廿四日訓令乙第百六十號)
水利組合條例第四十四條第二項ノ決算報告書並ニ之レニ關スル議決ハ其組合會
ノ開會后七日以内ニ報告スヘシ

○水車架設ニ關スル件 明治十年七月廿九日丙第十六號

水車架設ノ儀ハ水路ノ利害ニ關シ候ニ付預メ沿水ノ各村へ支障有無可逕照會ノ
處近來無其儀自村限リニテ出願候向モ有之調査上不都合不少候味自今一層注意
致シ他日苦情ヲ不生様各村吏協議連署ノ上明細圖面相出願可致此旨相違候事

○官有原野豫約賣渡規則 明治廿四年四月十日縣令甲第三十一號
官有原野豫約賣渡規則左之通相定ム

官有原野賣渡規則

第一條 開墾牧畜ノ爲メ官有原野豫約排受ヲ出願セントスルモノハ此規則ニ據ル

第二條 官有原野豫約拂受願ハ第一號乃至第三號書式ニ照準事業方法收支帳簿畫
實測地圖成功豫定區畫圖ヲ添付シ身元及地元市町村長ノ與書調印ヲ受ケ書留郵
便ヲ以テ正副二通差出スヘシ

但反別五町步五町步以上ヨリ分裂スルモノヲ除ク、外以下ニ係ル願書ハ
副書ヲ要セス 明治廿五年二月十日茨城縣令甲第四號但書追加

第三條 市町村長ニ於テ前條出願ニ關シ異見アルキハ與書調印ヲナシタル三日以
内ニ其事由書ヲ差出スヘシ

第四條 市町村若シハ一部落ニ於テ豫約拂受ヲ出願セストスルキハ其市町村會若
シハ區會議決書謄本ヲ添付スヘシ

第五條 官有原野豫約拂受ヲ出願スル爲メ實測セントスルトキハ地元町村役場へ
届出ヘシ且其實測ヲ爲シタルトキハ仮標ヲ立テ之レカ測點ヲ存スヘシ

(明治廿六年五月八日縣令第十號改正)

第六條 官有原野豫約拂受出願地ニ竹木アルキハ其種類員數長目通寸尺ヲ明記セ
ル調書ヲ添付スヘシ 但事業上必要ノ木竹ハ共ニ拂下ヲ出願スルコトヲ得

第七條 官有原野豫約拂受出願地ニ篠萱葎眞菰ノ類アルトキハ共ニ拂受ヲ出願ス
ヘシ

第八條 官有原野豫約拂受ヲ出願シ得ヘキ反別ハ四百町步以内トス 但土地ノ區
域事業ノ方法ニ依リ此制限ニ超過スルモノハ其事由ヲ具シ出願スルコトヲ得

第九條 事業成功期限ハ十五ヶ年以内ニ於テ之ヲ定メ若シ天災其他止ムヲ得サル
事由ニ依リ中途拂受人ニ於テ豫定ノ事業方法又ハ成功期限ノ變更ヲ要スルコト
アルトキハ更ニ其事由及ヒ事業方法並收支帳簿算書ヲ添へ出願スヘシ

第十條 賣渡ノ豫約ヲナシタル土地ノ使用料等ハ總テ之ヲ徴収セサルモノトス

第十一條 官有原野豫約拂受價格ハ素地相當代價ニ據ルモノトス
第十二條 官有原野豫約拂受及木竹其他拂受ノ許可ヲ得タルトキハ地元市町村役
場ハ申出其引渡ヲ受クヘシ

第十三條 賣渡ノ豫約ヲナシタル土地ハ代價ヲ納付シタル上ニアラサレハ其所有權ヲ拂受人ニ移轉セサルモノトス其代價ハ事業成功ノ後拂受人又ハ保證人ヨリ納付スヘシ 但事業成功ノ部分ニ對スル所有權ハ拂受人ノ請求ニ依リ其部分ニ相當スル代價ヲ納付シタル上之ヲ拂受人ニ移轉セシムルコトアルヘシ

第十四條 開墾牧畜事業ノ方法ハ左ノ各項ニ準シ記載スルモノトス

開墾事業ノ方法

- 一 着手ノ順序
 - 但道路若シハ河川ニ沿ヒタル一方ヨリシ濫リニ散點着手スヘカラス
 - 二 田又ハ畑
 - 三 防風林薪炭林ヲ仕立ツヘキ植樹地ノ反別及樹木ノ種類
 - 四 家屋等ノ敷地
 - 五 成功ノ期限
 - 六 毎年成功スヘキ豫定ノ反別及區畫地圖

狹畜事業ノ方法

- 一 着手ノ順序
- 二 種畜牝牡ノ頭數
- 三 毎年蓄息スヘキ豫定ノ畜數
- 四 放牧地及牧草仕付地ノ反別其區畫地圖
- 五 家屋畜舍等ノ敷地
- 六 成功ノ期限

第十五條 左ニ記載スル各項ハ豫約拂受人ニ於テ之ヲ遵守スヘシ

- 一 賣渡ノ豫約ヲナシタル土地ハ縣廳ノ許可ヲ得スシテ他人ニ貸渡スヲ得サルコト
- 二 賣渡ノ豫約ヲナシタル土地ニ對スル負擔及其土地ヨリ生ヌル損害ニ就テハ拂受人其責ニ任スヘキヲ
- 三 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ豫定ノ方法ニ從ヒ事業ニ着

手スヘキコト

四 拂受人ハ前年ニ於ケル事業功程ヲ翌年一月中ニ縣廳ニ報告スヘキヲ

五 拂受人ニ於テ事業ニ着手シ及事業ノ成功シタルトキハ十日以内ニ縣廳ニ報告スヘキコト

六 賣渡ノ豫約ヲナシタル土地内ニアル物件ハ特別ノ契約ヲナスニアラサレハ之ヲ採取シ若クハ使用スルヲ得サルコト

七 官吏ヲ派遣シ事業ノ進否及方法ヲ検査セシムルトキハ之ヲ拒ムヲ得サルヲ

八 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ十日以内ニ標杭ヲ境界ニ建設スヘキヲ

九 事業ハ必ス豫定ノ方法書ニ依テ之ヲ爲スヘキヲ
第十六條 拂受人第十五條ニ記載スル事項ヲ遵守セス又ハ成功期限ニ至リ事業成功セサルトキハ豫定通成功セル部分ニシテ相當ノ代價ヲ納付シタルモノハ之ヲ除キ其他ハ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ返還地ニ係ル勞費ハ官廳ニ於テ之ヲ辨償セス又返還地ニ

在ル植物建物等ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ取拂ハシムヘシ

第十七條 開墾又ハ牧畜事業豫定ノ通成功ニ由リ拂下ヲ出願スルトキハ第四號式至第六號書式ニ據ルヘシ 但拂下ノ許可ヲ得タルトキハ五日以内ニ第七號書式ノ受書差出スヘシ (明治廿八年三月一日縣令第十號追加)

附 則

第一條 本則發布前ノ願ニシテ未タ指令ヲ與ヘサルモノハ此規則ニ據リ更ニ出願スヘシ (明治二十四年四月廿四日茨城縣令甲卯三十三號第一條削除)

第二條 本則發布前ノ願ニシテ許可セサル地所ト雖モ此規則ニ據リ出願スルコトヲ得

第一號書式

官有原野豫約拂下願

何國何郡何町村大字何字番何地元反別若干
一 實測反別若干

此拂下代金若干

但反金若干

字番何地元反別若干

一實測反別若干

此拂下代金若干

合實測反別若干

此拂下代金若干

但反別若干

右地所(田又ハ畑宅地開墾(牧畜)用ニ付事業成功ノ上前記素地代價ヲ以テ御拂下被成下等御許可之上ハ御規則遵守可仕ハ勿論豫定之通リ事業成功可仕候依之事業方法收支豫算書實測地圖成功豫定區畫圖(木竹調書)相添此段奉願候也

(明治廿六年五月八日縣令甲第十号追加)

何府縣何國何郡何市町村大字何番地

年月日

願人

何

某印

全 保證人

何

某印

全 全

何

某印

茨城縣知事氏名殿

前書願出ニ付調印候也

何府縣何國何郡何市町村

年月日

身元市町村長 何

某印

第三號書式 (明治廿六年五月八日縣令甲第十號改正)

年月日

全 地元全

何

某印

第三號書式開墾豫定區畫圖(畧ス)

第三號書式開墾豫定區畫圖(畧ス)

第四號書式

(明治廿八年三月一日縣令第十號第四號ヨリ第七號マテ追加)

開墾(牧畜)事業成功ニ付拂下願

明治何年何月何日許可成功期限何年何月迄 (朱書)

何國何郡市町村大字何字番何地元反別若干

一實測反別若干

但畑宅地等(成功ノ地目ヲ記入スヘシ)

此拂下代金若干

但反金若干

内譯(内譯ヲ要スルモノ)

(開墾)

(牧畜)

田反別若干

放牧地反別若干

畑反別若干

牧草仕付地反別若干

宅地反別若干

家屋敷地反別若干

林反別若干

畜舎敷地反別若干

但防風林薪炭林ノ區別

種畜牝牡ノ頭數

何反別若干

二百四十
蕃息牝牡ノ頭數

右開墾(牧畜)之義務許可ニ依リ明治廿四年四月縣令甲第三十一號官有原野豫約
賣渡規則ヲ遵守シ豫定之通事業成功仕候ニ付前記代金ヲ以テ御拂下被成下度圖
面相添此段奉願候也

何府縣何國何郡市町村大字何番地

年月日 願人 何 某印
全 保証人 何 某印
全 全 何 某印

茨城縣知事宛

前書願出ニ付調印候也

年月日 (身元)市町村長 何 某印
全 (地元)全 何 某印

第五號書式 (零ス)

第六號書式一番號ノ地ヲ數筆ニ分裂スル實測圖ノ例 (圖面零ス)

第六號書式ノ内一番號ノ地ヲ數筆ニ分裂スルモノハ一筆限實測圖ノ外ニ色分圖
ヲ要ス (圖面零ス)

第七號書式

印紙 金高相當 請 書

何國何郡市町村大字何字番何地元反別若干
一實測反別若干

此拂下代金若干

右地所開墾(牧畜)事業豫定ノ通成功ニ依リ今般御排下相成候ニ付テハ該代金何
年何月何日限納入可仕依之請書差出候也

何府縣何國何郡市町村大字何番地

年月日 拂受人 何 某印
全 保証人 何 某印
全 全 何 某印

茨城縣知事氏名宛

○官有土地排受規則ノ件 明治廿四年九月十八日縣令甲第五十二號

森林及直接公用ニ供スル土地ノ外官有ノ土地 荒地砂地沼池ノ類 開墾ノ爲メ無
料借用事業成功後拂受願ニ係ルモノハ明治二十四年四月本縣令甲第三十一號官
有原野豫約賣渡規則ヲ適用スヘシ

但本願書ハ副書ヲ要セス (明治廿五年二月十日茨城縣令甲第五號)

○町村ニ於テ官有地拜借ノ件 明治廿三年二月七日訓令第十一號(郡) 町村ニ於テ官有地ヲ拜借開墾ノ上其收益ヲシテ基本財産ニ補充スル目的ヲ以テ 々々出願ノ向有之候處抑モ開墾ノ事業ハ固ヨリ至難ニシテ容易ニ能クスル所ニア ラス故ニ專ラ地勢ト難易ヲ察スヘキハ勿論篤ク町村ノ狀勢經濟ノ程度ヲ考量シ 適宜ノ町歩ヲ限リ將來ノ成功ヲ期セサルヘカラス然ルニ往々計畫ノ茲ニ出テス シテ徒ラニ夥多ノ町歩ヲ出願シ費用收支ノ順序モ整理セス亦開墾ノ方法モ確然 不相立加之中ニハ町村會ノ議決ヲ經ケルモノ有之旁以不都合ノ次第ニ付爾后右 等出願ノ場合ハ方法ハ勿論戸口ノ多寡資力ノ程度等篤ト調査シ成功ノ見込ナキ モノハ相當ノ町歩ニ諭示訂正セシメ且立竹木有之モノハ其木種本數目通寸尺代 價ノ當否ヲモ調査シ渾テ意見ヲ付シ進達候様取計フヘシ

○官有地ハ渡賣渡及產物賣渡規則 明治廿四年四月十日縣令甲第卅號 官有地貸渡賣渡及產物賣渡規則左ノ通り相定ム 但明治十八年本縣令甲第八十九號布達ハ廢止ス

官有地貸渡賣渡及產物賣渡規則

- 第一條 官有地借用拂受及產物拂受ヲ出願セントスルモノハ第一號乃至第五號書 式ニ照準實測地圖ヲ添付シ身元及地元市町村長ノ 奧書調印ヲ受ケ差出スヘシ 且從前豫約ニ係ル拂受願ハ此限ニアラス 〔明治二十四年四月廿四日 茨城縣令甲第三十三號追加〕
- 第二條 市町村長ニ於テ前條出願ニ關シ意見アルトキハ 奧書調印ヲナシタル後三 日以内ニ其事由書ヲ差出スヘシ
- 第三條 開墾牧畜植樹等ニシテ五町歩以上ニ涉ル借地願ハ其事業方法書及収支豫 算書ヲ添付スヘシ
- 第四條 市町村若クハ一部落ニ於テ借用拂受ヲ出願セントスルトキハ其市町村會 若クハ區會議決書ノ 騰本ヲ添付スヘシ
- 第五條 官有地借用又ハ拂受ヲ出願スル爲メ實測セントスルキハ地元町村役場へ 届出ヘシ且其實測ヲ爲シタルトキハ 仮標ヲ立テ之レカ測點ヲ存スヘシ

(明治廿六年五月八日縣令第十號改正)

第六條 官有地借用又ハ拂受出願地ニ木竹アルトキハ其種類員數長目通寸尺ヲ明記セル調書ヲ添付スヘシ

但事業上必要ノ木竹ハ共ニ拂受ヲ出願スルコトヲ得

第七條 官有地借用又ハ拂受出願地ニ篠菅葎真菰ノ類アルトキハ共ニ拂受ヲ出願スヘシ

第八條 願書若シハ付屬書類訂正ノ爲メ下戻シタルトキハ其日ヨリ三十日以内ニ再出スヘシ (但其日限ヲ超ヘタルモノハ再出ノ効ナキモノトス)

第九條 官有地借用拂受又ハ產物拂受ノ許可ヲ爲シタルトキ特ニ契約書ヲ要スルモノヲ除クノ外五日以内ニ第六號第七號書式ノ受書差出スヘシ

但地所其他ノ物件ハ地元市役所町村役場ニ申出指令書及代金納入証ヲ示シ引渡ヲ受クヘシ (明治廿七年六月縣令第二十六號改正)

第十條 前條ノ料金代金ヲ期限通り完納セス或ハ豫定ノ事業ヲ成功セス或ハ目的以外ノ使用ヲ爲シタルトキハ其貸渡資渡ヲ取消シ又ハ返地セシムヘシ

但此場合ニ於テハ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第十一條 借地ニ對スル負擔及其土地ヨリ生スル損害ハ總テ其借地人其責ニ任スヘシ

第十二條 借地ノ許可ヲ得其引渡ヲ受ケタルトキハ四方境界ヘ標杭ヲ建設スヘシ

第十三條 本規則第十條第十一條ハ從前ノ借地人ニモ之ヲ適用ス (明治廿四年四月廿四日縣令甲第三十三號削除)

第十四條 借地満期ニ至リ尙ホ引續キ借用セントスルモノハ其一ヶ月前ニ於テ第一條ニ準シ出願スヘシ

附 則

第一條 本則發布前ノ願ニシテ未タ指令ヲ與ヘサルモノハ此規則ニヨリ更ニ出願スヘシ (明治廿四年四月廿四日縣令甲第三十三號削除)

第二條 本則發布前ノ願ニシテ許可セサル地所ト雖モ此規則ニ據リ出願スルコトヲ得

第一號書式

官有地拜借願

何國何郡何町村大字番何地元反別若干

一實測反別若干

此拜借料一ケ年(一ケ月)金若干

但反金若干

類地 田甲 畑何等乙 宅地丙 何地何等 比較

字番何地元反別若干

一實測反別若干

此拜借料一ケ年一ケ月金若干

但反別若干

類地 田甲 畑何等乙 宅地丙 何地何等 比較

合反別若干

此拜借料金若干

但何ケ年何ケ月 季拜借

右地所何々用ノ爲メ(使用ノ目的ヲ明記スヘシ)書面ノ料金ヲ以テ拜借仕度御許可ノ上ハ御規則ハ勿論拜借料金期限通リ上納可仕候依之實測地圖并何々書相添此段奉願候也

何府縣何國何郡何市町村大字何々番地

年月日

願人 何

某印

同 保証人

何

某印

同 同

何

某印

茨城縣知事氏名宛

前書願出ニ付調印候也

何府縣何國何郡何市町村

年月日

(身元)市町村長

何

某印

年月日

同 (地元)市町村長

何

某印

第二號書式

官有地借用願實測圖面(畧ス)

第三號書式

官有地拂下願

何國何郡何町村大字何字番何地元反別若干

一實測反別若干

此拂下代金若干

但反金若干

右地所何々ノ爲メ(拂下ヲ要スル事由ヲ明記スヘシ)書面ノ代金ヲ以テ御拂下被成下度依テ實測圖何々書相添此段奉願候也

(以下第一號書式ニ準ス)

第四号書式

立木竹拂下願

何國何郡何町村大字何字番何地内

一立木(竹)若干

此拂下代金若干

内種類長目通リノ寸尺異ナル毎ニ如斯記スヘシ

何木若干

但長何間何尺 目通何尺何寸

此代金若干

但一本金若干

何木若干

但長何間 目通何尺

此代金若干

但一本金若干

何木若干

但目通一尺未滿

此代金若干

但一本金若干

立竹若干

此拂下代金若干

内(種類回り寸尺ノ異ナル毎ニ如此記スヘシ)

何竹若干

但何尺何寸回り

此代金若干

但一本金若干

右立木竹何々ノ爲メ(拂下ヲ要スル事由ヲ明記スヘシ)御拂下被成下度略圖(地所ニ付帶シ出願スルモノハ之ヲ要セス)相添此段奉願候也

(以下第一號書式ニ準ス)

第五號書式

生草拂下願

何國何郡何町村大字何字番何地内

一生草若干

此拂下代金若干

駄數又ハ束數ヲ掲クヘシ

但一駄一束ニ付金若干

魚鳥拂下モ之ニ準ス但魚ハ貫目ヲ以テシ鳥ハ羽數ヲ以テスヘシ

右何々ノ爲メ(拂下ヲ要スル事由ヲ明記スヘシ)以下第四號書式ニ倣フ

第六號書式

印紙金高相當 請 書

何國何郡何町村大字何字番何地反別若干

一實測反別若干

此代金若干

何地反別若干地内

一生草木竹又ハ魚類若干

此代金若干

今般前記ノ地所又ハ何々拂下ヲ受ケ候ニ付テハ明治廿四年茨城縣令甲第三十號
官有地貸渡賣渡及產物賣渡規則ヲ遵守シ及左ノ條項ヲ承諾シ受書差出候也

國郡町村大字何番地

年月日

買人 何

全 保証人 何

全 全 何

全 全 何

某印
某印
某印

茨城縣知事氏名宛

一金拂込

何年何月何日限

何地所又ハ何々引渡

何年何月何日限

一何々

第七号書式

印紙 金高相當 請 書

何國何郡何町村大字何字番何地反別若干
一實測反別若干

此拜借料一ヶ年金若干

但何年何月ヨリ何年何月マテ何ヶ年季

今般前記ノ地所 田畑開墾宅地ニ使用 又ハ何々植樹ノ爲メ拜借候ニ付テハ明
治廿三年十一月勅令第二百七十六号官有財産管理規則及第二百七十六号官有地
取扱規則 借用ノ地森林原野ナルキハ第二百七十六號官有地取扱規則ノ十四字
ヲ除ク 並明治廿四年茨城縣令甲第三十号官有地貸渡賣渡及產物賣渡規則ヲ遵
守シ受書差出候也 明治二十八年三月一日縣令第九號追功

何國何郡何町村大字何 何番地

年月日

拜借 何

某印

全 保証人 何

某印

全 全 何

某印

茨城縣知事宛

(明治二十七年六月縣令第二十六号ヲ以テ第六第七追加)

○官有森林原野產物特賣規程ノ件 明治二十四年九月十八日縣令甲第
五十一号

明治廿四年九月農商務省告示第八號官有森林原野及產物特賣規程發布ニ付自今
官有森林原野及其產物特賣ハ同年四月本縣令甲第三十號官有地貸渡賣渡規則ヲ
適用セス

○官有森林原野產物特賣出願ノ件 明治二十五年三月廿八日縣令 甲第二十三號

明治二十四年九月農商務省告示第八號ニ據リ官有森林原野產物ノ特賣ヲ本縣へ出願スルモノハ該地ノ番號及物件ノ代價ヲ記載スヘシ

○官有森林原野立木公賣契約ノ件 明治二十五年十二月十六日 訓令第七十四號 (郡)

農商務省主管ニ係ル官有森林原野及立木公賣ニ關スル契約締結ノ義ハ自今代理スヘシ

○林產物官有森林原野及產物公特賣領收証ノ件

明治二十五年一月十四日縣令乙第一號(市町村)

明治廿三年五月農商務省告示第四號林產物公賣規程廿四年九月同省告示第八號官有森林原野及產物特賣規程ニ據リ公賣又ハ特賣ヲ爲シタル物件買受人ヨリ引渡ヲ請求スルキハ指令又ハ契約書ニ基キ引渡ヲ爲シ直チニ領收証書ヲ徴シ差出スヘシ 但立木ハ縣廳又ハ郡役所ヨリ賣渡ノ時々指揮スヘシ

○官林ニ接スル民有地ノ賣却及竹木伐採ノ件

明治廿七年八月十日縣令第三十五號

官林ニ接スル民有地ヲ賣却シ又ハ該民有地内ノ竹木ヲ伐採セントスルトキハ其所有者ヨリ豫メ東京大林區署へ届出境界ノ查認ヲ受シヘシ

○官有立木竹等公賣取扱方 明治廿五年五月十九日訓令第七三號(郡)

官有立木竹等公賣之儀ハ開墾牧畜其他地所特賣ニ付帶スルモノ多キニ居ルヨリ其公賣物件搬出ノ迅速ハ地所特賣者事業上ニ關シ候次第ニ付以后公賣處分令達ノ場合契約書案ニハ左ノ目的ヲ以テ搬出期限其他事項ヲ掲記シ豫メ入札者ニ指示シ而シテ契約書中ニ其年月日ヲ明記セシメ候様取計フヘシ

- 木數 拾本以下 百本以下 千本以下 萬本以下
- 口數 二十日以内 三十日以内 五十日以内 百日以内
- 立竹其他ノ物件ハ本項ニ準シ相應ノ期日ヲ定ムルモノトス
- 立木廻リ目通一尺以上ヲ以テ一本ト假定シ其以下ハ本項ニ準シ相應ノ期日ヲ

定ムルモノトス

二百五十四

○官有地貨渡賣渡又ハ產物賣渡許可ノ指令ニ對シ受書認印ノ件

明治廿八年二月廿五日訓令乙第六十號(市町村)

官有地貨渡賣又ハ產物賣渡許可ノ指令ヲ本人へ交付シタルトキハ成規ノ受書ヲ作ラシメ市町村長認印ノ上指定ノ日限内ニ差出サシム

○官有地土砂堀取ノ件 明治十八年十月廿八日乙第百八號

道路堤塘等修繕之節官有地ニ於テ土砂堀取之義ハ其都度出願許可之後可堀取勿論ノ義ニ候所若シ暴雨洪水等急破ニ際シ其手續ヲナシカタクキ場合ニ於テ此破壞ノ數戸長所轄ニ涉ルモノハ郡長一戸長所轄之モノハ戸長ニ於テ從前之慣行アル箇所ニ限り直チニ爲堀取頓末詳細届出候様取計フヘシ

但官林ハ此限りニアラス

右相達候事

○地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路使用ノ件

明治廿六年二月十四日訓令第十六號(郡市町村)

地盤ノ官有ニ屬スルモノニシテ修理保存費ノ市町村負擔ニ係ル堤塘道路ノ使用ハ自今其市町村ニ於テ縣廳ノ認可ヲ受ケ處分シ其使用料ハ市町村ノ収入ト爲スヘシ

但地方稅市町村費兩屬ニ係ルモノハ縣廳ニ於テ處分シ其使用料ハ費用負擔ノ縣市町村へ配付スルモノトス

前項修理保存費ノ市町村負擔ニ係ル堤塘道路及用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其市町村ニ於テ處分シ市町村ノ収入ト爲スヘシ

但本項水竹等市町村ニ於テ拂下ヲ爲スニハ市制町村制第八十七條ニ依ルヘキモノトス

地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理タルヘシ

○屋舎倉庫並木枯損木等賣却代價報告ノ件

明治十六年十二月五日郡甲第二百十三號(郡)

二百五十五

屋舎倉庫並木枯損木及橋梁其他ノ古材等賣却代價之義ハ該金送納前ニ於テ必ラ
ス土木課ヘ報告可致此段相達候事

○並木損木公賣手續 明治廿八年五月一日訓令乙第一六四號

並木損木公賣手續左ノ通相定候條右ニ依リ取扱フヘシ

並木損木公賣手續

第一條 本廳内務部ヨリ並木損木公賣方ノ通知ヲ受ケタルキハ縣報廣告ト同一ノ
文ヲ以テ郡役所及地元村役場ノ揭示場ヘ揭示スヘシ

第二條 競争入札ハ別冊規則ニ據リ取扱ヒ買受人確定ノ上ハ左ノ要項ヲ掲ケ受書
ヲ徴スヘシ

但要項ハ入札前入札人ニ示シ置クヘシ

一代金納付ノ日限 二 損木受渡ノ日限 三 棧探搬出ノ日限

四 代金納付ノ日限ヲ經過シ納付セサルトキハ拂込ケテ取消スモノトス

五 搬出ノ日限ヲ經過シ搬出セサルトキハ已納ノ代金ハ過怠金トシテ沒收シ損

木ハ下渡サ、ルモノトス

但不可抗力ノ爲メ日限内搬出スルヲ得サル場合ニ於テハ延期ヲ與フルコト
アルヘシ

第三條 損木ハ代金領収済ノ上買受人ヘ引渡スヘキモノトス

第四條 代金受領済ノ上ハ仕譯書ヲ以テ其旨本廳ヘ報告スヘシ

第五條 豫定價格ハ第一條通知ト共ニ封緘ヲ以テ交付スルモノトス

但木數僅少ノモノニ在リテハ豫定價格ヲ交付セサルコトアルヘキニ付其場
合ニ於テハ單ニ入札中ノ最高價ヲ以テ落札ト爲スヘシ

入札規則

第一條 官有物件拂下ノ競争ニ加ハ、ラントスルモノハ該物件ヲ熟覽シ廣告ノ日
時ニ於テ入札保証金ヲ添ヘ入札スヘシ

第二條 入札保証金ハ係員ノ面前ニ於テ員數ヲ改メ之ヲ差出スヘシ

第三條 入札書中誤字脱字又ハ違算スルモノ若クハ記名調印ナキモノ其他讀ミ難

キモノハ凡テ無効トス

第四條 入札書ハ一旦差出シタル後ハ假令何等ノ事故アリト雖モ引換ヲ請フヲ得ス

第五條 入札ハ最高額(総額ヲ云フ)ノモノヘ落札スルモノトス

第六條 開札ハ廣告ノ日時當該役所ニ於テ入札人而前ニ於テ之ヲ行フ若シ入札人又ハ代理人出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七條 入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ヲ示スキハ之ヲ封書トシ開札ノ場所ニ置クモノトス

第八條 開札ノ上豫定價格ニ達セサルトキハ直ニ再入札ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第九條 開札ノ上落札トナルヘキ同價ノ入札アルトキハ直ニ入札人ヲシテ再入札ヲ爲サシメ尙同價ナルトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムルモノトス

第十條 落札トナルヘキ入札ヲ取消シタルトキハ順次繰下ケ落札者ヲ定ムヘシ此場合ニ於テハ入札取消シヲ爲シタルモノ、入札保證金ハ還付セス

第十一條 落札者定リタルトキハ入札保證金ハ還付ス

但落札者ノ入札保證金ハ物件代價上納済ノ後ニ送付スヘシト雖モ代價納付日限ヲ誤リタルトキハ其落札ヲ取消シ入札保證金ハ還付セス

第十二條 落札者代價納付ヲ了シタルトキハ直ニ物件引渡ヲ請求スヘシ

第十三條 公賣物件引渡前官ノ都合ヲ以テ落札ヲ取消シ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ官廳ハ其責ニ任セサルモノトス

第十四條 公賣物件ハ當初入札人ニ於テ熟覽シタルモノニ付落札後腐朽其他ノ原因ニ依リ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ官廳ハ其責ニ任セサル者トス

第十五條 入札人又ハ落札者代理人ヲ以テ諸般ノ事項ヲ處理セントスルトキハ其ノ委任狀ヲ差出スヘシ

○並木枯損木拂代金送納ノ件

明治十八年十月十二日

郡甲第百三十五號

(郡)

並木枯損木拂代之義ハ地方稅雜收入トシテ本縣收稅課ヘ向ケ送納シ來候處自今該拂代上納證ハ土木課ヘ現金ハ從前ノ通送納可致此旨相達候事

○堤塘並木敷使用料送納雛形ノ件 明治十九年二月廿二日 (郡) 郡甲第十六號

堤塘使用料及並木敷道敷貸下料自今送納ノ時ニ別紙雛形ノ如ク明細書ヲ製シ土木課へ報告スヘシ

右相達候事

堤塘使用料 (或ハ並木敷道敷) 送納報告

年度	期限	字	反別	料金	郡名	村名	人名
何年度	自何月 至何月	何	何	何	何	何	何
同	同	同	同	同	同	同	同

以下列記スヘシ

○官有ニ屬スル溝渠使用料徴収ノ件

明治廿六年六月十五日訓令乙第九十八號 (郡町村)

地盤ノ官有ニ屬スル溝渠ニシテ修理保存費ノ町村負擔ニ係ルモノ、使用料ハ郡役所ニ於テ徴収シ下渡シ來候處自今其町村ニ於テ直チニ收入スヘシ

○溝渠使用料收入區分 明治十八年七月十五日長甲第三十二號 (郡)

溝渠上使用料金之義ハ是迄園雜庫收入ニ有之候處明治十八年度以降其修繕費ノ地方稅支弁ニ係ル箇所ハ地方稅へ收入シ町村費負擔之分ハ町村費ニ下渡スヘシ 此旨相達候事

○修理保存費ノ町村ニ屬スル溝渠使用料ノ件

明治廿六年六月十五日訓令乙第九十八號 (郡市)

地盤ノ官有ニ屬スル溝渠ニシテ修理保存費ノ町村負擔ニ係ルモノハ使用料ハ郡役所ニ於テ徴収シ來候處自今其町村ニ於テ直チニ收入スヘシ

○立木検査極印使用規則 明治廿四年八月廿四日縣令丙第三十二號

官有地貸下拂下等ニ附隨シ立木拂下之場合ニ於テ其場所數量等ヲ詳記セル調書ヲ添右検査之儀臨時内務部ヨリ通知セシムヘキニ付左ノ規則ニ準シ取扱フヘシ 但極印ハ追テ内務部ヨリ回送セシム

立木検査極印使用規則

第一條 官有林野ノ立木讓與又ハ拂下ニ際シ出張検査員ハ樹幹目通りニ檢印根株ニ山印ヲ打印スヘシ

第二條 前條ノ立木讓受人又ハ拂受人ニ引渡ノ節ハ検査員ハ樹幹ニ拂印ヲ打印スヘシ

第三條 讓受人又ハ拂受人ニ於テ伐木シ検査員伐跡検査ノ時ハ其伐跡断面ニ檢印ヲ打印スヘシ

第四條 根株拂下ノキハ伐跡ニ拂印ヲ打印スヘシ

第五條 山印ハ第一條ノ外盜誤伐木并境界木其他賣渡讓渡地所外ニ於テ存置ヲ要スヘキ樹木ニモ打印スルモノトス

第六條 極印ハ總テ黒肉ヲ用ユヘシ

第七條 極印ヲ誤打セシキハ朱肉ノ同印ヲ以テ消印スヘシ

○内務省主管物件公賣規則 明治廿五年四月廿七日 (郡)

内務省主管ニ係ル物件公賣規則別紙之通相定候ニ付右處分方相達候場合ハ該規

則ニ據リ調理シ該札者ヲ定メ差出スヘキ儀ト心得ヘシ

公賣規則

第一條 官有(物件名)ヲ公賣ニ付ス之レカ拂下ヲ望ムモノハ左ノ條項ヲ確守シ該物件并入札書式契約書案ヲ熟覽シ公告ノ期日保証金ト共ニ第一號書式ニ依リ入札差出スヘシ

但入札時限ニ後レタルトキハ何等ノ事由アルモ入札スルコトヲ得ス

第二條 入札保証金ハ掛員面前ニ於テ員數ヲ改メ封入シ掛員へ差出受領シタル時ハ第二號書式ノ預証ヲ交付スヘシ

第三條 入札書式ニ違ヒ又ハ誤字脱字違算及記名ハ調印ナキモノ其他讀得難キモノハ無効タルヘシ

第四條 入札ハ一旦差出シタル後チハ仮令何等ノ事故アリト雖モ引換ヲ請フコトヲ許サス

第五條 入札ハ最高額總額ヲ云フノモノハ然札スヘシ

第六條 開札ハ公告ノ日時當該郡役所内ニ於テ入札人ノ面前ニテ之ヲ行フ若シ入札人又ハ代理人出席セサルキハ其入札ハ無効トス

第七條 入札ニ付シタル物件ハ其豫定價額ヲ封書トナシ之ヲ開札ノ場所ニ置クハシ

第八條 開札ノ上若シ豫定價額ニ達セサルカ又ハ同價額ノモノ二名以上アルキハ直チニ入札人ヲシテ再入札ヲ爲サシメ尙落札トナルヘキ同價額ノ入札アルキハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ

第九條 落札人トナルヘキモノ入札ヲ取消タルトキハ順次豫定價額以上迄繰下之ヲ定ムヘシ

第十條 落札ハトナルヘキモノ定マリタルキハ即時ニ預証書ト引換ニ入札保証金ヲ還付ス尤キ落札人トナルヘキモノニハ契約締結ノ後還付スヘシ

第十一條 落札ヲ告知シタルキハ即時ニ落札代金十分一ニ相當スル契約保証金ヲ納メ第三号書式ニ依リ契約書ニ通チ作り結約者双方署名捺印シテ各一通ヲ領收

シ置クヘシ

第十二條 落札人約定日限内ニ賣買代金ノ拂込ヲ了リタルキハ其領收証ヲ示シ物件ノ引渡ヲ受ケ第四号書式ノ領收証ヲ作り差出スヘシ又地所ヨリ取離スヘキ物件ハ其約定日限内ニ所在地ヲ搬出スヘシ

但落札物件ハ其代價ノ幾分ヲ拂込ムトモ之ニ對スル内渡ハナサ、ルモノトス
第十三條 物件ノ所有權ハ地所建物ハ登記ヲ經タル後其他ノ物件ハ引渡ヲ受クルニ隨ヒ買受人ニ移轉スルモノトス

第十四條 左ノ場合ニ於テハ入札保証金ヲ還付セス

一 落札ノ上賣買契約ヲ落札人ニ於テ締結セサルトキ
二 開札後ニ入札ノ取消ヲナシタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ契約ノ保証金ヲ還付セス締結ノ契約ハ解除スルモノトス

一 落札人賣買契約締結後代金ヲ約定ノ日限内拂込マサルトキ

二落札人賣買契約締結後代金拂込以前ニ契約ヲ取消シタルキ

三落札人約定ノ期限内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルキ

第十六條 公賣物件入札後又ハ賣買契約締結後天災事變等ノ避クヘカラサル原因ニ由リ目的ノ物件ヲ亡失毀損シタル爲メ公賣ヲ取消シ之レカ爲メ入札人落札人又ハ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當廳其責ニ任セス

第十七條 公賣物件ハ當初入札人ニ於テ熟覽シタルモノニ付落札後數量若クハ物質等ニ多少ノ差違アリ又ハ物件ノ内部ニ腐朽等アルモ當廳其責ニ任セス

第十八條 立木竹ノ根株ハ公賣外ノモノトス

但別段ノ契約アルモノハ此限ニアラス

第十九條 入札人落札人代理人ヲ以テ諸般ノ事項ヲ履行セシムルキハ代理人ハ其委任狀ヲ掛員ニ示スヘシ

(第一號書式)

入札書

何縣何郡何村大字何々字何々 第何番

一 地目反別何程

此代金何程

何國何郡何村大字何々 字何々 第何番(地目)地内

一 立木何程

此代金何程

内

何 何本

但目通 長間

此代金何程

何 何本

俱全

此代金何程

右代金ヲ以御拂下相成度入札規則ノ條項ヲ承諾シ保證金相添入札差出候也

住所

年月日

氏

名印

茨城縣知事宛

(第二號書式)

證

住所

納人 氏

名

一金何程

但何郡何村大字何々第何番(物件名)入札保證金
右封ノ儘預置候也

年月日

郡長 氏

名印

(第三号書式)

賣買契約書

何國何郡何村大字何々字何 第何番

一地目反別何程

此代金何程

全

全(地目)地内

一立木何本

此代金何程

内

何 何本 但目通長間

何 何本 但全

今般前書之通賣買契約締結候ニ付テハ公賣規則及左ノ條項ヲ承諾シ双方署名ノ

上各壹通ヲ領收シ置クモノ也

年月日

賣人 茨城縣知事氏名印

住所

買人 氏

名印

一代金拂込明治何年何月何日限

一物件引渡明治何年何月何日限

一物件引渡ヲ請求スヘキ所町村役場

一物件搬出期限何年何月何日限

(第四號書式)

印紙 證

何國何郡何村大字何々 字何 第何番

一地目反別何程

此代金何程

全(地目)地内

一立木何本

此代金何程

内

何 何本 但目通 長間
右御引渡相成領収候也

年月日

住所

氏

名印

茨城縣知事宛

○内務省主管ニ係ル物件公賣保證金ノ件 明治二十七年七月十日訓令乙第三百五号 (郡)

内務省主管ニ係ル物件公賣方明治二十九年訓令第六〇號ニ依リ取扱候際入札並契約ニ對シ徵收スル保證金ハ出納官吏ニ引渡スヘシ

○官有物件貸渡賣渡評價規程 明治廿四年九月廿一日官第八十八號

官有物件貸渡賣渡評價規程左ノ通相定ム

評價規程

第一條 官有物件貸渡賣渡評價ノ爲メ評價委員ヲ置ク其委員ハ縣官郡吏員ノ内ヲ以テ知事之ヲ命ス

第二條 郡吏員ハ本郡内所屬ノ物件ニ限リ評價ニ加ハルモノトス

第三條 評價ニ付スヘキ物件アルトキハ縣廳委員ニ於テ其要用ナル事項ヲ摘録シ又ハ其關係書類ヲ郡役所ニ送付スヘシ

第四條 郡役所委員ニ於テ前條ノ送付ヲ受ケタルトキハ價格ヲ査定シ別紙書式ノ評價理由書ヲ作り五日以内ニ之ヲ縣廳ニ送付スヘシ

第五條 縣廳委員ニ於テ前條ノ送付ヲ受ケタルトキハ尙ホ之ヲ審査シ異議ナキモノハ署名捺印シ異議アルモノハ別ニ評價書及理由書ヲ作り關係書類ト共ニ之ヲ部長ニ差出スヘシ

第六條 價格ヲ査定スルニ當リ標準ヲ取り難キモノ及重要ノ物件ト視認スルモノハ臨時市町村長ニ委嘱シ又ハ便宜評價人ヲ撰ミテ評價セシメ之ヲ材料トシテ評價書ヲ作ルヘシ

第七條 評價委員自ラ其貸渡買渡ニ關係アルキハ其評價ニ加ハルコトヲ得ス
評價書

何國何郡何町(村)大字何々第何番原野反別何程ノ内

一實測反別何程

願人 何 某

此貸渡料 賣渡代金 若干 但反金若干

何國何郡何町(村)大字何々第何番草生反別何程ノ内

一雜草何百駄 願人 何 某

此賣渡代金若干 但壹駄金若干

何國何郡何町(村)大字何々第何番某敷地又ハ何々ノ内

一杉木 長何間目通何尺廻リ何本 願人 何 某

一松木 全 上 上

一ケヤキ全 上

此賣渡代金若干

何國何郡何町(村)大字何々第何番

一瓦葺合庫 梁間何間 奥行何間 壹棟 願人 何 某

此建坪何坪

此賣渡代金若干 但壹坪金若干

右代價ニテ貸渡料金ニテ賣渡相當ト視認候也

年月日 評價委員 某郡書記 何 誰印

某縣屬 何 誰印

茨城縣知事宛

○官有物件評價ノ件 明治廿六年一月二日官第八號

明治廿四年九月官第八十八號ヲ以テ官有物件貸渡評價規程相達置候處自今内務省所管官有地貸渡賣渡之外評價スルニ及ハス

○共有部分林養成心得 明治十八年四月十四日乙號外

部分木仕付條例ノ儀ハ官民共ニ便益アルノ良法ナルニ付該旨ニ基キ山林繁殖ノ計圖ヲ盡サシメノ爲今般出願手續布達候ニ付テハ各町村所在ノ官地ニシテ其耕種スヘキ目途アルモノ、外ハ一村ノ協議ヲ盡シ相當ノ樹種ヲ選ヒ植付ノ順序相立サセ候様可致最モ該林ノ養成ハ他日其利ヲ以テ町村全体ノ公益事業ニ充候様可成計畫可爲致因テ別紙共有部分林養成心得相示候條篤ト此意ヲ瞭得シ配意可致此旨諭達候事

共有部分林養成心得

第一條 町村內所在ノ官有原野地ニシテ其耕作不適ノ場所ハ之ニ部分木ノ植付ヲ出願シ町村共有林ヲ養成スルコト

第二條 一町村若シハ都合ニ因リ區域ヲ定メ部分木植付組合ヲ設クルコト

第三條 組合ニ於テハ其年植付ヘキ反別ヲ定メ組合員連署出願スヘキコト

第四條 共有部分木世話係二人以上ヲ設ケ諸事世話係ノ指揮ニ依ルヘキコト

但世話係ノ權限ハ豫テ定メ置クヘシ

第五條 植付順序ヨリ下剗野火除枯木植繼キ落葉川ヒ等総テ之ヲ申合ノ定テナシ置クヘシ

第六條 下枝排損木伐採等ハ總テ部分木規則ニ依ルヘキハ勿論ト雖モ各自ノ薪炭

ニ供スル小枝等ニアラスシテ之ヲ賣却スル者ニ至テハ其收入金ハ組合ノ蓄積金

トシ樹林養成ノ費用又ハ不慮災難ノ救助費若シハ學校道路勸業等ノ費ニ充ツヘ

キ目途ヲ議定シ置クヘシ

第七條 部分林ハ一時ニ悉皆伐拂スヘカラス適宜ノ輪伐法ヲ設ケテ每期三分一以

上ヲ存スヘキ様計畫スヘシ

第八條 植付ノ樹種及ヒ部分ノ割合等ハ土質地等ニ依リ實地ニ就テ之ヲ定メ出願スヘシ

第九條 部分林組合區域中ノ現住者遺漏ナク同盟スヘキコト

第十條 組合員他ニ轉住スル時ハ共有ノ權ヲ失フヘシ其從來ノ消費金積金共之ヲ要求スルヲ得サルヘシ

第十一條 他ヨリ移住ノ者滿三年ヲ經タルモノニシテ本村ノ籍ニ定ルキハ部分林組合ニ加入セシムヘシ

第十二條 此他組合必要ノ件ハ之ヲ議定スヘシ

○部分木植付出願手續 明治十八年四月十四日甲第三十二號

部分木植付ノ儀ハ去ル明治十一年三月本縣甲第二十七號ヲ以相達滯候部分木植付條例ヲ遵守スヘキハ勿論ニ候付其從來出願之際多クハ其書面詳細ナラス爲ニ調査差支候條爾今左ノ手續ニ依明瞭記載可願出此旨布達候事

部分木植付出願手續

第一條 部分木植付出願ノ者ハ別紙書式ニ準シ願書三通ヲ製シ差出スヘシ
願書式 ○印ハ朱字

茨城縣國郡村地内

一合反別何程

内

反別何程 道敷及ヒ野火除地

但道中何間長何間野火除巾長各何間

反別何程 植付地

○道敷野火除ヲ要セサル者ハ之ヲ除ク

内譯

番地字名地目

一反別何程

内 反別何程 道敷又ハ野火除地ノ分

○之ヲ要セサルモノハ除ク

此植付 何木何本 壹反歩ニ付何本割○道路等ヲ除キタル反別ニ對シ

但幾官幾民

植付期節何年何月着手何月植付済ノ見込

○以下一筆毎ニ本項同様記載スヘシ

右之地所へ部分木植付度樹種及植付期節部分割合等前記之通りヲ以御規則ニ基
キ私費植付御許可有之度圖面添此段奉願候也

年月日

願人 何

誰印

縣國郡町村番地族籍

何

誰印

縣令宛

前書之通り相違無之ニ付與書調印候也

何村外何村連合

(戸長) 何

誰印

第二條 前條出願書ニハ左ノ要項ニヨリ明瞭取調タル實地ノ圖面ヲ添付スヘシ

一字番地目一筆限リ記入スルコト

一 道敷野火除ケ地等ヲ要スルモノハ着色ヲ以テ區別スルコト

一 在來ノ道路アルモノハ殊ニ之ヲ記スルコト

一 植付樹種及ヒ植付期節ヲ異ニスル(年ヲ超ユルカ又ハ春秋ノ異アルモノ)モ

ノハ着色ヲ以テ區分スルヲ

一 周圍接續ノ地目官民有ノ區別其ノ景況ヲ明瞭ニスルヲ

一 方位

第三條 數人同盟出願ノ者ハ各自連署シ而シテ其植付及保護法費用ノ支出収利ノ使用法同盟員出入等ニ關スル申合規約書ヲ添認可ヲ受クヘシ

第四條 從來秣苴取人會等關係アル場合ニシテ其内幾部分ノ人員ヨリ出願スルハ其從來關係アル者ヨリ支障ノ有無ヲ證明スヘキ書面ヲ取り之ヲ願書ニ添付スヘシ

第五條 前條ノ場合ニ於テ他ノ關係人ヨリ支障有無ノ證明書ヲ差出スコトヲ肯シセサルキハ其地元勸業委員ヨリ其事由書ヲ求テ願書ニ添付スヘシ
但此ノ場合ニ於テハ勸業委員自己ノ意見ヲ付記スヘシ

第六條 部分木植付願ニハ勸業委員ノ連署ヲ受クヘシ
但シ勸業委員ニ於テ意見アルキハ其旨添申スヘシ

第七條 部分木願ハ植付期節三ヶ月以前本廳ニ到達スル様差出スヘシ

○並木取締注意ノ件 明治七年九月二日第二百三十四號

今般内務省ヨリ御達相成候諸道路並脇往還並木之義ハ風雨寒暑之節行客ヲ防護スルヲ以テ人民相互ニ是ヲ培養可致筈ノ處迄來往々其根ヲ掘リ其皮ヲ剝キ其幹ヲ削リ其心ヲ然シ或ハ松脂ヲ採テ我生業ヲ營候者有之夫カタメ根倒レ風折等出來候趣相聞不都合之至ニ候條三長ニ於テ厚ク小前末々迄説諭ヲ加ヘ精々取締方注意致シ今後心得違右等ノ所業イタシ候者有之ニ於テハ相當ノ處分可及此旨區内無洩樣可相達候事

○並木取締注意ノ件 明治十一年三月廿八日丁第四十四號(區戶市長)

道路並木之儀ハ風雨寒暑之節行客ヲ防護候儀ニテ人民相互ニ是ヲ培養保護可致筈ノ處近來漫リニ枝葉ヲ伐リ透シ或ハ立木ヲ伐取候者有之哉ニ相聞甚以テ不都合ノ至リニ有之畢竟兼テ相達置候旨趣一般ニ徹底不致義ニ可有之候條此際厚ク人民へ諭達區長ニ於テ精々取締方注意可致尤今後心得違右等ノ所業致シ候者有

之候ハ、嚴密探索相當ノ處分可及候此旨相達候事

○並木植繼費豫算調書雛形 明治十七年九月二日郡甲第九十號(郡)

並木植繼費豫算調書別紙雛形ノ如ク相定メ候條自今前年度十月卅一日限リ縣廳
土木課へ可差出此旨相達候事

但植繼ケ所無之向ハ其旨同月迄ニ届出ツヘシ

(別紙)

一金何程

並木植繼費

内

國道(縣道何地ヨリ何地街道)

金何程

何

號

内

金何程

苗

木

代

金何程

植

付

費

金何程

手

入

費

但反別何反何畝何步一反ニ付何人掛リ此人夫何人一人ニ付金何程

但反別何反何畝何步三ヶ年間受負一反步ニ付何人掛リ此人夫何人一人ニ付金何程

○水害及海嘯損害表調製報告ノ件 明治廿五年八月廿二日訓令第百二十四號(郡)

水害及海嘯損害表自今別表ノ通調製其時々報告スヘシ

但明治十五年十年郡甲第百四十四號ハ廢止ス

何川流域(或ハ何川)水害(又ハ何國郡市某所海嘯損害)表 廳名

名 稱 員 數 損失價格

死 亡

負 傷

家 畜 死 亡

建 物 流失及崩潰 軒數

破損及浸水 全

耕 地 流 年 季 荒 亡 反 別

生 毛 ノ 損 毛 全 全

損耗代價通計	沈没	船舶流失	雜種流	波止場	橋梁	道路	用惡水路	川除破損	堤防	雜種地
	西洋形	日本形		破損	毀流	破損	破損	破損	欠切	其
	風帆船	五十石以上	損	延長	損失	延長	同	箇所	所	森林山野地
					同箇所			箇所	同延長	他
										全全全

提要

- 一本表ハ一流域毎ニ一表ニ製スヘシ
- 但海嘯ノ損害ハ別表ニ製スヘシ
- 一損失價額ハ見積價額ヲ記入スヘシ
- 一道路堤防等ノ如キハ再築費ヲ記入スヘシ
- 一員數ノ欄ニ建物ハ(軒)反別ハ(町)延長ハ(間)ヲ一位ニ定メ船舶ハ艘數ヲ掲グス
- 一家畜ノ内見積代價ヲ得カタキモノハ本表ニ記入ニ及ハス
- 一鹽田ノ流亡年季荒ハ雜種地ノ部其他ノ欄ニ通算記入スヘシ
- 一開及樋ノ破損ハ用惡水路破損ノ欄ニ通算記入スヘシ
- 一提要ノ欄ニ第一ニ洪水ノ月日第二ニ損害ヲ來セシ幹川名並ニ支泓川名第三ニ罹害ノ國郡市名並ニ町村大字數第四ニ被害ノ景況ヲ記載スヘシ

○天變地異氣象ニ關スル取調ノ件

明治十六年十月六日郡甲第二百二号(郡)

天變地異ハ凡テ氣象ニ關係候ニ付雷電霞霧霜風雨旱澇地震噴火光物隕石海嘯等ノ異兆有之節時機ニヨリ内務省地理局氣象臺ヨリ問合可有之候條前項ハ勿論尙モ氣象ニ關係アルモノハ當分ノ内左ノ備考ニヨリ日々筆記致置回啓不差問樣可致此旨相達候事

備考

- 一 晴曇及寒暖計度(午前八時午后一時ノ兩度トス)ヲ記載スヘシ
- 一 風力印例〇ハ靜穩一ハ軟風二ハ和風三ハ疾風四ハ強風五ハ暴風六ハ颶風トス
- 一 雹霰ハ地上降積ノ寸尺ヲ記スヘシ
- 一 但顆粒ノ大ナルモノハ差渡シ及量目ヲモ付記スヘシ
- 一 雪ハ地上降積ノ寸尺ヲ記スヘシ
- 一 霜ハ大小ヲ分ツヘシ

一 地震ハ震力ヲ十度ニ分ツ則チ地漸ク震フモノヲ以テ一度トシ家屋顛覆スルモノヲ以テ十度トスヘシ

一 雨ハ降雨ト記スヘシ尤モ強暴雨ハ之ヲ分ツヘシ

右ノ外ハ事實詳記スルヲ要ス

日記書式

何年何月何日

當宿直

何之某〇

寒暖計度

晴曇

降雨又ハ強雨暴雨カ

南又ハ東カ風一若ソハ二

雲何寸

霜大若クハ小

地震何度何時何分何度何時何分

雷何時ヨリ何時ニ至リ止ム

午

前

午後

同同同同同同同同

一何々

一何々

一何々

計

右ノ外異事無之

○地震報告ノ件 明治十八年四月七日長甲第十七號(郡)

天變地異ニ關スル義ニ付郡甲第二百二號ヲ以テ相達候所地震報告方地理局長ヨリ別紙之通依頼有之候條爾后震力之強弱ヲ問ス其都度速ニ報告可致此旨相達候事

發五〇號ノ内(地理局長) 明治十八年三月三十日

別紙御依頼及ヒ候義ハ御管下郡役所へ御論達被下候御都合モ可有之ト存候間寫本十八通相添申候御領收有之度候也

(地理局長) 明治十八年三月三十日

本邦ノ地タル火山温泉極テ多ク從テ地震ノ如キ之ヲ他邦ニ比スレハ其數夥多ナルノミナテ殊ニ大ニシテ烈ナル者亦不尠近クハ安政二年江戸大震ノ如キ轉瞬ノ間ニシテ數千萬家ヲ傾倒シ五十餘所ニ發火シ老若男女拾萬餘人壓死焚殺セシハ世人ノ記スル所ナリ爾來幸ニシテ強震ナシト雖モ地變ノ發熱ハ豫測スヘカラ

ス何時再發候ヤモ計リ難シ故ニ當局ニ於テ夙ニ其驗測ニ從事シ豫防ノ方法ヲ講究ス然ルニ元來地震ハ東洋及西洋ノ南部ニ多クシテ英佛獨露等ノ地ニ少キヲ以テ歐米諸國ノ碩學モ未ダ其眞理ヲ究メシ者ナシ故ニ本邦ニ於テ地震アル毎ニ精密觀測シテ其眞理ヲ求メサルヘカラス然レヒ地震ノ發スル事一所ニ於テセス必ス數十里若クハ數百里ニ延及ス故ニ廿二測候所ノ觀測ノミニテハ其要點ヲ見出スヘカラス必ス全國各地ノ報告ヲ得テ仔細ニ對照審查其發所及強弱等其他種々ノ顯象ニ依テ其理ヲ極ムルヲ要ス故ニ昨十七年十二月中當局測量課ヨリ各郡區役所へ及依頼候處最モ一二回ノ地震ハ報告相成候得共其後追々相減シ申候本年地震ノ災タルヤ官民公私ノ別ナク災害ヲ蒙ル者ニ候得ハ官民力ヲ合セ報告ヲ爲シ以テ豫防方法ヲ求メサルヘカラス況ンヤ各郡區役所ハ官署ノ義ニモ有之別シテ注意有之候様致度候間此旨各郡區長へ御示諭相成地震アルトキハ滑漏ナク速ニ報告相成候様御取計有之度此段御照會旁及御依頼候也

追テ明治十七年十二月十六日地震報告ハ各郡區役所悉皆相揃不申候へ共先

ツ報告ヲ製シ官報第四百八十四號へ致揭載候御參看有之度也

○天災地異非常報告

明治二十七年十月廿九日
訓令乙第三百九十三号

(郡市)

天變地異ニ依ル異常報告方兼テ及令達(二十三月五月訓令第四九號)置候處殊ニ落雷ニ關シ取調ノ都合有之候條輕重ニ不拘其都度別紙書式ニ準シ速ニ報告スヘシ別記

一落雷ノ年月日及時刻

二落雷ノ爲メ人ノ氣絶負傷或ハ震死

何々ノ場所ニ於テ男若シハ女何人氣絶負傷或ハ震死

三落雷ノ場所即何郡何村及種類即家屋(避雷針ノ有無)樹木田畑道路山林船

或ハ電信柱等

四落雷ノ爲生シタル損害即家屋(器具共)樹木田畑道路山林船或ハ電信柱等

ニ對スル落雷ノ形跡及破損ノ有様(出來得ル丈細大不殘詳密ヲ要ス)等

五落雷ノ爲メ牛馬等ノ震死

六落雷ノ爲電信電話其他ノ器械ニ起リシ現象損害等

兵 事

○改正徵兵令舊令徵兵令ニ 明治廿二年三月十三日 (郡市町村)
交歩ノ件取扱方 縣令乙七號

本年法律第一号ヲ以テ徵兵令改正ニ付テハ舊徵兵令ニ交渉ノ件左項ニ據リ取扱フヘシ

第一項 左ニ掲グル者ハ戶長ニ於テ徵兵事務條例施行細則第一條ニ依リ壯丁名簿

ヲ作り郡長ニ差出スヘシ

一新令第四十條第四十一條ニ當リ徵集ニ應スヘキ者

二舊令第十八條第五項第六項ニ當リ徵集猶豫中ノ者

三舊令第十七條ニ當ル者ニシテ其資格ヲ失ヒ第十八條(第五項第六項ヲ除ク)

第十九條第廿一條ニ當ル者ニシテ其事故止ミ本年徵集ニ應スヘキモノ

四新令施行前逃亡失踪其他ノ事故ニテ翌年回シト爲リタル者

第二項 前項ノ壯丁名簿ハ郡長ヨリ大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第三項 新令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十二條ニ當リ徵集延期又ハ徵集猶豫中ノ者ハ別ニ壯丁名簿ヲ作ルヲ要セス從前ノ徵集猶豫名簿ヲ郡役所ニ備置異動ヲ生スル者アルトキハ訂正スヘシ

○徵集延期又ハ猶豫中轉籍取扱ノ件

明治廿二年十一月五日訓令第四百四號(郡市)

徵兵令第六十六號第三十七條第三十八條及第四十條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中他ノ徵募區ニ轉籍スル者アルトキハ其名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ嶋司郡市長ニ通知スヘシ

但失踪逃亡其他ノ事故ニヨリ翌年回ト爲リタル者ニテ他ノ徵募區ニ轉籍スル者ノ取扱亦本文ニ全シ

○附籍者徵集ノ件 明治廿二年十一月卅日訓令第四百一號(郡市町村)

附籍者ニシテ徵兵適齡ノトキハ戶主家族ヲ問ハス戶主ヨリ家族ノミ他ヘ附籍ノ場合ニ在テハ本籍戶主ヨリ徵兵令第廿五號ノ届書ヲ差出サシメ本籍ノ徵募區ニ

於テ徵集スルモノト心得ヘシ

○輜重輸卒取扱方 明治廿六年十月三十日訓令乙第二百二十號(郡市)

徵兵令第二十七條ニ當ル者ハ翌年身体検査ヲ行ヒ一般徵否同様取扱フヘキノ所輜重輸卒ニ限リ左ノ通取扱方定メラル

一 疾病犯罪等ノ爲メ第三期ニ入營シ難キ者ハ身体検査ヲ行ハス直ニ所要人員ニ加ヘ其年新兵同時ニ入營セシム

其事故繼續シ若クハ再發シテ尙ホ次年第二期ニ至ルモ入營シ難キ者アルトキハ徵兵検査ノ際身体検査ヲ行ヒ其徵否ヲ判定ス

二 毎年徵募事務結了後ニ在テ前項ニ當ル者アルカ爲メ其年所要人員超過スルトキハ第三期入營ノ時未番號ノ者ヨリ豫備徵員ニ繰下ク

○現役免除願ノ件 明治二十一年六月二日縣令甲第五十四號

本年勅令第十七號陸軍各兵科現役下士補充條例第八條ニ據リ現役免除ヲ願フ者其事故父兄ノ死亡處刑若クハ失踪等ハ戶長ノ證明書癩疾不具等ハ醫師ノ診斷書

ヲ其親族ヨリ本人へ送付スヘシ

○志願兵現役三年未滿ノ者徵否判定ノ件 明治二十一年九月四日訓令第八十八號 (郡)

本年縣令甲第七十號志願兵ハ徵兵令ニ依ラス他ノ規則ニ因テ召集セシ陸海軍志願兵ニシテ現役中傷痍疾病(永久兵役ニ提ヘサル確證アルヲ除ク)其他ノ事故ニ依リ三年未滿ニテ該役ヲ免シ豫備役後備役ニ編入セサル者ハ徵兵適齡前後ヲ問ハズ徵兵檢査所へ呼出シ身体檢査ノ上徵否判定スヘキニ付其旨各戸長へ示達スヘシ

○終決處分ヲ受ケサル者徵兵檢査ノ件 明治二十七年三月十日 縣令第十五號

徵兵事務條例ニ依リ終決處分ヲ受ケサル者ニ志願ニ由リ現役軍人ト爲リ服役三箇年未滿ノ者若クハ常備兵籍ニ編入テ諸生徒學生傷痍疾病其他ノ事故ニ由リ現役若クハ生徒學生ヲ免セラレ兵役上ニ關スル爾後ノ處分ヲ受ケサルモノハ更ニ徵兵檢査ヲ爲シ其徵否ヲ定ムヘキニ付其旨町村役場ヲ經テ郡市役所ニ届出ツヘシ 但明治廿一年本縣令甲第七十號ハ廢止ス

○徵兵相當者失踪逃亡取調ノ件 明治二十二年十月五日 (郡市) 訓令第九十九號

明治廿年以前ノ徵兵相當者ニシテ失踪逃亡ノ爲メ徵集ニ應セサル者年度分チニ取調其住所氏名年齢ヲ記シ本月三十日迄ニ差出可シ 但自今所在發見シタルトキハ其都度届出ヘシ

○徵兵服役中自費ヲ要セス 明治廿三年四月卅日訓令第四十五號郡市 徵兵服役中ニ於テハ別ニ自費ヲ要スル謂ハレナキニ中ニハ心得違ノ者アリ金員ヲ要セサレハ同輩ノ交際ニ差支勤務上ニ關係アリト云ヒ其數ハ爲ニ昇等スルコトヲ得サルト種々ノ虛構ヲ設ケ父兄親戚等へ金錢仕送ノ儀ヲ要求シ父兄等ハ之ヲ輕信シ送金候者モ有之ヤニ相聞是全ク本人ノ虛構ニシテ其身ヲ過マラセ候ニ付其筋ニ於テモ屢諭告セルヲナレトモ若シ右等ノ要求アルトモ父兄等ニ豫テ注意爲致度就テハ此旨町村長ヨリ父兄共へ篤ト諭示シ置候様取計フヘシ

○現役補充員兵種隊號人名等報告ノ件 明治廿五年三月三日 (郡市) 日訓令第十五號 徵兵現役及補充員ニシテ營入期日確定シ大隊區令部ヨリ通知アリタルトキハ其

兵種隊號人名及現住地ノ郡市町村大字名速ニ報告セラルヘシ

○十二月一日入營者 明治二十六年七月廿七日 (郡市) 報告ニ及ハサル件 訓令第一七號

明治廿五年三月本縣訓令第一五號ヲ以テ徵兵現役兵及補充員共種隊号其他報告方及訓令置候處自今毎年十二月一日入營者ハ報告ニ及ハス 右訓令ス

○徵兵費現金前渡手續 明治廿七年四月二日訓第十二号 (郡)

徵兵費現金前渡ヲナシ收支爲取扱候ニ付テハ廿七年度以降該手續左ノ通相定ム

一縣廳ヨリ現金ノ送付ヲ受ケタルトキハ明治廿二年十月大藏省令第十三号出納官吏現金取扱規則第十條ニ依リ保管スヘシ

一前項保管ノ金額ハ二百圓ヲ定度トス

一債主ニ對シ仕拂ヲナサントスルトキハ金額ノ算出ニ係ル明細ヲ記載シタル請求書ヲ徵シ之レカ調査ヲ遂ケ正當ト認ムルトキハ證書ト交換ニ現金ヲ拂渡スヘシ

一仕拂殘金ヲ返納セントスルトキハ各自ノ内譯ヲナシタル返納證ヲ製シ知事ニ差出スヘシ

一前項返納金ニ對シ返納ノ告知ヲ受ケタルトキハ明治廿二年十二月大藏省令第十六號ニ依リ返納スヘシ

一收支了ノ上ハ廿六年十二月會計檢査院達第三號ニ依リ仕拂計算書ヲ調製シ証憑書類ヲ添ヘ知事ニ差出スヘシ

一現金出納簿ハ明治二十六年十一月大藏省訓令第三十二號第十四號式ニ依リ其他各自ノ内譯ヲ記載スル帳簿ハ適宜設備スヘシ

一誤拂過渡其他ノ事故ニ依リ歳入ヘ納付シタルモノアルトキハ當該金庫ノ領收ヲ保證セル書面ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

○徵兵費仕拂計算書ニ出納簿添付ノ件 明治廿七年五月九日 訓令乙第二三六號

現金前渡金仕拂計算書類提出ノトキハ自今現金出納簿ヲ添ヘ送付スヘシ

○徵兵費現金殘高證明ノ件 明治廿四年六月十二日訓令第五十三號(郡)

徵兵費現金前渡仕拂計算書ノ殘高ニシテ金庫へ返納セシ金額ニ對シテハ總テ金庫領收證ヲ添付證明スヘシ最モ廿三年度分既證明ニ係ルモノハ此際取纏メ提出スヘシ

○陸軍士官候補生 幼年學校生 明治二十四年十二月 徒志願書式及取調ノ件 八日縣令丙第五十八號 (郡 市)

陸軍各兵科現役士官候補生并ニ陸軍幼年學校生徒召募之際志願者有之時ハ左ノ書式ニ準シ身分財產等取調差出スヘシ

書式 用紙半紙 明治廿七年十一月一日乙第三百九十五號改正

士官候補生(幼年學校生徒)志願者誰某身上明細表

身分 父某存(亡) 道廳府縣何族平民(何省府縣何官何會社何々何職業何

營業無職業等)陸軍何官何ノ役何年何月日何所ニ於テ戰死等

但分籍等ノ者ハ其實父

父戸主ニアラサルトキ 戸主某母兄等同 本人同

財產 父ノ所得金

俸給手當金年金恩給金割賦賞與金等幾圓公債證書株券代金預金等ノ利子
配當金幾圓資金ヨリ生スル純益金幾圓田畑其他收獲高時價金幾圓何々ノ
營業其他ヨリ生スル純益金幾圓所得金ナキ動產不動産ノ所有高(不動産
ニアリテハ見積價格ヲ記入スヘシ)

戸主ノ所得金 同右 本人ノ所得金 同右

所得金ナキ者ハ財產ノ區畫ニ何々ニ依リ一家生活ス云々ト記入スヘシ

所得金合計幾圓

所得金ナキ動產不動産合計

本人教育 尋常中學高等小學ヲ卒業シ現時何々修學尋常中學第幾年生

尋常中學ニ入ラサルモ某學校若シハ某氏ニ就キ何々修學(尋常中學

第幾年卒業)ニ比シキ學力ヲ有ス

本人性質体格 温良敏捷等 强健稍健等

品行 父存(亡)輕罪以上賭博犯ノ處分ヲ受ケタル有無平素品行方正(稍正)又家

資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未ダ復權ヲ得サル者及身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ在ルキハ其事由等

但分籍等ノモノハ其實父

戸主 同右 本人 同右

前書之通相違無之證明候也

年月日

郡市長姓名印

備考

郡市長本表ヲ調製スル爲メニハ父兄若クハ身元保證人ヨリ町村長教師檢査局警察署等ノ證明書ヲ差出サシム其寄留人モ亦同シ

郡市長本表ヲ調製スル爲メニハ親族若クハ保證人ヨリ教師町村長等ノ證明書ヲ差出サシム其寄留人モ亦同シ

○士官候補生幼年學校生徒 明治廿一年一月四日 (郡市) 志願心得告知ノ件 訓令第百三號

士官候補生幼年學校生徒一年志願兵出願者試験格例并ニ心得方之義ハ毎年陸軍

省ヨリ一般へ告示相成候處右告示ノ趣意民間ニ普及不致爲メニ志願者出願ノ手續ヲ不心得又ハ出願期日遅延等ノ爲メ願意ヲ果サ、ル者往々有之候趣右ハ志願者本人ノ不幸ノミナラス受檢者ノ員數ヲ減スルノ結果ヲ生スル義ニ付將來一層注意普ク所屬下人民へ告知候様取計フヘシ

○豫備後備下士卒結婚願ノ件 明治廿三年三月一日縣令甲第十一號

豫備後備役下士卒結婚ハ所管大隊區司令官ニ於テ許可相成候事ニ候條自今右願書ハ監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ差出スヘシ

○海軍々人結婚願手續 明治廿六年九月五日縣令第廿八号

海軍々人結婚願出手續左之通定メラル

海軍々人結婚願出手續

第一條 海軍々人結婚條例第一條ニ依リ結婚ノ許可ヲ願ハントスル者ハ左ノ書式ニ依リ將官并相當官ハ直ニ海軍大臣ニ差出シト長官士官及准士官ハ所管長官ヲ經テ海軍大臣ニ差出シ下士卒ハ所轄長ヲ經テ所管長官ニ差出スヘシ

結婚願

何府縣何國何郡市區何町村何番地

華士族平民

何某 何女(姉)(妹) 某

何年何月何日生

何年何月何年何月

右記載之者、結婚致度候間御許可被下度別紙身元保證相添此段奉願候也

年月日

官(職) 姓 名 印

海軍大臣(所管長官宛)

前書之趣不都合無之ニ付御許可相成度候也

年月日

所管長官(所轄長) 姓名 印

身元證書

何府縣何國何郡市區何町村何番地

華士族平民

何某 何女(姉)(妹) 某

何年何月何日生

右ハ行狀端正ニシテ年齢前書之通相違無之候此段保證候也

何年何月何年何月

年月日

何府縣何郡市區何町村長姓名印

第二條 各軍人ノ結婚ハ條例ニ依リ許可ヲ得タル後普通人事ノ手續ヲ爲スモノトス

第三條 結婚整ヒタルトキハ其旨速ニ准士官以上ハ海軍大臣ニ届出下士卒ハ所管長官ニ届出ヘシ

○茨城縣陸軍召集條例事務細則 明治二十一年五月十九日 縣令乙第十五號

陸軍召集條例事務細則別冊乃通改定ス

茨城縣陸軍召集條例事務細則

第一章 總則

第一條 本則ハ陸軍召集條例第二十四條ニ基キタル細務ト同條例第六章第七章ニ係ルモノトシ併セテ規定ス

第二條 本則ノ細務ヲ左ノ四項トス

第一 縣廳事務

第二 警察署分署事務

第三 郡役所事務

第四 戸長役場事務

第三條 本則中條例トアルハ陸軍召集條例ヲ云フ

第二章 縣廳事務

第四條

例第二十五條ノ通知ヲ受ケタルトキ條例第二十九條ニ據リ郡長及ヒ警察署長分署長ニ達スニハ左ノ文案ニテ急行脚夫ヲ以テス

達案

東京鎮臺第一(第二)充員(近衛充員)後備軍(驅員兵員)召集發令相成候條成規ニ據リ取計フヘシ

年 月 日 前後時分

第五條 第九十三條第九十四條ニ據リ演習召集ノ通知アリタルキハ條例第九十七條ニ據リ郡市長及ヒ警察署長分署長ニ達スルニ左ノ文案ヲ以テス

但シ郡長ヘハ旅費金ヲ同時ニ送付ス

郡長へ達案

東京鎮臺(近衛歸休兵)(豫備役)(後備軍)驅員兵員何年何月何日ヨリ何週間演習施行相成候ニ付(其郡下豫備役後備軍驅員兵員召集旅費概算金何圓何拾錢送付候條明細書(第五書式)ヲ作り各自ノ領收證添付何月何日迄ニ差出スヘシ但金圓ハ別途送付ス)

年 月 日

知 事 名

警察署分署へ達案

(東京鎮臺)近衛歸休兵豫備役(後備軍)驅員兵員何年何月何日ヨリ何週間演習召集ノ義發令ニ付制規ニ據リ取計フヘシ

年 月 日

知 事 名

第六條 删除(明治廿四年八月十一日縣令乙第七號)

第七條 條例第三百三十條ニ據リ點呼施行期日ノ通知ヲ受ケタルトキハ左ノ文案ヲ

以テ郡長ニ達ス

達案

在郷兵點呼召集何年何月何日ヨリ施行相成候條不都合無之様取計フヘシ

年月日

事 知 名

第八條 條例第百六十六條ニ據リ召集旅費概算表ヲ陸軍省ヘ差出スニハ左ノ文案ヲ以テス

進達案

召集旅費概算表進達

自何年何月何日至何年何月何日縣下歸休兵豫備役後備軍艦員兵員旅費概算表條例第六十六條ニヨリ別紙正副二通進達候也

年月日

茨 城 縣

陸軍省宛

第九條 條例第三十二條第五十三條第六十三條第八十四條ノ艦員兵員召出途中疾

病其他ノ事故ノ 本則第三十二條第二項ニ據リ滯留日當其他ノ實費繰替金ヲ戶長ヨリ請求アリタルトキ鎮臺ノ艦員兵員ニ係ル分ハ鎮臺監督部ヘ近衛ノ艦員兵員ニ係ル分ハ近衛監督部ヘ左ノ文案ヲ以テ請求シ該金受領ノ上ハ郡役所ヲ經テ戶長役場ヘ送付スヘシ

鎮臺(近衛)監督部ヘ繰替金請求案

記

一金何圓何十錢也

但シ鎮臺(近衛)歸休兵(豫備役)(後備軍艦員)(兵員)官氏名外何名分繰替金右何年何月何日發令召集ノ旅行途中疾病川支其他何々事故アルニ付該地戶長役場ニ於テ別紙當人証書ノ通東京鎮臺陸軍召集條例細則第十條ニ據リ繰替支給候間御廻金有之度此段及御照會候也

年月日

茨 城 縣

東京鎮臺(近衛)監督部宛

第十條 刪除(明治廿四年八月十一日縣令乙第七號)

第三章 警察署分署事務

第十一條 條例第廿八條ノ憲兵部ノ設ナキ地ハ警察官吏專ハラ擔任スヘキヲ以テ警察署長分署長ハ條例第二十九條第九十七條ニヨリ召集發令ノ旨縣知事ヨリ達ヲ受ケタルトキハ專ハラ條例第廿八條ノ各項ヲ執行(條例第九十七條ノ演習召集ニ付テハ條例第廿八條第二項第三項ヲ執行スル限リニアラス)スヘキヲ以テ部内巡查派出所ヘ達スヘシ

第十二條 前條ノ達ヲ受ケタルトキハ條例第廿八條第一項ニヨリ戸長役場ニ就キ召集ニ應スヘキ人名(軀員ハ郡役所ノ通知)ヲ承知シ各自ノ家ニ到リ命令后廿四時間内ニ(演習召集ハ令狀ニ記載アル發着期日ニ參着スヘキ日時ヲ計リ)出發セシヤ否ヤヲ調査シ若シ故ナク猶豫スルモノアルトキハ説諭シテ出發セシムヘシ但時間ヲ計算スルニハ戸長ハ令狀受領證到達シタル時ヨリ起算ス

一同條第二項ニヨリ豫テ各縣道毎宿驛ニ軍用旅宿一戸乃至三戸ヲ定メ標旗ハ普通

通國旗ハ陸軍ノ徽章ヲ付着ス)標燈(普通提灯ハ陸軍ノ標章ヲ付着ス)ヲ備ヘ置カシメ前條達ヲ受ケタルトキハ直チニ報告シ軍用旅舍タルノ標ヲ掲ケシムヘシ其費用ハ旅舍ノ自辨トス

但シ召集ノ軍人賄ハ一泊金十五錢一晝五錢以下ヲシテ爲サシムヘシ

一右條第三項ニ據リ國縣道中要地ト認ムル河川港灣停車場等ヲ豫定シ置キ巡查一名乃至二名ヲ出張セシメ取締ヲナサシムヘシ

第十三條 條例第廿八條第四項ノ召集命令ヲ受ケ失踪逃亡セシ者或ハ違令シタルモノヲ拘留シ口供ヲ作り召集地ヘ遞送スヘキハ勿論ナリト雖モ普通治罪ニ據リ處分ヲ受ツヘキモノハ此限リニアラス

第十四條 條例第四十三條第五十九條第七十五條第八十九條第百六條第百廿五條ノ證認ヲ警察署分署巡查派出所巡回巡查ニ請求アリタルトキハ事實ヲ審査シ其相違ナシト認ムルトキハ第十二書式ニ據リ證認シ第百三十六條ノ證認請求ハ警察署分署巡查派出所ニ差出サセ證認スヘシ但警察署分署ニ在テハ可成署長捺印

スヘシ

第十五條 條例ニ據リ召集ニ應スヘキモノ旅行途中川支其他ノ事故ニテ滞留シ又ハ演習召集ノ際父死亡等ノ故ヲ以テ證明請求アリタルトキハ事實ヲ審査シ第八書式ニ準シ証明スヘシ

第十六條 條例第四十九條ニ據リ掲クル警報用紙ハ西ノ内堅繼ニ枚以上トス

第四章 郡役所事務

第十七條 條例第廿九條第一(第二)近衛充員後備軍(近衛後備軍)艦員兵員召集ノ達ヲ受ケタルトキハ郡長ハ條例第三十條ニ據リ左ノ文案ニテ戸長并ニ豫備役後備軍艦員ニ達スヘシ

但シ其達書封及表面ニハ急飛充員召集等ノ文字ヲ朱記スヘシ

一全第三十條郡長ハ飛信若クハ豫定ノ脚夫ヲ以テ戸長ニ達シ時宜ニヨリ郡書記又ハ雇吏ヲ發シ急行ヲ以テ戸長ニ達シ而シテ戸長役場ノ申報ヲ補助セシムルヲアルヘシ

一全條艦員ハ令狀達スル爲メ派遣シタル脚夫又ハ吏員歸着即時ニ其出發并ニ歸着ノ日時郡駐在官ニ通知スヘシ

一同條豫備役後備軍艦員ハ召集令狀ヲ配達シタルトキハ其受領証ヲ要ス郡役所ニ於テ平時像ノ其人員ニ應シ領收書用紙(第一書式)ヲ製シ置キ令狀ヲ領收スルトキハ月日及時分記入ノ上押印セシメ取置クヘシ

一同條及ヒ第廿七條召集令狀ハ其受返ノ時刻(發送ハ最終ノ時刻)ヲ取調置クヘシ

戸長達案

東京鎮臺第一(第二)(近衛)(充員後備軍)(近衛後備軍)艦員兵員召集發令有之候條成規ニ照シ取計フヘシ

年 月 日 午前午後時分發ス 郡 長 氏 名 印 艦員ハ達案

東京鎮臺第一(第二)(近衛充員後備軍)(近衛后備軍)區員召集發令有之候條別紙令

狀及送達候也

年 月 日 午前後時分發ス 郡 長 氏 名 印

豫備役(後備軍)區員

官 氏 名 殿

追テ別紙領收証へ年月日及領收ノ時刻ヲ記シ押印ノ上返送可有之候也

第十八條 條例第四十二條第五十八條第七十四條第八十八條ニ當ル區員ノ令狀ハ

發程ニ便ナラシムル爲メ其儘本入ニ渡シ置クト雖トモ疾病快癒セス又ハ事故止
マサルトキハ郡長ヲ經テ郡駐在官ニ返付セシムヘシ

第十九條 條例第四十九條ノ警報ヲ公示スヘキ揭示場ナキ箇所ハ豫メ其場所ヲ定
メ置クヘシ

但揭示場アル地ト雖トモ其場所公衆ノ注目ニ便ナラスト認ムルキハ更ニ相
當ノ地ヲ撰ヒ揭示ス其用紙ハ西ノ内竪ニ枚繼トス

第二十條 刪除(明治廿四年八月十一日縣令乙第七號)

第廿一條 條例第九十八條ニ當ル歸休兵(豫備役)(後備役)(近衛豫備役)(近衛後
備軍) 艦員兵員演習召集ノ發令アルニ當リ戸長及ヒ艦員ニ達スルニハ左ノ文案
ヲ以テスヘシ

但艦員令狀領收証ハ第四書式ニ據ラシムヘシ

戸長へ達案

東京鎮臺(近衛)歸休兵(豫備役)(後備軍)艦員兵員何年何月何日ヨリ何週間演習
施行相成候條不都合無之様取計フヘシ

年 月 日 郡 長 氏 名 印

區員へ達案

東京鎮臺(近衛)區員何年何月何日ヨリ何週間演習施行候條別紙令狀及送達候也

年 月 日 郡 長 氏 名 印

豫備役(後備軍)區員

官 氏 名 殿

追テ領収證速カニ可差出候也

第廿二條 條例第百七條第八條第百廿六條第百廿七條總員又ハ戸長ヨリ差出シタルトキハ取纏メノ上郡駐在官ニ返附スヘシ

第二十三條 條例第百三十一條ニ據リ郡駐在官ヨリ點呼召集令狀ヲ受ケタルキハ條例第百三十二條ニ據リ左ノ文案ヲ以テ戸長ニ達スヘシ

達案

今般點呼召集施行相成候條不都合無之様取計フヘシ

但シ點呼令狀何拾葉送付候條各自へ下附ノ上領収證取置クヘシ

年月日 郡長 氏名印

第二十四條 條例第百四十八條ニ依リ名簿ヲ調製スルニ當リ(充員名簿ハ到着日數ヲ記スルヲ要セス)各兵科各部及ヒ召集地(輜重輸卒ニ限ル)(近衛兵ハ召集地)ニ分チ第十三書式其一乃至其五ノ雛形ヲ斟酌調製スヘシ且近衛兵員(豫備役)名簿ハ近衛集合地及ヒ隊號ノ二區畫ヲ設ケ年度ヲ分チ籤番號ノ順序ニ記載スヘシ

一同條諸名簿ハ郡駐在所名簿ト照合シ常ニ明瞭ナラシムヘシ

第二十五條 條例第百四十九條ニヨリ召集名簿ヲ訂正加除スルニ便ナラシムル爲メ驅員兵員(近衛モ含有ス)ノ身上異動届ハ戸長郡長ヲ經テ郡駐在官へ差出サシムヘシ

第二十六條 條例第百六十五條召集旅費概算表ハ現員ニ十分ノ三(假令ハ歩兵廿人ナレハ廿六人トスルハ勿論ナレモ一人ナルトキハ二人トシ二人ナレハ三人トスルカ如シ)ヲ加ヘ其増加ニ係ル人員ノ旅費金ハ現員中最遠地ノ者ニ均シキ額ヲ以テ計算調理スヘシ

一同條召集旅費概算表合計區畫ノ金額ハ第二充員召集ノ旅費金ヲ扣除シ記載スヘシ

一同條召集旅費概算表欄外ニ四月十日調ハ第一次十一月十日調ハ第二次ノ三字ヲ朱書スヘシ

第廿七條 條例第三條第六條第八條第十二條及第十四條ノ豫備役後備軍驅員ハ官廳奉職ノ者ト雖モ別命アル者ヲ除クノ外總テ召集ニ應スルモノトス

第廿八條 條例第百七條第百八條第百二十六條第百二十七條ノ疾病事故等ニテ演習半ヲ過キ出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタル者ノ令狀ヲ驅員又ハ戸長ヨリ差出シタルキハ取纏メノ上郡駐在官ニ送付スヘシ

第廿九條 條例ニヨリ驅員ニ令狀ヲ發シタルキハ同時ニ本人所在地ノ警察署又ハ分署ヘ通知スヘシ

第五章 戸長役場事務

第三十條 條例第二十八條第二項ニ當ル驅員兵員通行ノ際枝道ニアリテハ戸長役場ニ就キ宿舍ヲ要求スルヲアルキ以テ役場最寄ノ地ニ豫メ宿舍凡ソ一軒ヲ定メ置キ差支ナキ採取計フヘシ但召集ノ軍人賄ハ一泊金十五錢以下一晝金五錢以下ヲシテ爲サシトヘシ

第三十一條 條例第三十條ノ達ヲ受ケタルキハ戸長ハ條例第三十一條ニヨリ第一

(第二)(近衛)充員(驅員ヲ除ク)後備軍(近衛後備軍)兵員ノ令狀ヲ豫定ノ脚夫又ハ役場吏員ヲ發シ急行ヲ以テ各兵員ニ配達セシメ領收証ヲ要スルキ以テ戸長役場ニ於テハ平時豫メ其人員ニ應シ第一書式ノ領收証ヲ製シ置キ令狀下付シタルキハ年月日時分記入ノ上押印セシメ取置クヘシ

但本文ノ派遣シタル脚夫又ハ吏員歸着ノ即時ニ其出發並ニ歸着ノ日時ヲ郡駐在官ニ通知スヘシ

一同條令狀ハ送受ノ際心ス其時刻(發送ハ最終ノ時刻)ヲ取調ヘ置クヘシ

第三十二條 一前數條ノ驅員兵員召集ノ途中疾病又ハ川支其他ノ事故ニテ滞留シ又病氣ノモノ、診斷料價藥ハ實費ヲ給シ當人ノ受領證(滞留日當)ハ第九書式

(診斷料價價ハ)第十書式ヲ取置キ出發セシメ該金ハ當人ノ證書ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ五日以内ニ縣廳ヘ請求スヘシ

一前項疾病川支等ノ場合ニ於テ驅員兵員ヨリ事由ヲ詳記シタル証認書第八書式ヲ請求アリタルキハ其事由ヲ質シ速カニ之ヲ下付スヘシ

第三十三條 條例第三十二條第五十三條第六十三條第八十四條ノ歸休兵並ニ豫粟役後備軍職員兵員ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應ジ又ハ近衛集令地ニ到ラント欲スルモノ召集命令ヲ通報スヘキ親戚又ハ近隣ノ者(本籍戸長所轄内ノ者ニ限ル)ヲ以テ定メ後繼軍司令官ニ出願許可ヲ受ケタルキハ條例第四百十八條名簿外ニ第十一書式ニ據リ寄留簿ヲ製シ置キ召集ノ發令アルキハ令狀(驛員ハ除ク)通報入ヘ相渡シ第一第四第六書式ノ領取證ヲ徴スヘシ

第三十四條 條例第四十三條第五十九條第七十五條第八十九條第一百六條第二百二十五條ニ當ル兵員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應ジ難キ者アルキハ該屆書第十二書式ヲ召集令狀受領ノ後二十四時内ニ(演習召集ノキハ其參着期日ヲ計リ)戸長ニ差出サセ戸長ハ發令後三日以内ニ(演習ノキハ屆召集書差出後)郡長ヲ經テ郡駐在官ニ送致スヘシ

第二十五條 條例第三百二十六條ニヨリ兵員疾病又ハ其他ノ事故ニテ點呼所ヘ參會スルコト能ハサキルハ該屆書(第十二書式)ニ毛帖ヲ添ヘ(當日參會時限)郡駐在官

ハ差出サシムヘシ但シ其旨同時ニ戸長ヲ經テ郡長ヘモ届出ヘシ

第三十六條 條例第四十二條第五十八條第七十四條第八十八條第一百五條第百廿四條ニ當ル兵員ノ屆書ハ召集令狀受領ノ後二十四時内ニ郡駐在官ニ差出サセ同時ニ戸長役場ヲ經テ郡長ヘモ届出サスヘシ

第三十七條 削除(明治二十四年八月十一日縣令乙第七號)

第三十八條 條例第百八條第百二十七條ノ疾病事故等ニテ演習半ヲ過キ出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタル者ノ令狀ヲ兵員ヨリ送付シタルトキハ取纏メノ上郡長ヘ差出スヘシ但條例第百三十六條ノ點呼令狀モ本條ノ手續ニ據ルヘシ

第三十九條 條例第四十九條警報公示ノ法方ハ本則第十九條ニ據ルヘシ

第四十條 條例第九十九條第百三十二條ニ據リ定時演習令狀并ニ點呼令狀ヲ各自ヘ配達スルニ脱夫ヲ以テスル等ハ便宜ニ依ルト雖トモ領取証(第四書式)ハ必ス取置クヘシ

第四十一條 削除(明治二十四年八月十一日縣令乙第七號)

第四十二條 條例第四百十八條戶長役場ニ備ル所ノ名簿ヲ點呼所ニ於テ點檢スヘキ旨駐在官ヨリ照會アルトキハ戶長之ヲ携帶スヘシ

一同條戶長役場ニ備ル所ノ充員名簿ハ到着日數ヲ記スルヲ要セス各兵科各都及ヒ召集地(輜重輸卒ニ限ル)(近衛兵ハ集合地)ニ分チ第十三書式其一乃至其五ニ依リ調製スヘシ但シ第二充員召集ニ應スヘキ者ノ人名ハ其時々通達スヘシ

第四十三條 條例第四百十九條ニヨリ召集名簿ヲ訂正加除スルニ便ナラシムル爲メ驅員兵員(近衛ヲ含有ス)ノ身上異動届ハ郡長ヲ經テ郡駐在官ヘ差出サシムヘシ但此場合ニ於テハ本則第四十二條各項ニ依リ召集名簿ヲ訂正加除シ置クヘシ

第四十四條 條例第五百十二條ノ召集令狀ヲ受取タルキハ嚴重ニ取締ヲナシ置クハ勿論常ニ條例第五百十四條ニ依リ召集名簿ニ照合シ置クヘシ

第四十五條 條例第五百十四條旧書ノ身上ニ異動生ラシ歸休共ヨリ豫備役ニ豫備役ヨリ後備役ニ移リ又ハ其役場所轄内ニ於テ轉居スル等ノ者ノ令狀ハ戶長ニ於テ訂正ヲ加フヘシ

一右郡内ニテ甲乙町村ニ異動スル者ノ令狀ハ舊住地戶長ヨリ新住地戶長ニ送付シ新住地戶長ニ於テ訂正加除スヘシ

一戶長ノ姓名ニ異動アルキハ戶長ニ於テ紙片ヲ貼附シ訂正ヲナスヘシ

一前項ノ外書換ヲ要スルモノ又ハ他郡區ニ異動シタル者ノ令狀ハ異動届書ト共ニ郡長ヲ經テ郡駐在官ニ送付スヘシ

第四十六條 兵員ニシテ甲地ヨリ乙地ヘ對シ爲メニ第二充員ノ所要人員外若クハ第一充員ノ別命ヲ待ツ部ニ變シタルキハ郡駐在官ヨリ其都度新住地戶長ニ通知アルヘキニ付戶長ニ於テハ召集名簿ニ加筆シ置クヘシ

第四十七條 條例第九十三條ノ定時演習召集ニ際シ父母ノ重病或ハ死亡等ノ故ヲ以テ召集ノ延期ヲ願フ者ハ二週日以内延期セラルヘキヲ以テ其事實ヲ詳記シ疾病ハ診斷書死亡ハ證明書(警察官吏若クハ戶長ノ證明)ヲ添ヘ驅員ニ在テハ條例第五百五條兵員ニ在テハ條例第百六條ニ準シ郡長ヲ經テ出願許可ヲ受ケサヌヘシ

第一書式

召集令狀領收證

一召集令狀

何年何月何日午前午後何時何十分領收

右正領收候也

郡町村番地住

歸休兵豫備役後備軍騎員兵員

年月日

官氏名印

何郡長(戶長)某殿

備考

一寄留地ヨリ召集ニ應スルモノハ通報人ヨリ本證ヲ指出サシムヘシ

第二書式第三書式削除(明治廿四年八月十一日縣令乙第七號)

第四書式

演習(點呼)令狀領收證

一演習(點呼)令狀

壹葉

但來ル何月何日某地ニ參着スヘキ分

右正ニ領收候也

郡町村番地住

豫備役(後備軍)騎員(兵員)

官氏名印

年月日

何郡長(戶長)某殿

備考

一寄留地ヨリ召集ニ應スルモノハ通報人ヨリ本證ヲ差出サシムヘシ

第五書式第六書式削除(明治廿四年八月十一日縣令乙第七號)

第七書式

診斷書

何縣何郡何町村何番地住

歸休兵(豫備役)後備軍(騎員)兵員

官氏名

右ハ何年何月何日何々症ヲ發シ爾來何々症候アルヲ以テ何々症ニテ歩行難相成

モノト診斷候也

何縣何郡何町村番地住

醫師氏

名印

年月日

第八書式

滯留證認書

何縣何郡何町村何番地住

歸休兵(豫備役)後備軍(驅員)兵員

官 氏 名

右、何年何月何日(午前午後)何時部内何郡何村何番地某方へ投宿相成候所何々事故(病氣醫師診斷書)之通リニシテ止ヲ得ヌ滯留今何月何日(午前午後)何時事故止ミ(病氣快癒)出發相成候ニ相違無之候條此段證認候也

茨城縣何郡何町村

年 月 日

戶 長 氏 名 印

第九書式

滯留日常金受領證

一何拾錢也

且召集途中(疾病)(川支)(何々事故)ニ付何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何日間何郡何町村ニ於テ滯留

右召集途中滯留日常金正ニ受領候也

郡町村番地住

歸休兵豫備役后備軍驅員兵員

年 月 日

官 氏 名 印

何郡何町村

戶 長 某 殿

第十書式

診斷料藥價受領證

一金何圓何拾錢也

內 譯

金何拾錢 但何年何月何日午前午後何郡何町村ニ於テ發病ニ付醫師診斷料

金何拾錢 但右同斷ニ付何月何日ヨリ何月何日迄何日間藥價料

右召集途中疾病ニ付醫師診斷料藥價料正ニ受領候也

何縣郡町村番地住

歸休兵豫備役后備軍驅員兵員

年 月 日

官 氏 名 印

何郡何町村

戶 長 某 殿

備考 一醫師診斷料藥價ハ實費ヲ給スルニ付該醫師ノ受取證ヲ添付スヘシ

第十一書式

明治何年

陸軍召集令通報者名簿

某町村戸長役場

何縣何郡何町村番地住族籍名幾男等

何府縣何郡區町村何番地族氏名方へ寄留ヨリ

召集ノ義明治何年何月何日鎮臺營所后備軍兵 兵種番 氏 名

司令官許可

右通報人

何縣何郡何町村番地住

氏 名

(其二)

逃亡失踪届

郡町村番地住

氏 名

明治何年徵兵々種番號
何年豫備後備役何等卒

右之者何年月日家出ノ儘所在相分ラス候ニ付今般ノ何召集ニ應シ難シ候間警察
官吏ノ證認ヲ受ケ此段御届申候也

郡町村番地

年月日

戸主(又ハ親族氏 名 印

郡駐在官官氏名殿

前書之通相違無之候也

年月日

右 戸長 氏 名 印

右證認ス

某署長又ハ在勤巡查

官 氏 名 印

年月日

備考

一警察官吏ノ證認ハ總テ墨書トス但シ巡廻巡查ニアリテハ鉛筆ヲ用ユルモ
妨ケナシ

第十三書式改正 明治廿四年八月十一日縣令乙第七號

豫備後備將校下士兵卒名簿雛形

其一

豫備後備將校下士之部 歩兵科騎兵科砲兵科工兵科輜重兵科車吏部衛生部獸醫部

徵集年籤番號 服役時日 住所 等級勳級 姓名

何 年 歸 自明治年月日
 至明治年月日 何 某
 豫 自明治年月日 何 某
 至明治年月日 少佐一等軍
 後 自明治年月日 曹 勳 何 等
 至明治年月日

一 下士ニシテ士官選任證書所持者ハ士官一年志願兵ハ一志ト姓名ノ右肩ニ朱書スヘシ

一 將校下士ニハ徵集年度籤番號歸休ハナキヲ以テ該野ヲ其ノ儘空野トナシ置クヘシ

其二

歸休兵歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵之部
 徵集年籤番號 服役時日 住所 等級勳等 姓名

何 年 歸 自明治年月日
 至明治年月日 何 某
 豫 自明治年月日 上等兵
 至明治年月日 一二等兵 何 某
 後 自明治年月日 勳 何 等
 至明治年月日

一 徵兵令第十三條ニ依ル者ハ(令歸)過員ノ者ハ(過歸)ト籤番號上部欄外ヘ朱記スヘシ

一 所屬隊號即チ何兵第聯隊(何兵第何大隊)ト姓名ノ右肩朱書スヘシ
 一 喇叭手ハ一二等喇叭手ト記載スヘシ以下同シ

其三

豫備後備歩兵騎兵工兵輜重兵之部

徵集年籤番號 服役時日 住所 等級勳等 姓名
 歸 自明治年月日
 至明治年月日 何 某
 豫 自明治年月日 上等兵
 至明治年月日 一二等兵 何 某
 後 自明治年月日 勳 何 等
 至明治年月日

一 下士適任者ハ(下士)担架術修業者ハ(擔)山砲兵ハ(野)塹塞砲兵ハ(要)ト姓名ノ右肩ニ朱書スヘシ

其四

豫備後備輜重輸卒看護手之部

三百廿八

徵集年籤番號	服役時日	住	所	類	別	姓名
何第 年 番	歸 自明治年月日 至明治年月日	何	何	上	二等卒	何 某
後 自明治年月日 至明治年月日	何	何	何	一二等卒	何 某	何 某

一下士適任者ハ(下士)組長ハ(組)入營者ハ(入)未入營者ハ(未入)ト類別ノ區畫
ハ朱書スヘシ

其 五

豫備後備靴工縫工鞍工鑄工鍛工銃工蹄鐵工之部

徵集年籤番號	服役時日	住	所	類	別	姓名
何第 年 番	歸 自明治年月日 至明治年月日	何	何	何	何	何 某
後 自明治年月日 至明治年月日	何	何	何	何	何	何 某

備考

- 一 各名簿ハ近衛師團各別ニ調製スヘシ
- 一 名簿表顯近衛下士兵卒之分ハ歸休豫備後備ノトニ近衛ノ二字ヲ冠スヘシ
- 一 將校下士ノ部(第一号)豫備後備各兵科ニ區分シ一冊ニ調製見出ヲ付ヘシ
- 一 歸休兵ノ部(第二号)各兵種ニ區分シ一冊ニ調製見出ヲ付スヘシ
- 一 各兵種ノ部(第三號)輸卒看護手ノ部(第四號)各職工ノ部(第五號)合シテ一冊トナシ豫備後備ノ部門ヲ設ケ而シテ豫備後備役編入ノ年度ニ區分シ尙各兵種各雜卒各職工ニ區分各見出ヲ付スヘシ
- 一 毎年度充員及ヒ後備軍召募區分等監視區長ヨリ通報アルキハ其區分ヲ明瞭ナラシメン爲メ各自姓名ノ上部欄外ヘ左ノ如キ下札ヲ爲シ召募令狀ト照合シ置クヘシ
- 下札畧ス
- 一 各名簿縱長ノ空畫ニハ各自身上ニ係ル異動其他必要ノ件ハ漏ナク記載スヘシ

一將校名簿ニ限リ町村役場ニ備フルヲ要セス

○茨城縣陸軍召集條例事務細則心得ノ件

明治二十一年六月二日
縣令乙第十八號

本年五月茨城縣令乙第十五号陸軍召集條例事務細則後備軍司令官及縣駐在官トアルハ大隊區司令官郡駐在官トアルハ監視區長ノ義ト心得ヘシ

○茨城縣國民兵召集事務細則 明治廿八年十二月廿三日訓令甲第廿號

明治廿八年茨城縣訓令甲第三號茨城縣國民兵召集事務細則左之通改正ス

茨城縣國民兵召集事務細則

第一章 召集準備

第一條 郡市役所町村役場ニハ國民兵召集規則第一條第一種第二種國民兵召集名簿第一様式一二及第一種第二種第三種第四種國民兵召集人員表第二様式一二三四ヲ備置キ召集名簿ノ異動ハ加除訂正ヲ加ヘハ、瞭ラシムヘシ但シ郡役所ニ在テハ每町村ニ區分スルモノトス

前項召集名簿ハ年齢ノ若キモノヨリ順序ニ編制シ第一種ノ名簿ニ在テハ將校全

相當ノ准士官及下士兵卒職工並ニ各兵科各部ニ區分スヘシ

第二條 前條召集名簿人員表ハ毎年四月一日ノ現在員ヲ豫定シ一月四日迄ニ整理スヘシ

町村長ハ前項名簿及人員表ニ係ル異動ヲ調査シ第一種第二種ニ在テハ其時々第三種第四種ハ三ヶ月毎ニ取纏メ郡長ヘ申報シ市ニ於テハ市長之ヲ調査メヘシ但シ所轄外ニ係ル異動ハ送籍ノ際市町村長ヨリ第一種第二種ハ名簿寫添ヘ其他ハ其種類等ヲ詳記シ轉籍地ノ市町村長ヘ通報スヘシ

第三條 町村役場ニ備置ノ國民兵召集名簿ハ毎年二回以上郡役所ノ名簿ト照合スヘシ

第四條 郡市長ハ毎年一月十日迄ニ國民兵召集名簿及召集人員表ヲ大隊區司令官ヘ送付シ爾後召集名簿ノ異動ハ三ヶ月毎ニ令官ヘ申報スヘシ

第五條 郡市長ハ毎年一月十日迄ニ國民兵召集人員表ヲ當廳ヘ差出スヘシ

第六條 國民兵召集規則第一條第二種第三種ノ年齢計算ハ召集年ノ十二月ヲ以テ

ス但シ年齢ハ生月ニ止ノ全月生ノモノハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ムルモノトス

第七條 六週間現役満期ノ者ハ國民兵召集規則第一條第四種ニ屬スルモノトス

第八條 退役准士官以上及元士官以下ノ者ニシテ國民軍編入ノ許可ヲ受ケタルモ

ノハ國民兵召集規則第一條第一種ニ屬スルモノトス

第九條 郡市長ハ大隊區司令官ヨリ召集豫定所要人員ノ配賦ヲ受ケタルトキハ二

月盡日迄ニ其豫定應召人名簿(第三様式)ヲ大隊區司令官ヘ送附シ郡ニ在テハ全

時該名簿ノ寫ヲ以テ町村長ヘ交付シ置クヘシ

郡長ハ大隊區司令官ヨリ國民軍編入許可人名ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村

長ヘ配達スヘシ

第十條 前條豫定應召人員中左ノ各項ニ該當スルモノアルトキハ郡市長之ヲ調査

シ應召人名簿ヲ除キ其補填人名ト共ニ大隊區司令官ニ通報シ郡ニ在テハ同時町

村長ニ通達スヘシ

一官吏教員公吏議員及軍事上ノ役務ニ就職スルモノ其他特別ノ公務ニ服シ余人

ヲ以テ代フヘガラサルモノ

二本人召集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサモノ確證アルモノ

第十一條 國民兵召集規則第十四條ノ應召員引率郡市吏員ノ官職氏名ハ郡市長ヨ

リ二月二十日迄ニ大隊區司令官ニ通報シ變更ノトキハ其時々通報スヘシ

第十二條 陸軍召集旅費出納官吏ハ國民兵召集規則第十九條ニ依リ召集旅費金額

計算之爲メ各自居住地ヨリ第合地ニ至ル里程ヲ取調置クヘシ

市長ハ前項ノ調査ヲナシ國民兵召集規則第十條ノ應召員連名簿寫ト共ニ水戸收

稅署長ヘ回付スヘシ

第十三條 國民兵召集旅費支給所ハ陸軍召集旅費支給所及支給區域ニ依ルモノト

ス

第十四條 國民軍編入志願許可ノ將校及元下士ハ召集地ニ單行セシメラルヘキニ

付其旅費ハ編制地ニ於テ支給セラルヘモノトス

第十五條 市町村長ハ平時ニ於テ國民兵召集規則第十條ノ召集令傳達書ヲ調製シ

置キ臨時ノ要ニ供スヘシ但傳達書ニハ旅費支給所ヲ記シ下札シ置クモノトス

第十六條 國民兵召集年度ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月盡日迄ヲ一ケ年トス

第十七條 國民兵ハ本籍ニ於テ召集ニ應スルモノトス但寄留又ハ旅行中ニシテ期

日ニ到達シ能ハサルモノハ國民兵召集規則第十二條ノ事故者ニ準シ取扱フモノトス

第二章 招 聚

第十八條 國民兵招聚ヲ令達スルニハ第四様式ノ文例ニ據ルモノトス

第十九條 招聚ニ際シ國民兵招聚規則第廿三條ノ后備役兵アルトキハ先ツ之ヲ以テ配布人員ヲ補填スルモノトス但招聚令狀ハ附與スルニ及ハス

第二十條 郡長ニ於テ招聚人員ヲ配賦スルニハ國民兵招聚規則第九條ニ據ルノ外尙國民兵招聚事務準則第八第九項第十項ニ準據スルモノトス

第廿一條 警察署長及警察分署長ハ國民兵招集ノ際ニハ陸軍招集條例第廿八條各項ニ準シ執行シ國民兵召集地(即檢査所)及旅費支給所ヘハ取締ノ爲メ巡査ヲ派

出ヒシムヘシ

召集地所在ノ警察署警察分署ニ於テハ國民兵應招員宿泊ノ旅舎ヲシテ國民兵應招員何名宿泊所ノ標札入口ニ掲出セシムルモノトス

第廿二條 國民兵召集ノ際ハ陸軍召集條例第四十九條ニ準シ警報(第五様式ヲ)掲示スルモノトス

第廿三條 市町村長ハ國民兵召集規則第十條ノ應召員連名簿三通ヲ調製シ二通ハ集合地ニ於テ交付ノ用ニ供シ一通ハ市役所町村役場ノ備トナシ合格不合格其他ノ事項ヲ記入シ置クモノトス

第廿四條 市町村長ハ國民兵召集規則第十二條ノ届ヲ受ケタルキハ召集ノ種類中年齡若キモノヨリ順次ニ傳達書ヲ配賦シ其人名ハ町村長ヨリ郡長ヘ急報シ郡市長ニ在テハ速ニ大隊區司令官ヘ報告スヘシ但シ順次配賦スヘキ人員ナキモ亦全

シ
前項ノ事故者其事故止ミタルキハ町村長ヨリ郡長ヘ報告シ郡市長ハ大隊區司令

官へ報告スルモノトス

三百三十六

第二十五條 市町村長ハ國民兵招集規則第十二條ノ違犯者アルキハ之ヲ告發シ町村長ニ在テハ全時ニ郡長へ報告スヘシ

第二十六條 陸軍招集旅費出納官吏ニ於テ國民兵招集旅費ヲ交付スルトハ其招集令傳達書ヲ點檢シ制規ノ記入押印ヲナシ本人へ送付スヘシ

第二十七條 國民兵應招員ヲ引率スル郡市吏員ニ於テ大隊區司令官若シハ司令部員ヨリ招集地迄ノ旅費ヲ受領セシトキ差出スヘキ領收證ハ第六様式ニ據ルモノトス

第二十八條 郡市長ハ招集發令二週日以内ニ左ノ各項中第一第二第三ハ當應へ第四ハ大隊區司令官へ報告スヘシ

- 一 招集應否ノ人員數
- 二 豫定ト實施ノ差及執務ノ狀況(時間ノ順序ニ記ス)
- 三 將來改良ニ關スル意見

四 招集剩余人員表

(様式ハ總テ畧ス)

○國民兵招集ニ關スル手續 明治二十八年四月十六日 (郡市) 訓第一〇號

國民兵招集ノ場合ニハ本縣國民兵招集事務細則ノ外尙ホ左ノ各項ニヨリ取扱フヘシ

- 一 應召員ハ町村長ヲシテ引纏メ集合地ニ至リ出張ノ郡書記へ連名簿及不應召員事由書ト共ニ交付セシムヘシ
- 一 郡書記ニ於テ前項ノ交付ヲ受タルキハ應召員ヲ連名簿ニ照合シ其欠員ナキヲ認メ名簿及書類ヲ纏メ共ニ大隊區司令官へ交付セシムヘシ
- 一 應召員引率途中傳達書ヲ紛失セシモノアルトキハ町村長若シハ郡書記ノ證明書ヲ以テ之ニ代ヘシムヘシ
- 一 町村長ヲシテ傳達書配布ニ際シ國民兵召集規則第十二條第二項ノ違犯者ヲ生セサル様注意セシムヘシ

三百三十七

一國民兵集落地所在ノ郡ニ在テハ検査所準備等諸事大隊區司令部員ノ協議ニ應
シ便宜ノ取扱ヲナスヘシ

一前項集落地ニ於テ身体検査並ニ旅費支給上ニ就テハ郡書書記及町村長ヲシテ
大隊區司令部員ノ協議ニ應シ便宜ノ取扱ヲナシムヘシ

○町村役場ニ於テ兵種名簿整理ノ件 明治二十二年十一月 十一日訓令第百八號 (郡)

陸軍召集條例事務取扱上ニ付テハ明治廿年十二月訓令第百五十二號第百五十三
號廿一年二月同第十八号全年五月全第五十三號ヲ以テ訓令致置候間監督方行届
候事ナレヒ願フニ町村役場兵籍整理上當該吏員新任ニシテ自然取扱方不慣ヨリ
若シ不整理ノ爲招集ノ場合狼狽其手續ヲ錯雜候様ノ事アリテハ軍機ヲ失シ不容
易之義ニ付各役場ニ於テハ常ニ能ク各兵種名簿等ヲ整理シ召集ニ臨ミ諸事不都
合無之様部下町村長へ精々注意サシムヘシ

○第一師團復員規定 明治二十八年六月五日 (郡市町村警)

第一師團復員ニ關スル規定左ノ通り定メラル

第一師團復員規定

第一章 通則

第一條 本規定ハ充員事務ニ空隙ヲ生セシメス復員ノ順序ヲ確實ニシ且ツ飯郷兵
員ノ名譽ヲ保護スルヲ以テ目的トス

第二條 前條ノ目的ヲ達スル爲ノ各部隊ニ於テ飯郷兵員へ對シ本規定ノ趣旨ヲ教
示セシメラル

第三條 復員ハ諸部隊諸縦列共野戰師團長ノ令達ニ因テ施行ス
時機ニ因リ諸部隊諸縦列ヲ各別或ハ逐次ニ復スルコトアルヘシ

第四條 待命員ハ復員ノ令達ト全時ニ其資格消滅ス

第五條 復員ノ令達アルトキハ直チニ動員當時ノ召集區分ニ從ヒ召集準備事務ニ
着手シ一ヶ月間ヲ期シ完成スヘシ

第六條 復員ニ關スル文書ハ發送ノ時間並ニ復員ノ二字ヲ朱記シタル送達封筒ヲ
用ユル等總テ迅速確實ナル方法ニ依ルヘシ

第七條 復員名簿並ニ事故者(入院患者及死亡者)ノ名簿ハ飯郷兵員ノ調査及直チニ着手スヘキ召集準備事務ニ關スル諸名簿ヲ整理スル等ノ用ニ供ス

第八條 復員ノ令達(第一様式)アルトキハ其旨一週間揭示(第二様式)スヘシ

第九條 復員ノ令達アルトキハ各部隊ニ於テ下士以下ニ在ツテハ飯郷令狀第三様式ニ處要ノ記入ヲナシ各自ノ手帖ト共ニ本人ヘ附與シ飯郷セシメラル

第十條 前條飯郷兵員ハ二十四時間以内ニ復員地ヲ出發シ飯郷ノ上ニ同時内ニ歸郷令狀裏面右方欄外ニ到着時間ヲ記入シ本人居住地市役所町村役場ヘ差出スヘキモノトス

第十一條 歸郷兵員ニハ戰ニ於テ着用ノ絨服ヲ支給セラレ歸郷迄ハ着用スルモノトス

第二章 郡市役所事務

第十二條 縣知事ヨリ復員ノ令達アルトキハ速ニ之ヲ揭示シ並ニ町村長ヘ達スヘシ復員結了ノ令達アリタルトキモ同様達スヘシ

第十三條 監視區長ヨリ復員並事故者名簿送付アリタルトキハ速カニ之ヲ謄寫シ町村長ニ送付スヘシ

第十四條 町村長ヨリ歸郷令狀並ニ未歸郷者(復員名簿ニ記載スル者ニシテ期日内ニ歸郷セサル者)ノ人名ヲ報告シ來リタルトキハ復員名簿ニ照較シ歸郷令狀ト共ニ監視區長ヘ送付スヘシ

前項未歸郷者ノ人名ハ速カニ警察署若クハ警察分署ヘ通報スヘシ
市役所ニ在テハ直チニ前二項ノ取扱ヲナスヘシ

第十五條 豫備後備下士兵卒服役條例第十六條ノ制裁ヲ受ケタルモノアルキハ其人名ヲ本人所管大隊區司令部ヘ報告スヘシ

第十六條 復員結了ノ令達アルキハ令達ノ日ヨリ十五日以内ニ歸郷兵員ノ狀況ヲ取調縣廳ヘ報告スヘシ

第十七條 市役所ニ在テハ前數條ノ外尙町村役場ノ爲メ規定シタル各條ヲ適用スヘシ

第三章 警察署警察分署

第十六條 縣知事ヨリ復員ノ令達アルキハ速カニ之ヲ揭示シ並ニ巡查駐在所全派

出所へ達スヘシ軍用旅舎へハ前項全時通達シ標旗標燈ヲ掲出セシムヘシ

第十九條 兵員歸郷ノ途中故ナク期日ニ遅ル、者アルキハ之ヲ制止シ且ツ其人名
ヲ本人所管ノ大隊區司令部へ通知スヘシ

前項ノ事故止ムヲ得サルモノト認メタルキハ之レニ證明書ヲ與フヘシ

未歸郷ノ者ハ其事故ヲ取調ヘ其旨本人所管ノ監視區長ニ通報スヘシ

第廿條 河川港灣停車場等ノ要所及通行上障礙ヲ生スヘキ場所ニハ巡者ヲ派出シ
歸郷兵員ノ便宜ヲ與フヘシ

第四章 町村役場事務

第廿一條 郡長ヨリ復員ノ令達アルキハ速カニ之ヲ揭示スヘシ

第廿二條 歸郷兵員其令狀ヲ以テ届出テタルキハ之ヲ兵員名簿ニ照較シ表面右方
欄外ニ町村長ノ認印ヲ押捺スヘシ

第廿三條 到着期日後二週間ヲ過クルモ尙歸郷セサルモノハ復員名簿ニ記載スル
モノニシテ期日內ニ飯郷セサル者其人名ヲ市役所へ報告スヘシ

第廿四條 飯郷者ノ令狀ハ令達ヲ受ケシ日ヨリ二週間ノ後取纏メ郡役所へ還送ス
ヘシ

第廿五條 復員結了ノ令達アルキハ其令達ノ日ヨリ十日以内ニ飯郷兵員ノ狀況ヲ
取調郡役所へ報告スヘシ

第廿六條 飯郷兵員ニ支給セラレタル絨服ハ服役中ノヲ保存セシムルハ勿論召集
若シハ簡閱點呼ノ際ニハ着用セシムヘシ

第廿七條 豫備後備下士兵卒服役條例第十六條ノ制裁ヲ受ケタルモノアルキハ其
人名ヲ郡役所へ通報スヘシ

第一様式畧ス

第二様式畧ス

第三様式畧ス

○陸軍召集旅費時設支給場并區域 明治廿五年五月二日告示第八十二號
陸軍召集旅費支出規程第八條ニ依リ水戸市及郡役所ノ外特ニ設クル旅費支給場

所並ニ支給區域左之通リ

特設支給場所 支給區域

東茨城郡竹原村役場 竹原村 堅倉村 小川町 橋村 白河村 上野合村

西茨城郡東郡珂村役場 東郡珂村 北郡珂村 西郡珂村

久慈郡大子町役場 大子村 宮川村 黒澤村 佐原村 依上村 袋田村

生瀬村 下小川村 上小川村 諸富野村

多賀郡國分村役場 坂上村 河原字村 國分村 鮎川村 高鈴村 日立柱

日高村

鹿嶋郡中嶋村役場 中野村 波野村 豊郷村 豊津村 鹿嶋町 中嶋村

高松村 輕野村 若松村 矢田部村 東下村

河内郡牛久村役場 信太郡阿見村 中家村 東村 朝日村 河内郡小野川

村 八原村 生板村 大宮村 龍ヶ崎町 駒柴村

牛久村 岡田村 董崎村

筑波郡北條町役場 北條町 小田村 山ノ莊村 田井村 筑波町 管間村

高道祖村 作岡村 吉沼村

結城郡結城町 結城町 絹川村 江川村 中結城村 上山川村

山川村 名崎村 下結城村 明治廿五年十月十日 告示第百八十六號追加

西葛飾郡古河町 古河町 新郷村 香取村 勝鹿村 岡郷村 櫻井村

猿嶋郡幸嶋村 (同上)

猿嶋郡岩井村役場 岩井村 長須村 七重村 中川村 七郷村 弓馬田村

杓掛村 飯嶋村 神大實村

豊田郡水海道町役場 大生村 五箇村 三妻村 飯沼村 菅原村 大花羽村

豊岡村

北相馬郡守谷町役場 菅生村 坂手村 内守谷村 小絹村 長崎村

大井澤村 大野村 高野村 守谷町 高井村

稻戸井村

水戸直税分署

水戸市

○陸軍召集旅費概算表ノ件 明治二十五年四月八日 (郡市) 訓令第四十號

陸軍召集條例第六十五號ノ召集旅費概算表ハ出師準備上必要ニ候處大隊區司令部へ發送ノ期日往々遅延之向モ有之ヤノ趣ニ候得共自今必ス期日ヲ過マラサル様注意スヘシ

○陸軍召集旅費支給日時 明治二十五年四月十四日 (市) 訓令第五十號

陸軍召集旅費支出規程第十一條ニ依リ演習召集ノ旅費金ヲ支給スル日時ハ水戸直税分署長協議之上ニテ定メ各自ニ達スヘシ

○同上ノ件 明治十五年四月十五日訓令第五十一號 (郡)

陸軍召集旅費支出規程第十一條ニ依リ演習召集ノ旅費金ヲ支給スル日時ヲ定メ之ヲ各自ニ達スヘシ

○陸軍召集旅費支給取扱方 明治二十五年六月十五日 (水戸収税署) 訓令第九十號

陸軍召集旅費支給上ニ付取扱方左ノ通心得ヘシ

一 召集令狀並演習令狀所屬大隊區司令部ヨリ回送アレハ其時々水戸直税分署長へ一應送付スヘシ

一 召集區分司令部ヨリ回送アレハ其區分人名共直ニ同分署長へ通知スヘシ

一 陸軍召集旅費支出規程第一條人別簿同分署長へ回送後異動ヲ生スレハ其時々通報スヘシ

○陸軍召集旅費支出規定ノ件 明治二十六年四月二十日 (出納官吏) 訓令第二十八號

明治廿五年五月本縣令號外陸軍召集旅費支出規定第九條ノ證憑書類旅費受辨證書及其表紙并受拂計算表左ノ通改正ス

書式客ス

○陸軍召集旅費出納 官吏檢査書様式 明治廿六年三月十日 全年三月廿二日 (郡) 訓令第三十五號

陸軍召集旅費出納官吏交替ノ時ハ其時々郡長ニ於テ金櫃帳簿ヲ檢査ノ上別紙様式ノ檢定書各二通ヲ調製シ一通ハ該官吏ニ交付シ一通ハ直ニ當廳へ差出スヘシ

○陸軍召集旅費出納官吏 交替金櫃帳簿檢定様式 明治二十六年三月十七日 (水戸収税署) 訓令第三十一號

陸軍召集旅費出納官吏交替ノトキハ其時々署長ニ於テ金櫃帳簿ヲ検査ノ上別紙
様式ノ檢定書各貳通ヲ調製シ一通ハ該官吏ヘ交付シ一通ハ直ニ當廳ヘ差出スヘ
シ

書式畧ス

○海軍召集令狀日時記入方

明治二十七年七月十六日
訓令乙第三百十六號

(郡市)

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集ニ際シ召集令狀日時記入方左ノ通定ム

一召集令狀表面ノ日附ハ横須賀鎮守府發令ノ日ヲ記入スヘシ

一召集令狀裏面ノ旅費支給日時ハ仕拂命令到達ヲ期シ其日時ヲ記入スヘシ

○海軍臨時召集旅費 明治二十七年七月二十五
支出及證明手續 日訓令乙第三百廿二號

(出納官吏)

海軍臨時召集旅費支出規程ニ依リ旅費支出並ニ証明ノ手續左ノ通り定ム

海軍臨時召集旅費支出及證明手續

第一條 營内召集ニ應ヌヘキ豫備後備在任ノ軍人召集地ニ至ル旅費ハ明治二十七
年三月勅令第三十四號海軍内國旅費現則第十五條ニ依リ之ヲ算出シ第一號書式
ニ依リ概算渡ヲ以テ各自ニ交付スルモノトス

第二條 概算渡ノ旅費ハ召集地即チ横須賀鎮守府海兵團主計官ニ於テ第二書式ノ

精算書及第二號書式ノ旅行日記ヲ徴シ之ヲ前渡官吏ニ送付スルヲ以テ該官吏

右書類ニ依リ精算シ過不足ヲ追徴若シハ追給スルモノトス

前項過渡ノ場合ニ於テハ海兵團主計官ニ送付シ同主計官ニ於テハ之ヲ各自ニ交
付シ領収證書ヲ徴シテ之ヲ前渡官吏ニ回付スルモノトス

第三條 前渡官吏ニ於テ前條ニ依リ追給若シハ追徴シタルトキハ第四號書式ノ精

算支給調書ヲ製シ同時ニ明治二十六年十二月會計検査院達第三號現金前渡金仕

拂證明規程ニ依リ仕拂計算書ヲ調製シテ之ニ第一號ヨリ第四號ニ至ル証憑書類

及追給額ニ對スル各自ノ領收証ヲ添付シ仕拂命令官ニ送付スルモノトス

第四條 前渡官吏ニ於テ前渡金ニ残余ヲ生シタルトキハ明治二十三年十月大藏省

訓令第三百三十四號爲替納金取扱順序第一號書式ノ爲替納金請求書ヲ作り之ニ現

金ヲ添ヘ之ヲ金庫ニ拂込ミ爲替納金領收證書ヲ受ケタルトキハ之レニ返納書ヲ

添ヘ仕拂命令官ニ送付スルモノトス

○海軍臨時召集旅費概算表

明治廿七年七月十六日
訓令乙第三百十五號

(郡市)

海軍臨時召集旅費支出規程第一條召集旅費概算表式左ノ通り定メラル

但本年ニ限り既ニ製表差出濟ノ分ハ更ニ本表式ニ依リ調製スルニ及ハス
(書式略ス)

○海軍召集旅費ノ件 明治二十七年七月廿五日
官第五十六號

(水戸収税署)

海軍臨時召集旅費仕拂命令到達ノ際ハ直ニ其旨(到達ノ日時ヲ記シ)水戸市長へ
通報スヘシ

○徵發事務取扱心得 明治二十三年十月二日縣令乙第九號

明治廿一年本縣令乙第十三號徵發事務取扱心得左之通改正ス

徵發事務取扱心得

第一條 陸海軍官憲ヨリ徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ縣廳へ届出ヘシ町村長ニ於
テハ同時ニ郡長へモ報告スヘシ

第二條 徵發區トナリタルトキハ其物件供給便宜ノ郡市ニ賦課ス郡長ニ於テハ物

件需用地ノ最寄町村ニ賦課スヘシ

第三條 郡ノ徵發區トナリタルトキハ其物件ノ供給ヲ物件需用地最寄ノ町村ニ賦
課スヘシ前條并ニ本條ノ手續ヲ履行シタル時ハ郡長ハ直チニ其賦課ノ町村名ヲ
縣廳ニ報告スヘシ

第四條 市又ハ町村ノ徵發區トナリ其物件ノ供給ヲ受ケ若シハ前條ノ賦課ヲ受ケ
タルトキハ直チニ之カ準備ヲナスヘシ

第五條 前三條ノ物件其數ニ不足アル時ハ速ニ縣廳ニ届出ヘシ町村長ニ於テハ同
時ニ郡長へモ報告スヘシ

第六條 徵發事務條例第廿一條ニ據リ調製スル徵發物件表ハ三箇年毎ニ調製シ翌
年二月廿日迄ニ縣廳へ差出スヘシ但用紙ハ美濃紙又ハ延紙ヲ以テスルモノトス
以下之ニ準ス

第七條 郡市長ハ三箇年毎ニ徵發事務條例附録第三號二三表ノ雛形ニ準シ製表シ
翌年二月廿日迄ニ縣廳へ差出スヘシ但前條并ニ本條三箇年ハ廿三年十二月調チ

以テ第一回トシ廿五年十二月調ヲ以テ其二回トシ爾後之ニ準ス

第八條 郡市長ハ徵發事務條例附錄第五號ノ一二表雛形ニ準シ汽船表ヲ調製シ毎年二月廿日迄ニ縣廳ヘ差出スヘシ

第九條 前三條ニ據リ調製シタル諸表ノ副本ヲ郡市役所ニ備置キ毎月一回其増減ヲ明記シ臨時供給ノ便宜ニ供スヘシ

第十條 郡市長ハ其所管内ニ於テ新ニ構造シ若シハ買入タル登簿噸數百噸以上ノ汽船アリタルトキハ徵發事務條例附錄第五號ノ三表雛形ニ準シ調製シ其時々縣廳ヘ差出スヘシ

第十一條 郡市長及町村長ハ徵發令第十二條第十三條ノ各項中郡市町村ニ賦課セラルヘキ物件ハ平常ノ賃價材料及代價等ヲ平時ニ於テ取調置キ徵發事務條例第五十一條ノ場合ニ臨ミ不都合ナキ様注意スヘシ

第十二條 徵發令第八條及徵發事務條例第四十一條ニ依リ各徵發區ニ於テ徵發スヘキ便宜ノ方法ヲ豫定シタルトキハ縣廳ヘ(町村長ハ郡役所ヲ經テ)具申スヘシ

第十三條 徵發物件表調査方便概左ノ各項ニ據ルヘシ

第三號ノ一表

一家屋書内戸數ハ現在軒數ヲ掲シヘキモノニシテ其軒數トハ官衙寺院學校製造所水車場倉庫厩病院ヲ除ク外人ノ現在住居スルト否トニ拘ハラズ市町村内ニ現在スル家屋ノ棟數ヲ云フ又家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市役所町村役場等ニ使用スルモノモ本畫ニ算入スヘキモノトス

同總坪數ハ家屋ノ總坪數ヲ記入ス又家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市役所町村役場等ニ使用スルモノヲ除キ計算スヘキモノトス

二官衙畫ハ官署及市役所町村役場等ノ箇數ヲ記入スヘキモノトス

三寺院畫内軒數ハ寺院内ニ堂廡幾棟數アルモ之ヲ分別ヒ一寺院ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス

同總坪數ハ各寺院ノ總坪數ヲ合算ス又木院ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市役所町村役場等ニ使用スルモノヲ除キ計算スヘキモノトス

四學校書内軒數へ學校内ハ教場寄宿舎等幾棟アルモ之レヲ分別セス一學校ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス

同坪數ハ各學校ノ總坪數ヲ合算スヘキモノトス

五製造所ハ公立私立ノ別ナク又製造物品ノ種類如何ニ拘ハラズ總テ掲クヘキモノトス但シ官立ニ係ルモノハ官衙ノ箇數ニ記入スヘキモノトス

六水車場ハ水車及蒸氣器械ノ別ナク一日一石以上ヲ搗春スル箇數ヲ記入スヘキモノトス

七病院書ノ内軒數ハ病院内ニ病室幾棟アルモ之ヲ分別セス一病院ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス

八日本形船舶書内解漁小廻ノ書へ日本形船舶五十石未滿及倉庫船水田耕作用船及水災豫備船ヲ算入シ漁船ニ非サル西洋形船舶廿噸以上ハ五十石以上ノ書へ廿噸未滿ハ解漁小廻ノ書へ朱書列記スヘキモノトス但游船渡船塲用船ハ表上スルニ及ス

九醫師及職工ノ順序ハ表式ノ順序ニ從ヒ記入ス職工ハ他ノ職工ヲ混入セス表式ニ記載シタル職工ニ限り記入スヘキモノトス但一名ニシテ兩業ヲ兼ヌルモノ暨ハハ木挽職ニテ柚職ヲ兼ヌルモノハ木挽職何名柚職兼業ト記入シ柚職何名ノ内ノ算入セサルモノトス又表式職工中其郡市ニナキモノハ其ナキヲ記スルニ及ハス

第三號ノ二表

- 一乘馬ハ現在乘馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ乘馬ニ役セシモノハ現今駕馬耕馬ニ役スルモノト雖モ馬乘ノ書へ記入スヘキモノトス
- 二駕馬ハ現在駕馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ駕馬ニ役セシモノ（現在乘馬ハ除ク）ハ現今駄馬ニ役スルモノト雖モ駕馬ノ書ニ記載スヘキモノトス
- 三駄馬ハ現在駄馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ駄馬ニ役セシモノ（現在乘馬駕馬ハ除ク）ハ現今耕馬ニ役スルモノト雖トモ駄馬ノ書ニ記載スヘキモノトス

第三號ノ三表

- 一 玄米ハ陸米糯米トモ算入スヘキモノトス
- 二 漬物ハ澤庵ヲ記入スヘキモノトス
- 三 一樽ハ四斗入りヲ以テ計算スキモノトス

○平均物價取扱市場指定 明治十九年十月五日縣令丙第卅一號(郡)
 徵發事務條例第四十九條平均物價受調市場左記之通指定ス其所管郡長ハ別紙雜
 形ニ據リ毎年二月十五日迄ニ製表差出ス可シ

但シ明治十八年郡乙第廿六號達ハ廢止ス

- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|-----|
| 久慈郡 | 太田町 | 東茨城郡 | 上市下市 | 那珂郡 | 湊町 |
| 西茨城郡 | 笠間町 | 眞壁郡 | 下館町 | 結城郡 | 結城町 |
| 豊田郡 | 水海道驛 | 西葛飾郡 | 古河町 | 北相馬郡 | 取手驛 |
| 新治郡 | 土浦町 | 石岡町 | | | |
- 書式畧ス

○徵發馬匹現在表 明治廿六年六月十五日訓令乙第九十七號(郡市)

第一師團徵發馬匹事務細則ニ依リ五月一日現在ノ豫算調ヲ以テ徵發馬匹現在表

(細則第一書式ニ準)ヲ作り毎年二月一日迄ニ差出スヘシ

○徵發費用負擔ノ件 明治二十六年三月六日訓令第二十四號

徵發令ニ依リ市町村ノ徵發區ニ於テ負擔スヘキ費用ハ各其市町村會ノ議定ニ付
 スヘキ義ト心得ラルヘシ

○蹄鐵工住居姓名表差出方 明治二十六年五月十五日 (郡市)

訓令乙第四十八號

第一師團徵發馬匹事務細則ニ依リ五月一日現在ノ豫算調ヲ以テ其管内ニ現在ノ
 蹄鐵工(豫備役及後備役ニ在ルモノハ豫備役後備役ノ肩書ヲ附シ)ノ住居姓名表
 (細則第二書式ニ準)ヲ作り毎年二月一日迄ニ差出シ其後ノ異動ハ十月廿日限り
 差出スヘシ但本年ニ限り本文ノ期限ハ六月一日迄トス

○獸醫雇入規定 明治二十六年六月十五日 (郡市町村)

訓令甲第十二號

第一師團獸醫雇入規定該團ニ於テ別冊之通り定メラレ候條本規定ニ依リ取扱フ
 ヘシ (別冊)

第一師團獸醫雇入規定

三百五十八

- 第一 本規定ハ第一師團徵發馬匹事務細則ニ準シ戰事若クハ事變ニ際シ獸醫雇ノ件ヲ規定スルモノトス
- 第二 府縣知事ハ徵發事務細則第十三條ノ手續ヲ以テ其管下現住ノ獸醫ニシテ本規定ニ據リ雇入ニ應スヘキ者ノ住所姓名并ニ各自前年度ノ營業所得金高ヲ師團長ニ通牒ス
- 第三 師團長ハ第二條ノ人員ヲ各最寄團隊ニ配賦シ二月十五日迄ニ之ヲ各團隊長ニ告達シ且ツ府縣知事ニ移牒ス
府縣知事ハ更ニ之ヲ本人ニ通達ス
- 第四 團隊長ハ配賦セラレタル獸醫ノ中ニ就キ其所要人員ニ應シテ任意ノ者ト契約シ四月盡日迄ニ其人員ヲ師團長ニ報告スヘシ
但シ過員ハ豫備員ト定メ置クヘシ
- 第五 雇入ニ應スル獸醫ニハ應召申左ノ日給及旅費ヲ給ス

但シ應召申ノ器具食料ハ官給トス

日給 各自前年度營業所得金高ノ日割ヲ基トス

旅費 汽車汽船ハ下等賃金其他ハ陸路一里金十錢

第六 雇入ニ應スヘキ獸醫ハ其府縣知事ヨリ告示ノ團隊長ト契約シ第一書式ノ誓約書ヲ出シ且居住地ノ市區町村長ニ其寫ヲ添ヘ届出ヘシ

但代人ノ第四條豫備員中可成本人住居ト最近地ニ居住スル者ヲ撰フヘシ旅行又ハ疾病二週日以上ニ亘ルモノモ亦前項ニ準シ届出ヘシ

第七 團隊長ハ獸醫ト契約了レハ其雇入書(第二書式)ヲ本人居住地ノ市區町村長ニ送附シ市區町村長ハ之ヲ保管シ且裏書旅行里程ノ證明ヲナス

第八 戰時若クハ事變ニ際シ契約獸醫ヲ雇入ルハ雇入書ヲ以テ市區町村長ハ蹄鐵工徵發ノ令ヲ受ント同時ニ雇入書ヲ本人ニ送達ス其手續ハ徵發馬匹事務細則第廿六條ニ同シ但本人第六條第二項ノ届出ヲ爲セシ後ニ在テハ其代人ニ送達スルモノトス

第九 獸醫若シハ其代人雇入書ヲ受ケタルキハ其受領ノ時刻ヨリ六時間以内ニ出發シ速達ノ方法ヲ用ヒ(一晝夜少クモ十六里詰)豫約ノ場所ニ參着シ其雇入書ヲ差出スヘシ

本人二週日以内ノ旅行又ハ疾病ノ際雇入書ヲ受ケタルキハ本人若シハ家族ハ直チニ其代人ニ之ヲ送達スルノ責任ヲ有ス

第十 豫約獸醫他府縣ニ轉住セシキハ新住地市區町村長ノ與書ヲ以テ各自豫約ノ團隊長ニ契約取消ヲ由出又舊住地市區町村長ヘ其旨届出ツヘシ

同府縣内ノ轉住ニ在テハ新住地市區町村長ノ與書ヲ以テ豫約團隊長並ニ舊住地ノ市區町村長ニ其趣ヲ届出テ新住地市區町村長ハ雇入書ノ住所及里程ヲ訂正ス

第十一 豫約獸醫ノ代人他府縣ニ轉住セシキハ本人ハ速ニ第六條但書ノ主旨ニ原ツキ他ノ代人ヲ撰定シ其趣ヲ豫約團隊長并ニ居住地ノ市區町村長ニ届出ツヘシ
代人同府縣内ノ轉住ニ在テモ本人ヨリ之ヲ豫約團隊長并ニ居住地市區町村長ニ届出ツヘシ

第十二 豫約獸醫他府縣ヘ轉住セシキ團隊長ハ直チニ其豫備員中ヨリ補欠スヘシ
其手續ハ第四條及第七條ニ同シ

第十一條第二項ノ場合ニ於テ團隊長ハ豫約獸醫代人ノ居住地遠隔ノ爲メ不便ト認ムルキハ本人ヲシテ他ノ代人ヲ撰定セシムルヲ得
書式畧ス

○獸醫姓名住所所得金高調ノ件 明治二十六年六月十日訓令甲第十三號 (郡市町村)

明治二十六年六月本縣訓令甲第十二號第一節團獸醫雇入規定ニ基キ其管内ニ現住ノ獸醫ニシテ雇入ニ應スヘキ者ノ住所姓名(豫備役後備役ニ在ルモノハ其雇書ヲ付シ)及各自前年度ノ營業所得金高市町村長ヘ差出シ取調町村長ハ毎年一月廿五日限り郡長ヘ差出シ郡市長ハ二月一日迄ニ當廳ヘ差出スヘシ

但本年ニ限り本文期限町村長ヨリ郡長ヘハ六月廿日迄郡市長ヨリ當廳ヘハ同日廿四日迄トス

○訓令甲第二十號 明治廿六年九月廿一日

明治廿五年本縣令乙第十一號平時演習ニ於テ要スル借上馬匹取扱規則左ノ通改
正ス

第一師團借上馬匹取扱規則

第一章 總則

第一條 本規則ハ平時演習ニ於テ馬匹借上ノ爲メ地方役所(郡區市役所町村役場
以下皆同シ)及ヒ軍部ノ取扱ヘキ事項ヲ規定スルモノトス

第二條 借上馬匹ヲ分ツテ乘馬鞍馬駄馬ノ三種トス本書ハ專ラ駄馬借上ニ係ル手
續ヲ記載スト雖ヒ乘馬鞍馬借上ノ手續モ亦之ニ準ス可シ

第三條 借上馬匹ニ係ル文書ノ往復檢査結約解雇金錢收支決算其他ノ事務ヲ掌理
セシムル爲メ馬匹借上毎ニ預メ借上馬匹委員ヲ定ム其組織概テ左ノ如シ

將校 委員首座 一人 獸醫官 委員 一人 軍吏 委員 一人

其他助手トシテ下士兵卒若干名ヲ附スルコトアリ

但シ委員中獸醫官ヲ欠クトキハ地方獸醫ヲ雇用シ又軍吏事故アルトキハ陸

軍書記ヲ用フルコトアリ

又別ニ佐官一名ヲ以テ委員長トナシ各借上地ノ委員ヲ管理セシムルコトア
ルヘシ

第四條 委員ヲ欠ク部隊ニ在テハ其隊長若クハ隊長ノ定ムル將校並ニ同相當官委
員ノ事務ヲ取扱フモノトス

第五條 借上馬匹委員借上若クハ解雇ノ爲メ馬匹檢査ヲナストキハ借上地ノ役
所吏員(郡市區役所町村役場ノ吏員以下皆同シ)ハ成ルヘク其場ニ立合ヒ委員ト
共ニ檢査ヲ行フモノトス

第二章 賃金及ヒ手當

第六條 馬匹及ヒ口附人ノ賃金日額(馬匹ト人夫トヲ區別シ)ハ地方ノ物價人民生
活ノ度ヲ酌量シ委員ト地方役所トノ約束ノ額ニ依リ借上ノ當日ヨリ解雇當日迄
之テ下附ス

第七條 借上ノ際檢査上不合格ノ馬匹ニハ歸郷手當トシテ一日人馬賃金ノ半額ヲ

給ス

第八條 解雇ノ時ハ其翌日ヨリ販郷手當(解雇地ヨリ本人居住地迄以下皆同シ)トシテ十里(五里以上ハ十里ト見做ス以下皆同シ)毎ニ一日人馬賃金ノ半額ヲ給シ五里未滿ハ同上四分ノ一額ヲ給ス(一里未滿ハ給セス)

但シ解雇當日中ニ検査ヲ終ラスシテ翌日ニ涉ルルハ一日人馬賃金ノ半額ヲ給スルモノトス

第九條 借上中ハ馬込飼料(一日麥四升其他藁秣等ハ地方ノ便宜ニ依リ給ス)口附人食料ハ官給トス但シ時トシテ規定ノ食料宿泊料ヲ賃金ニ合セテ支拂ヒ自辨セシムルコトアリ

第十條 借上馬匹斃死若クハ永久使用ニ耐ヘサルニ至ルトキハ總テ預定價ヲ以テ買上ル者トス然トモ一時ノ疾病若クハ創傷ニシテ買上ヲ要セサルトキハ預定價額以内ノ手當金ヲ給シテ解雇スルモノトス右ノ手當金ヲ定ムルニハ通常各委員及ヒ借上地ノ吏員各別ニ評價シ其平均高チ以テスルモノトス

但シ臨時解雇ノ際ハ此限ニアラス

第十一條 解雇ノ際口附人夫正當ノ原因ニヨリ疾病若クハ負傷ノ者アルトキハ醫官(地方醫師)ノ診斷ニ據リ左表ニ準シ委員及ヒ吏員等差ヲ定メ保護手當金ヲ給ス 書式零ス

又口附人正當ノ原因ニヨリ癡疾ニ至ルルハ委員及地方吏員特別ノ詮議ヲナシ救助金ヲ附與スルコトヲ得然ルルハ委員ハ其事由ヲ悉シテ預シメ師團長ノ認可ヲ受ク可シ

第十二條 總テ馬匹附属具ノ破損修理料ハ給セス但シ正當ノ原因ニヨリ特別ノ事由アルモノハ委員ニ於テ臨機相當ノ手當ヲ給スルヲ得

第十三條 馬匹ノ借上或ハ其他ノ場合ニ於テ口附人ヲ解雇シ若クハ之ヲ解雇地ヘ召集スルル共ニ手當トシテ十里毎ニ人夫ノ賃金日額ヲ給シ五里未滿ハ全上半額ヲ給ス(一里未滿ハ給セス)

第十四條 馬主口附人若クハ馬主總代人解雇ノ際検査ヲ受ケ之ヲ承諾シテ一旦檢

查場ヲ退キタル後ハ如何ナル事故出來スルモ決シテ採用セサルモノトス

第十五條 第三條但シ書ノ地方獸醫雇入ル、キハ一日賃金五十錢ヲ給ス若シ特ニ
検査地ニ宿泊ヲ命スルキハ一日賃金七十錢ヲ給ス

第三章 地方ニ係ル事務

其一 集合及解雇

第十六條 馬匹借上地ノ地方役所ニハ豫メ左ノ諸件ヲ通知ス

一 借上馬匹委員首座ノ官姓名

二 借上馬匹ノ集合地及其日時

三 借上ヘキ馬匹ノ種類並ニ員數

第十七條 前條ノ通知ヲ受ケタル地方役所ハ委員出張マテニ左ノ各項ヲ取扱フモ
ノトス

一 最近ノ町村ニ就キ借上馬匹ノ調査ヲナシ合格ノ見込アル馬匹ノ中ヨリ可成
集合地ニ近キモノヲ以テ其要數ヲ充タスノ準備ヲナスコト但シ馬匹ハ牡馬

(時宜ニヨリ牡馬)ニシテ年齢五歳ヨリ滿十五歳マテ可成体格肥大惡癖ナキ者
又駄馬ハ少クモ二十五貫目ノ重量ヲ負擔シ鞍馬ハ五十貫ノモノヲ輓キ得ルヲ
要ス

馬主若クハ口附人ハ年齢十七年以上五十年以下ニシテ馬匹ニ馴レ白知不具ニ
アラヌシテ勞働ニ耐ユル者ニ主任ノ吏員ヲ定メ置クコト

第十八條 行軍途中等ニテ臨時馬匹ノ補欠ヲ要スルキ委員ヨリ其借上ヲ地方役所
ニ依頼スルキハ第十七條ニ準據シ直ニ其取扱ヲナスモノトス

第十九條 解雇ノ際ハ委員ヨリ解雇地解雇日時ヲ豫メ借上地ノ地方役所ニ通知ス
然ルキハ該役所ハ其日限ハ解雇地ニ到着シ得ル如ク吏員ヲ差遣シ又口附人ヲ使
用セサル場合(輸卒ヲシテ馬匹ヲ牽カシムルキ)ニ於テハ該役所ハ普チク馬主ニ
解雇日時及ヒ解雇地ヲ通達シテ其日限迄ニ解雇地ニ參着セシムヘシ若シ馬主正
當ノ理由ナクシテ指示ノ日限ニ解雇地ニ參着セサルキハ馬匹ヲ解雇地ノ地方役
所ニ預ケ置キ其費用ハ馬主ヲシテ辨償セシムルモノトス

其二 金錢ノ収支

第二十條 借上馬票貸金手當金等ノ支拂チ地方役所ニ依頼スルキハ左ノ條項ニ準シ取扱フモノトス但シ地方役所ニ依頼シ難キ場合ニ在テハ委員ノ手續及ヒ馬主總代人若シハ口附人ノ爲ス可キ手續モ亦之ニ準スヘシ

第廿一條 貸金支拂ハ借上期満解チ雇スルキハ馬票受領乙證票(第六書式)ト引換ヘ支拂フモノトス

第廿二條 馬主前條ノ期ニ先チ止ムチ得サル事故チ以テ若干ノ貸金下渡チ請求スルキハ時宜ニ依リ之チ下渡スコトチ得然ルキハ地方吏員若シハ馬主ニ下附シ馬票受領證票ニ其金額チ記入シ之ニ捺印セシム可シ

第二十三條 總テ解雇ノ時委員ハ馬票受領證票ニ解雇月日等チ記入シタル後乙證票チ地方吏員ニ交附ス地方吏員ハ使用日數ニ應スル貸金及手當金チ計算シ總人馬ノ金手當金チ合計シタル受領證書(第一書式)チ作之ニ乙證票チ添ヘ支拂チ委員ニ請求ス可シ

第廿四條 口附人ナキ馬票チ臨時解雇スルキハ其貸金並ニ手當金ト共ニ之チ最寄地方役所ニ依リシ其馬主ニ引渡サシム此場合ニ於テ被托役所ヨリ馬票預證第四書式並ニ金員受領證第一書式チ徴シ又解方役所ハ馬主ヨリ出ス借上馬票受領乙證票ト引換ニ馬票並ニ貸金チ馬主ニ渡シタル後證票ハ直ニ即團司令部ニ送達ス可シ

第廿五條 馬票斃死シ若シハ廢馬トナリ之チ買上ケルキハ地方吏員ハ買上預定價格ニ依リ受領證書第二書式チ作り支拂チ委員ニ請求ス可シ

第廿六條 地方吏員ニ依頼シ廢斃馬チ賣却シタルキハ現金ニ第三書式ノ納金證チ添ヘ之チ委員ニ廻送ス可シ

第廿七條 雇入獸醫ノ貸金ハ借上若シハ解雇ノ檢査終リタル後地方吏員受領證書チ作り支拂チ委員ニ請求スヘシ

其三 口附人ノ心得

第廿八條 左ノ箇條ハ地方委員ヨリ嚴重ニ馬主若シハ口附人ニ諭達スヘシ

其二 馬匹借上中各部隊へ附屬シ輜重監視人ノ差圖ヲ以テ誠實ニ荷物ヲ運搬スルヲ

其二 借上中各軍隊ノ命令ヲ守リ自己ノ勝手ナル所業ハ嚴禁ノヲ

其三 口附人ハ馬匹ノ疾病ニ罹ラサル様注意シ若シ鞍傷其他疾病ニ罹リタルキハ直ニ輜重監視人ニ届出ルヲ

其四 口附人ノ不注意ヨリ生シタル疾病ハ仮令廢斃ニ至ルモ自辨タル可キヲ

其五 口附人ニ帽並ニ法被ヲ貸與シタルキハ丁寧ニ着用シ若シ自己ノ不注意ニ依リ遺失破損セシキハ自償セシムルヲ

其六 馬沓(一日ニ凡ソ六足)並ニ草鞋ハ凡テ自辨ノヲ

其七 總テ解雇ノ際在郷ノ馬主馬匹受領ノ爲メ地方役所ヨリ解雇地及ヒ解雇時日ノ通知ヲ受ケタルキハ其日限ニ後レサル如ク解雇地ニ參着シ委員或ハ地方吏員ニ届出テ馬匹受領乙證等ヲ示シ其差圖ヲ受ケルヲ

其八 馬受領乙證票ハ口附人ニ於テ保存シ解雇ノキ委員ニ差出スヲ

其九 委員ヨリ渡ス馬匹番號ハ紛失セサル様注意スルヲ

第廿九條 馬匹検査ノ爲メ地方吏員ヨリ集合ヲ命シタル馬主ニハ左記ノ馬匹名簿並ニ物品ヲ持參セシム可シ 書式畧ス

第三十條 口附人若シハ馬匹ハ借上中正當ノ原因ニヨリ疾病ニ罹リ尙ホ使用ニ堪ユルモノハ所屬部隊ニ於テ治療ヲ受ケルコトヲ得

第四章 軍部ニ係ル事務

其一 借上

第三十一條 馬匹受領證票馬匹番號札並ニ口附人ノ帽及ヒ法被ハ委員之ヲ検査場ニ携行ス可シ

第三十二條 委員ハ地方吏員ニ諮リ馬匹検査場ヲ定メ地方吏員ト共ニ馬匹及ヒ持參物品ヲ検査シ合格馬匹ニハ預定買上價格ヲ定メ馬匹ニ番號札ヲ附着シ(番號ニハ地名ノ一字ヲ冠ス原第何號等ノ如シ)馬匹受領證票ノ各項(解雇月日使用日數解雇地名ハ解雇ノキ記入ス)ヲ記入ス

第三十三條 豫定買上價格ヲ定ムルニハ馬主ノ出シタル價格ニ依テ之ヲ定ム若シ
不相當ト認ムルキハ各委員及ヒ地方吏員各別ニ評價シ之ニ馬主ノ價格ヲ加ヘ其
平均高キ以テス但シ特別ノ場合ニアラサレハ駄鞍其他屬具ハ買上豫定價格ヲ定
ムルコトナシ

第三十四條 馬匹受領甲證票ハ委員之ヲ所持シ乙證票ハ口附人ニ下附ス可シ總テ
甲乙兩證票ニハ同一ノ事項ヲ同時ニ記載スヘキモノトス

第三十五條 臨時馬ノ借上ヲ要スルトキハ前諸條ニ準シ取扱フ可シ

第三十六條 合格馬匹ハ各部隊ニ區別シ之ニ馬匹名簿第五書式ヲ添ヘ各部隊ニ
引渡ス可シ委員悉皆其團體ト分離スルトキハ馬匹受領甲証其他委員ノ物件ヲ其
團體ニ引渡ス可シ

其二 解雇

第三十七條 解雇ニ當リ借上地ノ吏員若クハ口附人ヲ召集スル爲メ豫メ借上地ノ
地方役所へ解雇地解雇日時ヲ通知ス可シ

第三十八條 總テ借上馬匹ヲ解雇スルニハ馬匹一地(若シ止ムヲ得サルトキハ
敷地)ニ集合シテ検査シ馬匹受領乙證票ヲ口附人ヨリ受領シ之ニ解雇月日地名
及ヒ使用日數ヲ記入シテ地方吏員ニ下附シ總貸金手當金ノ受領證書ヲ作ラシメ
乙證票番號札貸與被服ヲ返納セシメ然ル後現金ヲ交付ス可シ

第三十九條 口付人不參ノ爲メ馬匹並貸金ヲ地方役所ニ預托スルキハ預托中ノ費用
ヲ定メ(一日二十錢ヲ日途トス)馬匹預リ証並貸金受領証ヲ受取り置クヘシ

第四十條 馬匹口付人孰レカ病氣事故アルトキハ共ニ解雇スルモノトス

第四十一條 廢斃馬ノ賣却ヲ要スルトキハ地方吏員ニ依頼シ其代金ハ納金証ト共
ニ受領スヘシ

第四十二條 同地方於テニ借上タル馬匹甚クシク散在セルトキハ時トシテ各部隊
毎ニ解雇セシムルコトアリ然ルキハ各部隊ニ於テ前條ノ手續ヲナス可シ

第四十三條 若シ借上地ノ吏員ヲ欠クトキハ解雇地ノ地方役所若クハ馬主總代人
又ハ口付人前諸條ノ手續ヲナス可シ

第四十四條 委員ハ團供上馬匹景况(馬匹種類年齢産地身長價格モ亦記入ヲ要ス) 駄鞍屬具等ニ就キ特別ノ注意ヲ爲シタル事件並ニ將來改良ニ關係スル意見ヲ演 習濟歸營後七日以内ニ其 隊長ニ報告ス可シ

書式畧ス

○兵事々務取扱方

明治廿五年十月廿八日訓令第四百九號(郡)

- 一 兵事々務取扱上左ノ諸項豫テ一層ノ注意ヲ加ヘ不都合無之様取計フヘシ
- 一 平時ニ於テ便宜臨時召集事務執行演習ヲ施行シ以テ町村長其他充員召集事務ニ關スル吏員ヲシテ其ノ手續ヲ知了セシメ有事ニ當リ蹉躓ノ虞ナカラシムヘシ
- 一 町村長ノ兵事々務取扱上ニハ一層ノ注意ヲ加ヘ就中臨時召集事務ノ如キニ至テハ兵員名簿ノ整理令狀ノ手入等定規ニ從ヒ最モ確實ニ處理セシムヘシ
- 一 箇箇點呼執行ノ際ハ町村長ヲシテ兵員名簿令狀等ヲ攜帶點呼場ヘ出頭執行官ノ檢視ニ供セシメ且ツ成ルヘク自身臨場兵員ノ情態及町村長服務整否ヲ監査シ自他ノ便益ヲ計ルヘシ
- 一 兵服役者身上異動ノ届出チ等間ニ付セサル様常ニ町村長ヲシテ注意セシムヘシ

一 徵兵令第廿條ニ該當スル者ハ町村長ヲシテ入營前ニ於テ深ク注意入營後法律ノ手續ヲ了解セサリシ等ノ事柄ヲ以テ徵兵事發條例第六十八條ニ依リ漫リニ免役ヲ出願セシメサル様爲サシムヘシ

一 來年三月ニ至ル迄ノ間ニテ大隊區司令官又ハ副官監視區長ニ於テ郡役所町村役場等ヲ巡回兵事々務ヲ視察シ併テ兵員名簿ノ照合ヲ行ナハレ其際事務上ノ不整理又ハ成規ニ違背ノ事柄等アルヲ發見スルキハ直ニ當局者ヘ注意ヲ與ヘラルヘキニ付充分注意シ不都合ナキ様致スヘシ

○兵事々務取扱方 明治廿五年十月二十八日訓令第一五〇號(市)

兵事々務取扱上左ノ諸項豫テ一層ノ注意ヲナシ不都合無之様取計フヘシ
一 臨時召集事務ハ平常ニ於テ一層ノ注意ヲナシ兵員名簿ノ整理令狀ノ手入等定規ニ從ヒ確實ニ處理スヘキハ勿論便宜臨時召集事務執行演習ヲ施行シ以テ充員事務ニ關スル吏員ヲシテ其手續ヲ知了セシメ即事ニ當リ蹉躓ノ虞ナカラシムヘシ

一簡閱點呼執行ノ際ハ兵員名簿令狀等執行官ノ檢視ニ供シ且ツ可成自身臨場兵員ノ情態ヲ觀察シ自他ノ便益ヲ計ルヘシ

一兵役服役者身上異動ノ届出ヲ等間ニ付セサル様常ニ注意ヲ加フヘシ

一徵兵令第二十條ニ該當スル者ハ入營前ニ於テ深ク注意シ入營後法律ノ手續ヲ了解セサリシ等ノ事柄ヲ以テ徵兵事務條例第六十八條ニ依リ漫リニ免役ヲ出願セシメサル様致スヘシ

一來年三月ニ至ル迄ノ間ニテ大隊區司令官又ハ副官監視區長ニ於テ巡回兵事々務ヲ觀察シ併テ兵員名簿ノ照合ヲ行ナハレ其際事務上ノ不整理又ハ成規ニ違背ノ事柄等アルヲ發見スルキハ直チニ注意ヲ與ヘラルヘキニ付豫ノ充分注意不都合ナキ様致スヘシ

○郡役所兵事擔任官姓名届出ノ件 明治十九年十月八日 (郡)

本年訓令第十四號ニ據郡役所處務細則制定セシ上ハ兵事ニ關スル事項擔任者ノ

ノ官姓名届出ヘシ但爾后命免ノ際モ本文ノ例ニヨル

○豫備後備下士卒等届書ニ付報告ノ件 明治二十三年一月二日 郡町村

明治廿二年十二月勅令第四百四十四號陸軍豫備後備下士卒卒服役條例同第四百四十五號陸軍歸休兵條例ニ據リ下士卒ノ届書同村役場ヲ經由セシ時ハ其都度事由ヲ記シ所管郡役所ヘ報告スヘシ

○陸軍士官適任證書ノ件 明治二十七年八月二日 (郡市)

明治廿七年七月陸軍達第七十九號ヲ以テ陸軍士官適任證書付與規則定ラレ候條同則第五條ニ該當シ士官適任證書ヲ返還セシムヘキ事項ニ關シ陸軍官憲ヨリ調査ノ要求ニ接シタルキハ其求ニ應スヘシ

○海軍豫備役現在人員調及表式 明治二十七年七月十三日 (郡市)

海軍豫備役後備役下士卒人員左ノ書式ニ依リ取調毎年二月十日限り報告シ爾後ノ異動ハ一月分ヲ纏メ翌月五日迄ニ報告スヘシ

但本年ニ限り本文報告期限ハ七月廿五日迄トス 書式畧ス

○徵兵參事員投票用紙 明治廿二年三月十七日縣令丙第十五號(郡)
徵兵事務條例第十二條徵兵參事員投票用紙ハ本年縣令丙第一四號縣會議員投票
用紙ニ照準調製スヘシ

○陸軍六週間現兵役取扱手續 明治廿九年三月廿五日
訓令乙第百二十九號 (郡市)
陸軍六週間現役兵取扱手續左ノ通り定ム

陸軍六週間現役兵取扱手續

第一條 師範學校卒業者ニシテ徵兵令第十三條第三項ニ依リ陸軍六週間現役ニ服
スヘキ者ノ名簿ヲ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ調製毎年四月十五日迄
ニ差出スヘシ

第二條 前條名簿差出シ後ニ於テ六週間現役ニ服スヘキ者ヲ生シタルトキハ其時
々名簿ヲ差出スヘシ但シ其ノ年五月二十日以後ニ付テハ次年ニ於テ第一條ノ名
簿ト共ニ差出スヘシ

第三條 六週間現役兵名簿差出後本人ニ係ル總テノ異動ハ其ノ都度報告スヘシ

第四條 六週間現役兵疾病事故ニテ身体検査ヲ受ケ難キモノアルトキハ市町村長
ノ奥書証印ヲ受ケ(疾病ノモノハ醫師ノ診斷書添ヘ)検査當日迄ニ大隊區司合官
ヘ届出シムヘシ

第五條 六週間現役兵疾病事故ニテ三日以内ニ入營シ難キモノアルトキハ其人名
住所ヲ報告スヘシ

第六條 身体検査ノ後敎職ヲ罷メタル者アルトキハ直チニ當廳ヘ報告スヘシ

明治三十年四月廿六日訓令乙第百十八號追加

○寄留地應召者取扱規程 明治三十年十二月廿二日縣令第五十七號
在郷陸軍々人及補充兵ニシテテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應セントスル者ノ取扱規
程左ノ通り定ム

寄留地應召者取扱規程

第一條 休職停職ノ上長官士官進士官ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應セントスル
者ハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年以上ノ男子ニ限)

ヲ定メ町村長郡長又ハ市長及聯隊區司令官ヲ經テ師團長ニ届出ツヘシ

第二條 充員召集ニ方リ集會場ニ集會スヘキ下士兵卒補充兵及郡市吏員ノ引率ヲ受クヘキ補充兵並ニ教育召集ニ應スル補充兵ニシテ便宜上寄留地ヨリ直チニ編入部隊(教育召集ニ在テハ召集部隊以下全シ)ニ到ラントスモノハ町村長郡長又ハ市長ヲ經テ聯隊司令官ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ許可ヲ請ケタル者ハ本籍市町村ニ於テ召集旅費受領人ヲ定メ豫メ之ニ委任狀ヲ渡シ置キ其住所氏名ヲ町村長又ハ市長ニ届出ヘシ前條許可ヲ受ケサル者ニシテ寄留地ヨリ直ニ編入部隊若クハ集會場ニ到ラントスルキモ亦全シ但尙其趣ヲ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四條 前條ノ届書ヲ受ケタル市長町村長ニシテ自ラ召集旅費支給ヲ爲サ、ル者ハ其地方ノ召集旅費出納官吏又ハ分任出納官吏ニ召集旅費受領人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第五條 市長町村長ハ第二條ノ許可ヲ請ケタル者ノ召集令狀ヲ召集通報人ニ送付

スルト全時ニ應召員ノ編入部隊ニ到着スヘキ期日ヲ達スヘシ

第六條 召集通報人召集令狀ヲ受領スルトキハ召集旅費受領人ニ旅費支給ノ日時及場所ヲ通報スヘシ

第七條 召集通報人召集令狀ヲ本人ニ交付スルニ方リテハ場合ニ依リ本人ニ宛テ編入部隊若クハ集會場召集事務所ニ送付スヘシ

第八條 召集旅費受領人旅費支給ノ通報ヲ受ケタルトキハ指定ノ日時ニ旅費ヲ受領スヘシ

集會場ニ集合スヘキ者ニシテ直チニ編入部隊ニ到ル者ノ集會場ヨリ編入部隊迄ノ旅費ハ編入部隊ニ於テ追給スヘシ

第九條 應召員召集ノ通報ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日ニ編入部隊所在地若クハ集會場ニ到着シ召集事務所又ハ召集部隊ニ届出ヘシ遠隔ノ爲メ指定期ノ日時迄ニ到着スルコト能ハスト認メタル者ハ出發ニ際シ寄留地町村長又ハ市長若クハ警

察官吏ニ就キ出發日時ノ証明ヲ請ケ編入部隊ニ差出スヘシ

第十條 寄留師管ノ兵籍ニ編入サレタル者及寄留地ニ於テ勤務演習ヲ爲ス場合ノ者ニハ本規程ヲ適用セス

第十一條 第一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第三條ノ届出ヲ爲サ、ル者召集ノ通報人正當ノ事由ナクシテ第六條ノ通報ヲ遲緩シタル者及召集旅費受領人正當ノ事由ナクシテ旅費ノ受領ヲ遲緩シタル者ハ五錢以上圓一九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○在郷陸軍々人名簿調製之件 明治三十年九月一日 (郡市町村) 訓令甲第廿四号

在郷陸軍々人名簿別紙書式之通り調製備置クヘシ 書式畧ス

○余人ヲ以テ代フヘカラサル 明治卅年十月廿八日 (郡市警) 訓令乙第百廿四號

陸軍豫備役後備役補充兵役第一國民兵役ニ在ルモノニシテ召集事務ヲ管掌スル官吏及公吏(官吏郡長郡市町村書記)ト爲リ戰時余人ヲ以テ代フ可カラサル者並

ニ第二補充兵役第一國民兵役ニ在ルモノニシテ市町村長助役收入役及帝國議會ノ議員タル者ハ其官名若クハ職名兵役ノ種類武官名(兵卒ハ兵種等級第一國民兵役ノモノニシテ元下士タリシ者ハ元官名又ハ兵種等級)氏名本籍住所ヲ取調ヘ毎年十一月五日迄ニ報告シ爾後翌年ノ報告期迄ニ新任轉免等ノ異動アルトキハ其都度報告スヘシ但本年ニ限り十一月十日迄ニ報告スヘシ

○徵募區寄留之者檢査ヲ受クル件 明治三十年四月十日 (郡市) 訓令乙第百號

聯隊區内他ノ徵募區ニ寄留シ徵兵事務例第五十三條ニ依リ其地ニ於テ身體檢査ヲ受クルコトヲ願出ツル者アルトキハ聯隊區司令官ニ協議シ徵募上故障ナキ者ニ限り許可スヘシ

○現役兵疾病犯罪等ノ爲メ 明治三十年四月十日 (郡市) 訓令乙第百一號

入營シ難キモノ取扱之件 現役砲兵輸卒及現役輜重輸卒ニシテ疾病犯罪等ノ爲メ入營シ難キ者ノ取扱方左之通り定メラル

但明治二十六年十月茨城縣訓令乙第二百二十號ハ廢止ス

一 疾病犯罪等ノ爲メ入營シ難キ者ハ漸次次期ニ繰下ケ入營セシメ其終期ニ於テ入營シ難キ者ハ次年徵募ノ現役兵全時ニ入營セシム

二 其年事故繼續シ若シハ再發シ次年第二期以後ニ至ルモ仍ホ入營シ難キ者アルトハ徵兵検査ノ際身體検査ヲ爲シ徵募ニ適スル者ハ前項ノ例ニ依リ取扱ヒ其徵集ニ適セサル者ハ徵集免除若シハ兵役免除ノ處分ヲ爲ス

三 入營ヲ次年ニ繰下ケタル爲メ所要人員超過スルトキハ抽籤番號ノ最モ高キ者ヨリ漸次次期ニ繰下ケ終期ニ於テ仍ホ要員ニ超過スルトキハ次年ニ繰下シヘシ

○現役免除ヲ願フ者之件 明治二十九年九月十日 (郡市町村) 訓令甲第十五號

陸軍服役條例第六十條ニ依リ現役免除ヲ願フ者其事故父兄等ノ死亡處刑若シハ失踪等ハ市町村長ノ證明書廢疾不具等ハ醫師ノ診斷書ヲ具シ其親族ヨリ本人ニ送付セシムヘシ

○徵發馬匹車輛員數調製之件 明治二十九年十二月十四日 (郡市) 訓令乙第四百廿二號

明治廿五年十二月陸軍省訓令甲第八號徵發物件表第三號ノ離形ニ據リ十二月三

十一日調徵發馬匹車輛員數表ヲ製シ毎年一月十五日迄ニ當廳ヘ差出スヘシ

○徵發物件表中調査之件 明治廿九年十二月廿五日 (郡市) 訓令乙第四百三十二號

徵發事務條例附錄第三号ノ一徵發物件表中人夫ノ欄ヘ登載スヘキ人員ハ自今豫備後備軍人及補充兵ヲ除キ調査スヘキ義ト心得ヘシ

○徵發ニ要スル費用ノ件 明治二十九年十二月四日 (郡) 訓令乙第四百十二號

徵發令ニ依リ郡ノ徵發區ニ於テ負担スヘキ費用ハ其郡會ノ議定ニ付スヘキ義ト心得ヘシ

社 寺

○神社寺院佛堂等創立再興 明治十五年十一月十三日 復舊許可ノ分建設年限 乙第四百五十一號

當縣管内各神社寺院佛堂等創立再興復舊許可ノ分ハ今後滿二年以内ニ建設スヘシ其建物巨大ニシテ工事數年ニ涉ル可キモノハ更ニ狀ヲ具シ伺出許可ヲ受ヘシ其他在來ノ社寺佛堂等變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸シタルモノハ滿五年ニ再興ヲ何レモ届出ヘシ若シ右期限ヲ經過シ建設セサルモノハ許可ヲ停メ社寺明細帳